

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	運動生理学						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバ-	N01080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	身体活動による生理機能および生活習慣病予防について						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて概説する。運動は体力の増進、健康の維持だけでなく、肥満や生活習慣病の予防や治療、さらにストレスの解消に有効で、健康増進の3原則の一つである。神経系、筋肉系及び呼吸器・循環器について学び、運動すると人間の生理機能はどう変化するかについて「運動不足病」からスポーツ選手までについて概説する。また、個体としての人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活習慣の機構並びに環境変化に対する適応機構を理解する。						
到達目標	1. 運動生理学で学習する各テーマの内容について理解し、それを他者に説明することができる。【知識・理解】 2. 将来、栄養士として、授業で得た知識を基に、対象者に適切な指導ができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	1. ガイダンス、環境への対応とストレス反応 2. 健康増進と運動 3. 運動・スポーツとエネルギー 4. 運動と筋・骨系 5. 運動と循環器系 6. 運動と呼吸器系 7. 運動と神経系 8. 運動による骨格筋収縮力の維持と改善 9. 運動と体温調節機構 10. スポーツと栄養 11. 運動負荷評価法 12. 運動処方 13. 運動療法 14. 運動障害 15. まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業での案内に従って、教科書等で事前に要点を整理しておくこと（学習時間：2時間） 授業後学習：次回の授業内で実施する小テストで、学習した内容が定着しているかどうか確認する。については、該当する教科書の部分をまとめ、整理しておくこと（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：教科書ならびに授業毎に配布するプリントとパワーポイントを用いる。						
評価基準と評価方法	運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価する。 試験：70%、小テスト：30%						
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用については厳禁とする。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	ガイドライン準拠 エキスパート管理栄養士シリーズ 運動生理学（第4版） 山本順一郎 編 科学同人、ISBN978-4-7598-1249-7						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	運動生理学						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバ-	N01080
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	身体活動による生理機能および生活習慣病予防について						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて概説する。運動は体力の増進、健康の維持だけでなく、肥満や生活習慣病の予防や治療、さらにストレスの解消に有効で、健康増進の3原則の一つである。神経系、筋肉系及び呼吸器・循環器について学び、運動すると人間の生理機能はどう変化するかについて「運動不足病」からスポーツ選手までについて概説する。また、個体としての人体が行う食事、運動、休養などの基本的な生活習慣の機構並びに環境変化に対する適応機構を理解する。						
到達目標	1. 運動生理学で学習する各テーマの内容について理解し、それを他者に説明することができる。【知識・理解】 2. 将来、栄養士として、授業で得た知識を基に、対象者に適切な指導ができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	1. ガイダンス、環境への対応とストレス反応 2. 健康増進と運動 3. 運動・スポーツとエネルギー 4. 運動と筋・骨系 5. 運動と循環器系 6. 運動と呼吸器系 7. 運動と神経系 8. 運動による骨格筋収縮力の維持と改善 9. 運動と体温調節機構 10. スポーツと栄養 11. 運動負荷評価法 12. 運動処方 13. 運動療法 14. 運動障害 15. まとめ、試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画や授業での案内に従って、教科書等で事前に要点を整理しておくこと（学習時間：2時間） 授業後学習：次回の授業内で実施する小テストで、学習した内容が定着しているかどうか確認する。については、該当する教科書の部分をまとめ、整理しておくこと（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義：教科書ならびに授業毎に配布するプリントとパワーポイントを用いる。						
評価基準と評価方法	運動生理学的知識に関する理解度を筆記試験によって評価する。 試験：70%、小テスト：30%						
履修上の注意	授業中の私語、携帯電話の使用については厳禁とする。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能とする。						
教科書	ガイドライン準拠 エキスパート管理栄養士シリーズ 運動生理学（第4版） 山本順一郎 編 科学同人、ISBN978-4-7598-1249-7						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	運動生理学実験						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバ-	N02150
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生理機能の測定						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて、運動生理学の講義に基づいて実験する。実際に運動をしている時のエネルギーと休養時における身体生理機能の違いについて、皮膚温度計や心電図、酸素量、呼気代謝測定装置などを用いて習得する。さらに、様々な栄養特性を持つ食物を摂取したときにおける運動機能や循環器系の機能を比較することにより、ヒトの生理機能に対する摂取した食物の影響について理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動生理学で学習した内容について実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】</li> <li>2. 各測定法や運動処方についての理論を理解し、実践できるようになる。【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>3. 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】</li> <li>4. グループのメンバーと協力して実施することができる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、形態測定</li> <li>2. 体力測定1（筋力、筋持久力、敏捷性）</li> <li>3. 体力測定2（柔軟性、瞬発力、全身持久力）</li> <li>4. 中高年用体力測定</li> <li>5. 体脂肪測定</li> <li>6. 血圧測定</li> <li>7. 心電図、ライフコーダーの解説</li> <li>8. 運動負荷試験1（心拍数）</li> <li>9. 運動負荷試験2（酸素摂取量）</li> <li>10. 運動負荷試験3（血圧応答）</li> <li>11. 骨量測定</li> <li>12. 運動処方1（理論）</li> <li>13. 運動処方2（体験）</li> <li>14. レポート作成</li> <li>15. プレゼンテーション（グループ発表）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理などの学習を行う。ただし、授業時間内に完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	グループごとに測定を中心とした実習であるが、必要に応じて講義も行う。						
評価基準と評価方法	総開講回数の2/3を基準に、それ以上の出席で評価（単位取得）の対象とする。 レポート：60%、受講態度：40% 受講態度：実習への取り組み、グループ発表の内容などを総合的に評価する。						
履修上の注意	実技ができる服装、シューズを着用すること。 グループワークが多いため、課題に真剣に取り組み協調性をもって参加すること。 体育館の利用状況によっては、授業計画の順序が変更することがある。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする（開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	運動生理学実験						
担当教員	塩見 玲子					科目ナンバ-	N02150
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生理機能の測定						
授業の概要	運動・スポーツ時の栄養・代謝、トレーニング時の栄養補給方法などについて、運動生理学の講義に基づいて実験する。実際に運動をしている時のエネルギーと休養時における身体生理機能の違いについて、皮膚温度計や心電図、酸素量、呼気代謝測定装置などを用いて習得する。さらに、様々な栄養特性を持つ食物を摂取したときにおける運動機能や循環器系の機能を比較することにより、ヒトの生理機能に対する摂取した食物の影響について理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 運動生理学で学習した内容について実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】</li> <li>2. 各測定法や運動処方についての理論を理解し、実践できるようになる。【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>3. 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】</li> <li>4. グループのメンバーと協力して実施することができる。【態度・志向性】</li> </ol>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、形態測定</li> <li>2. 体力測定1（筋力、筋持久力、敏捷性）</li> <li>3. 体力測定2（柔軟性、瞬発力、全身持久力）</li> <li>4. 中高年用体力測定</li> <li>5. 体脂肪測定</li> <li>6. 血圧測定</li> <li>7. 心電図、ライフコーダーの解説</li> <li>8. 運動負荷試験1（心拍数）</li> <li>9. 運動負荷試験2（酸素摂取量）</li> <li>10. 運動負荷試験3（血圧応答）</li> <li>11. 骨量測定</li> <li>12. 運動処方1（理論）</li> <li>13. 運動処方2（体験）</li> <li>14. レポート作成</li> <li>15. プレゼンテーション（グループ発表）</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験科目のため、原則として授業時間内でデータ整理などの学習を行う。ただし、授業時間内に完成できなかった人は、次回までに完成させておくこと。						
授業方法	グループごとに測定を中心とした実習であるが、必要に応じて講義も行う。						
評価基準と評価方法	総開講回数の2/3を基準に、それ以上の出席で評価（単位取得）の対象とする。 レポート：60%、受講態度：40% 受講態度：実習への取り組み、グループ発表の内容などを総合的に評価する。						
履修上の注意	実技ができる服装、シューズを着用すること。 グループワークが多いため、課題に真剣に取り組み協調性をもって参加すること。 体育館の利用状況によっては、授業計画の順序が変更することがある。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする（開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養疫学						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N04500
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養学に適用した疫学研究およびその方法論の理解						
授業の概要	食生活や健康に関する情報は日々更新されるとともに、膨大かつ錯綜している。情報を正しく活用するためには、栄養学的曝露情報とその結果となる健康事象から、両者の関係を正しく解釈することが必要である。「社会と健康」、「健康・環境論」、「保健統計・疫学」で学んだ疫学の基礎を踏まえ、栄養性曝露に重点をおいた疫学の学びを深める。さらに科学的根拠に基づいた健康施策、栄養改善施策を理解する。						
到達目標	<p>栄養関連統計と調査を概説できる。【知識・理解】</p> <p>疫学研究の方法及び食事調査法を理解する。【知識・理解】</p> <p>疫学・栄養疫学に係る指標を算出し正しく解釈できる。【知識・理解】</p> <p>管理栄養士国家試験該当範囲の問題が解ける。【知識・理解】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疫学・栄養疫学概論</li> <li>2. 疫学研究の方法</li> <li>3. 記述疫学の理論と事例</li> <li>4. 分析疫学の理論と事例</li> <li>5. 介入研究の理論と事例</li> <li>6. 疾病頻度 - 指標の算出と解釈</li> <li>7. 曝露効果の測定 - 指標の算出と解釈</li> <li>8. スクリーニング - 理論と事例</li> <li>9. スクリーニング - 指標の算出と解釈</li> <li>10. 根拠に基づく公衆衛生 (EBPH)、栄養学 (EBN)、栄養指導 (EBNG)</li> <li>11. エビデンスレベル、誤差とバイアス</li> <li>12. 栄養関連統計と調査</li> <li>13. 栄養疫学手法-理論 (食事調査と評価)</li> <li>14. 栄養疫学手法-事例 (食事調査と評価)</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol> <p>※原則として木曜3限ですが、実習との調整のため、2・3限または3・4限に連続して講義を行う場合があります。</p>						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	<p>授業前に2年次の保健統計・疫学のプリントの該当範囲を復習する。</p> <p>実習による休講期間中、指定された期日に従って松陰manabaのドリルを行う。</p> <p>疫学及び栄養疫学指標を算出できるまで繰り返し練習する。</p> <p>予習・復習各90分。</p>						
授業方法	<p>講義</p> <p>講義ポイントをまとめた配布資料の空欄 (理解・暗記が必要な個所) を埋め資料を完成させる。</p> <p>松陰manabaによるドリル、小テストを行う。</p>						
評価基準と評価方法	課題20%、小テスト40%、期末試験40%						
履修上の注意	<p>出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。</p> <p>20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。</p> <p>交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。</p> <p>実習による欠席は必ず事前に欠席届を提出すること。</p> <p>私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。</p> <p>指定教科書を準備する。</p>						
教科書	1年次の「社会と健康」、「健康・環境論」、2年次の「保健統計・疫学」で使用した教科書。適宜資料を配布する。						
参考書	<p>疫学マニュアル 改訂第7版 南山堂 ISBN:978-4-525-18357-8</p> <p>国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会</p> <p>図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6</p> <p>公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN:978-4-89632-687-1</p> <p>はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版 日本疫学会 南江堂 ISBN:978-4-524-26086-7</p>						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育実習Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N03390
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理論と技術を実践で学習する						
授業の概要	行動科学やカウンセリング等の理論と応用について実習を通じて学ぶ。アンケート調査の仕方、データ処理の方法などを学び、生活時間調査、食生活調査、身体状況の評価など、栄養教育に必要な食生活のデータを得る技術を習得する。次いでデータをもとに栄養状態を評価、問題点を明らかにし、栄養マネジメントプランを作成する方法を学ぶ。さらに栄養マネジメントを実施するための栄養カウンセリング法、教材・媒体の使い方、栄養マネジメント実施後のモニタリング、評価、フィードバックについて学び、栄養教育に必要な技術を習得する。						
到達目標	(1) 個人を対象とした栄養教育において、栄養教育プログラムを立案し、行動変容の支援ができる。【汎用的技能】 (2) 集団を対象とした栄養教育において、科学的根拠に基づいた栄養教育媒体が作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育マネジメント・アセスメントに必要な実測法（食事摂取内容、食行動など）の説明 第2回 アセスメントの方法：質問紙法、二次データの利用 第3回 栄養教育の基礎知識①：科学的根拠の確認 第4回 栄養教育の基礎知識②：教育媒体作成の基礎知識 第5回 栄養教育の基礎知識③：栄養教育媒体の作成実習 第6回 栄養教育の基礎知識④：プレゼンテーション技術 第7回 栄養教育の基礎知識⑤：コミュニケーション技術 第8回 食事摂取内容、食行動などのアセスメント 第9回 アセスメントの方法：集団面接法、フォーカスグループインタビュー 第10回 栄養カウンセリングを応用した個人面接 第11回 個人面接による目標設定と栄養教育プログラムの作成 第12回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（セルフモニタリング、オペラント強化法） 第13回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第14回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第15回 個人面接による個人の目標設定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	栄養マネジメントに必要なデータ収集、データのアセスメント、栄養教育プログラムの準備、評価に対する考察を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。 1. 個人の食事調査を行い、2人ペアになって、個人の栄養教育を行い、レポートを作成する。 2. PCで作成した教材を用いてプレゼンテーションを行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。グループのプレゼンテーションに関するレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育マネジメントの課程の理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Ⅰ・Ⅱで使用した下記の実習書と教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 1. 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 2. 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育実習Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ	N03390
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理論と技術を実践で学習する						
授業の概要	行動科学やカウンセリング等の理論と応用について実習を通じて学ぶ。アンケート調査の仕方、データ処理の方法などを学び、生活時間調査、食生活調査、身体状況の評価など、栄養教育に必要な食生活のデータを得る技術を習得する。次いでデータをもとに栄養状態を評価、問題点を明らかにし、栄養マネジメントプランを作成する方法を学ぶ。さらに栄養マネジメントを実施するための栄養カウンセリング法、教材・媒体の使い方、栄養マネジメント実施後のモニタリング、評価、フィードバックについて学び、栄養教育に必要な技術を習得する。						
到達目標	(1) 個人を対象とした栄養教育において、栄養教育プログラムを立案し、行動変容の支援ができる。【汎用的技能】 (2) 集団を対象とした栄養教育において、科学的根拠に基づいた栄養教育媒体が作成できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養教育マネジメント・アセスメントに必要な実測法（食事摂取内容、食行動など）の説明 第2回 アセスメントの方法：質問紙法、二次データの利用 第3回 栄養教育の基礎知識①：科学的根拠の確認 第4回 栄養教育の基礎知識②：教育媒体作成の基礎知識 第5回 栄養教育の基礎知識③：栄養教育媒体の作成実習 第6回 栄養教育の基礎知識④：プレゼンテーション技術 第7回 栄養教育の基礎知識⑤：コミュニケーション技術 第8回 食事摂取内容、食行動などのアセスメント 第9回 アセスメントの方法：集団面接法、フォーカスグループインタビュー 第10回 栄養カウンセリングを応用した個人面接 第11回 個人面接による目標設定と栄養教育プログラムの作成 第12回 栄養教育プログラムの実施：行動変容技法の応用（セルフモニタリング、オペラント強化法） 第13回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第14回 個人面接によるモニタリング・実施記録 第15回 個人面接による個人の目標設定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	栄養マネジメントに必要なデータ収集、データのアセスメント、栄養教育プログラムの準備、評価に対する考察を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。 1. 個人の食事調査を行い、2人ペアになって、個人の栄養教育を行い、レポートを作成する。 2. PCで作成した教材を用いてプレゼンテーションを行い、クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行う。グループのプレゼンテーションに関するレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育マネジメントの課程の理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Ⅰ・Ⅱで使用した下記の実習書と教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 1. 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4 2. 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育実習II						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N03400
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	ライフスタイル・ライフステージの栄養教育プログラムを計画、実施、評価を行う。						
授業の概要	ライフスタイルおよびライフステージに応じた個人や集団の栄養教育のあり方や方法について実習を通じて学ぶ。栄養教育実習Iで学んだ栄養カウンセリング、教材・媒体の使い方などを用いて、主に集団を対象にしたライフスタイルおよびライフステージ別の栄養教育プログラムを計画立案する。媒体等を用いながら栄養教育プログラムを実施し、実施後の評価およびフィードバックから栄養教育マネジメントの全体像について演習・実習により必要な技術の習得をする。						
到達目標	(1)個人を対象とした栄養教育において、対象者にあった栄養診断を行い、動機付け面接法、コーチング等の手法を用いて、模擬面接ができる。【汎用的技能】 (2)集団を対象とした栄養教育において、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育プログラム立案、実施し、プログラムの実施後に評価とフィードバックができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 栄養教育実習Iの復習</p> <p>(個人を対象とした栄養教育)</p> <p>第2回 評価のためのアセスメント</p> <p>第3回 アセスメントデータの分析</p> <p>第4回 前後比較デザインによる栄養教育の評価</p> <p>(集団を対象とした栄養教育)</p> <p>第5回 対象集団のアセスメント</p> <p>第6回 アセスメントデータの分析</p> <p>第7回 栄養教育プログラムの作成</p> <p>第8回 学習指導要領の作成</p> <p>第9回 学習目標を達成するための教育内容の決定</p> <p>第10回 栄養教育方法の決定</p> <p>第11回 学習目標に応じた教材・教具の作成</p> <p>第12回 栄養教育実施者の訓練</p> <p>第13回 栄養教育プログラムの実施</p> <p>第14回 栄養教育プログラムの評価</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習および復習 授業内容に関する課題の作成に関する情報収集を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。 1. 保健指導を例とした個人指導のロールプレイングを行う。 2. グループでライフステージ別の集団栄養教育を計画する。クラス全員のブレインストーミングで、企画評価を行い、グループで実施に向けた準備を行う。経過評価のための事前事後アンケートを作成する。栄養教育の実施後クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行い、各自でレポートを作成し、提出する。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、プログラム構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育プログラムに関する知識やスキルの理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする(交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない)。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Ⅱで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4						
参考書	上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を参考書として使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論(第3版)第5刷(2018年発行)』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育実習II						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N03400
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	ライフスタイル・ライフステージの栄養教育プログラムを計画、実施、評価を行う。						
授業の概要	ライフスタイルおよびライフステージに応じた個人や集団の栄養教育のあり方や方法について実習を通じて学ぶ。栄養教育実習Iで学んだ栄養カウンセリング、教材・媒体の使い方などを用いて、主に集団を対象にしたライフスタイルおよびライフステージ別の栄養教育プログラムを計画立案する。媒体等を用いながら栄養教育プログラムを実施し、実施後の評価およびフィードバックから栄養教育マネジメントの全体像について演習・実習により必要な技術の習得をする。						
到達目標	(1)個人を対象とした栄養教育において、対象者にあった栄養診断を行い、動機付け面接法、コーチング等の手法を用いて、模擬面接ができる。【汎用的技能】 (2)集団を対象とした栄養教育において、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育プログラム立案、実施し、プログラムの実施後に評価とフィードバックができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 栄養教育実習Iの復習</p> <p>(個人を対象とした栄養教育)</p> <p>第2回 評価のためのアセスメント</p> <p>第3回 アセスメントデータの分析</p> <p>第4回 前後比較デザインによる栄養教育の評価</p> <p>(集団を対象とした栄養教育)</p> <p>第5回 対象集団のアセスメント</p> <p>第6回 アセスメントデータの分析</p> <p>第7回 栄養教育プログラムの作成</p> <p>第8回 学習指導要領の作成</p> <p>第9回 学習目標を達成するための教育内容の決定</p> <p>第10回 栄養教育方法の決定</p> <p>第11回 学習目標に応じた教材・教具の作成</p> <p>第12回 栄養教育実施者の訓練</p> <p>第13回 栄養教育プログラムの実施</p> <p>第14回 栄養教育プログラムの評価</p> <p>第15回 まとめ</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	予習および復習 授業内容に関する課題の作成に関する情報収集を行う。						
授業方法	実習：個人または数人のグループで所定の実習を行う。 1. 保健指導を例とした個人指導のロールプレイングを行う。 2. グループでライフステージ別の集団栄養教育を計画する。クラス全員のブレインストーミングで、企画評価を行い、グループで実施に向けた準備を行う。経過評価のための事前事後アンケートを作成する。栄養教育の実施後クラス内のフィードバックを基に、栄養教育の評価を行い、各自でレポートを作成し、提出する。						
評価基準と評価方法	個人や集団を対象とした栄養教育の評価：50%、小テスト、レポート：30%、授業の受講態度：20% 個人や集団を対象とした栄養教育の評価：栄養教育の態度、話し方、プログラム構成や教材、さらに途中の提出物などについて総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 小テスト、レポート：栄養教育プログラムに関する知識やスキルの理解度に関する達成度。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：実習の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする(交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない)。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Ⅱで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『フローチャートで学ぶ栄養教育論実習』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN: 978-4-7679-0504-4						
参考書	上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を参考書として使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論(第3版)第5刷(2018年発行)』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 978-4-263-70623-7						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N01360
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育に関わる基礎学問領域について、概要を理解する。						
授業の概要	栄養教育論では、対象者へ栄養教育の方法を学び、実践に応用できる能力を習得することを目的とする。対象者のアセスメントに基づいた栄養教育プログラムを計画立案し、実施、評価した後、フィードバックを行うという、一連の栄養教育の方法を学び、実践的に展開できる能力を習得する。栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の意義や特性を理解し、栄養教育マネジメントの全体像を把握する。栄養教育に関わる基礎学問領域について概要を理解し、栄養教育の実践へとつなげていく。						
到達目標	(1) 栄養教育に関わる基礎学問領域について説明できる。【知識・理解】 (2) 栄養教育の状況を設定した場で、行動変容理論やモデルを説明することができる。【知識・理解】 (3) 栄養カウンセリングの意義や特徴を説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育の概念 第2回 日本人の食生活の変化 第3回 栄養教育のための理論的基礎 (1) 行動科学理論と栄養教育 ① 栄養教育の課題に応じた理論の選択と展開 ② 栄養教育マネジメントにおける理論の活用 (2) 行動科学の理論とモデル ① 刺激-反応理論 (レスポナント条件付け、オペラント条件づけ) ② ヘルスビリーフモデル (健康信念モデル) ③ 計画的行動理論 (合理的行動理論) ④ トランスセオレティカルモデル: 行動変容ステージの準備性 ⑤ トランスセオレティカルモデル: 変容の課程 ⑥ 社会的認知理論 (社会的学習理論) 第4回 ① 第5回 ② 第6回 ③ 第7回 ④ 第8回 ⑤ 第9回 ⑥ 第10回 行動科学のまとめ・小テスト 第11回 行動変容技法 第12回 栄養教育プログラムでの行動変容技法の応用 第13回 行動変容技法の国家試験問題 第14回 栄養カウンセリングの基礎的知識 第15回 動機づけ面接法、まとめ 第16回 期末試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前学習: シラバスの授業内容を事前に教科書で確認し、わからない用語などを整理してから、授業に臨む。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。(学習時間: 2時間)						
授業方法	講義: 授業で取り上げた内容についてプリントの課題について、疑問点や難しい点について、数人のグループでディスカッションをしながら取り組む。食生活の評価に関して、PCを使用する場合がある。小テストとレポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験: 60%、小テスト: 30%、授業の受講態度: 10% 期末試験: 授業で取り上げた栄養教育論の基礎学問領域の理解度、栄養教育で活用できる行動変容理論やモデルの理解度、栄養カウンセリングの概念およびキーワードの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度: 授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 小テスト: 第3回~第9回で取り上げた行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は禁止する。 出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする (交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない)。 遅刻3回で欠席1回とみなす。						
教科書	『エッセンシャル栄養教育論 (第4版) (2020年発行予定)』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 未定						

参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論Ⅰ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N01360
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育に関わる基礎学問領域について、概要を理解する。						
授業の概要	栄養教育論では、対象者へ栄養教育の方法を学び、実践に応用できる能力を習得することを目的とする。対象者のアセスメントに基づいた栄養教育プログラムを計画立案し、実施、評価した後、フィードバックを行うという、一連の栄養教育の方法を学び、実践的に展開できる能力を習得する。栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の意義や特性を理解し、栄養教育マネジメントの全体像を把握する。栄養教育に関わる基礎学問領域について概要を理解し、栄養教育の実践へとつなげていく。						
到達目標	(1) 栄養教育に関わる基礎学問領域について説明できる。【知識・理解】 (2) 栄養教育の状況を設定した場で、行動変容理論やモデルを説明することができる。【知識・理解】 (3) 栄養カウンセリングの意義や特徴を説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育の概念 第2回 日本人の食生活の変化 第3回 栄養教育のための理論的基礎 (1) 行動科学理論と栄養教育 ① 栄養教育の課題に応じた理論の選択と展開 ② 栄養教育マネジメントにおける理論の活用 (2) 行動科学の理論とモデル ① 刺激-反応理論 (レスポナント条件付け、オペラント条件づけ) ② ヘルスビリーフモデル (健康信念モデル) ③ 計画的行動理論 (合理的行動理論) ④ トランスセオレティカルモデル: 行動変容ステージの準備性 ⑤ トランスセオレティカルモデル: 変容の課程 ⑥ 社会的認知理論 (社会的学習理論) 第4回 ⑤ 社会的認知理論 (社会的学習理論) 第5回 ⑥ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第6回 ⑥ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第7回 ⑥ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第8回 ⑥ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第9回 ⑥ ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート 第10回 行動科学のまとめ・小テスト 第11回 行動変容技法 第12回 栄養教育プログラムでの行動変容技法の応用 第13回 行動変容技法の国家試験問題 第14回 栄養カウンセリングの基礎的知識 第15回 動機づけ面接法、まとめ 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: シラバスの授業内容を事前に教科書で確認し、わからない用語などを整理してから、授業に臨む。(学習時間: 2時間) 授業後学習: 授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。(学習時間: 2時間)						
授業方法	講義: 授業で取り上げた内容についてプリントの課題について、疑問点や難しい点について、数人のグループでディスカッションをしながら取り組む。食生活の評価に関して、PCを使用する場合がある。小テストとレポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験: 60%、小テスト: 30%、授業の受講態度: 10% 期末試験: 授業で取り上げた栄養教育論の基礎学問領域の理解度、栄養教育で活用できる行動変容理論やモデルの理解度、栄養カウンセリングの概念およびキーワードの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度: 授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 小テスト: 第3回~第9回で取り上げた行動変容理論やモデルの理解度について確認する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は禁止する。 出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする(交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない)。 遅刻3回で欠席1回とみなす。						
教科書	『エッセンシャル栄養教育論(第4版)(2020年発行予定)』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN: 未定						

参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論II						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N02370
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの方法を学ぶ。						
授業の概要	個人および集団を対象とした栄養教育マネジメントの方法を学ぶ。健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する方法、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。また、食に関する行動の心理的動機付け、食行動の変容を促す教材、教育方法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Iの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	『改定 フローチャートで学ぶ栄養教育論実習（2020年版）』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0680-5 上記の実習書に加えて、栄養教育論Iで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論Ⅱ						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N02370
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの方法を学ぶ。						
授業の概要	個人および集団を対象とした栄養教育マネジメントの方法を学ぶ。健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集の方法・分析法、それらを総合的に評価・判定する方法、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう、健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を修得する。また、食に関する行動の心理的動機付け、食行動の変容を促す教材、教育方法についても学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育マネジメントの流れと関連する理論やモデルを説明できる。【知識・理解】 (2) 対象者の個人要因と環境要因のアセスメントに関する基礎知識を説明できる。【知識・理解】 (3) アセスメントの結果を基に、栄養教育プログラムを作成できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論Ⅰの復習 第2回 栄養教育マネジメント 健康・食物摂取に影響を及ぼす要因のアセスメント 第3回 ①アセスメントの種類と方法 第4回 ②行動記録・行動分析によるアセスメント 第5回 ③個人要因のアセスメント 第6回 ④環境要因のアセスメント 食環境と栄養教育 集団や社会を対象にした行動変容理論 第7回 栄養教育マネジメントで用いる理論やモデル ①プリシード・プロシードモデル 第8回 ②ソーシャルマーケティング 第9回 ③生態学的モデル 第10回 栄養教育の目標設定 第11回 栄養教育計画の作成のための基礎知識 第12回 ①学習形態の選択 第13回 ②教材、媒体の選択 第14回 栄養教育プログラムの作成方法 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：第3回～第6回の授業では、授業の題材として、各自の食生活を取り上げる。授業までに食生活調査およびデータの整理を行う（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：栄養教育マネジメントを学ぶための具体例として、各自の食生活の問題を取り上げる。食生活の評価に、PCを使用する。レポートは松蔭manabaを利用する。						
評価基準と評価方法	期末試験：50%、提出物：20%、レポート：20%、授業の受講態度：10% 期末試験：授業で取り上げた栄養教育マネジメントに関する基礎知識の理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 提出物：食生活の栄養教育マネジメントの課程で整理した内容の理解度を評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 レポート：アセスメント結果に基づいた栄養教育計画を評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。 授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	『改定 フローチャートで学ぶ栄養教育論実習（2020年版）』、橘ゆかり・森 美奈子編著、株式会社建帛社、ISBN：978-4-7679-0680-5 上記の実習書に加えて、栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【この教科書は新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						



参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論III						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N02380
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの実施と評価について学ぶ。 ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のプログラムの作成に必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育マネジメントの方法について修得する。栄養教育論Ⅲでは妊娠・授乳期、幼児期、学童期、成人期および高齢期についての栄養教育の方法を学ぶ。成人期の栄養教育では生活習慣病の予防・治療、労働、職場給食、外食、単身生活などに関する栄養教育の方法、高齢期の栄養教育では寝たきり予防、QOL、介護、食事サービスに関する栄養教育の方法について修得する。さらに不特定多数の集団を対象とした栄養教育について学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育プログラムの評価の種類を説明できる。【知識・理解】 (2) ライフステージ、ライフスタイルの特徴を把握して、ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育プログラムの特徴を説明できる。【知識・理解】 (3) ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育に応用できる行動変容理論やモデルなど（栄養教育論ⅠおよびⅡで学んだ内容）を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論ⅠおよびⅡの復習 第2回 栄養教育マネジメント 栄養教育の実施・評価 第3回 栄養教育の評価 第4回 栄養教育の経済評価 第5回 小テスト（第2～4回） 第6回 行動変容理論やモデルの復習 理論や技法を応用した栄養教育の展開 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育の留意事項とプログラム 第7回 乳幼児期の栄養教育の留意事項 第8回 乳幼児期の栄養教育プログラム 第9回 学童期・思春期の栄養教育の留意事項 第10回 学童期・思春期の栄養教育プログラム 第11回 成人期の栄養教育 ① 成人期の栄養教育の特徴と留意事項 ② 特定保健指導 第12回 ③成人期の栄養教育プログラムにおける行動変容 第13回 高齢期の栄養教育の留意事項 第14回 傷病者及び障がい者の栄養教育 第15回 まとめおよび試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの授業内容を事前に教科書で確認し、わからない用語などを整理してから、授業に臨む。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各授業の内容に対する理解度を、確認問題で自己評価を行う。後半のテーマとなるライフステージの特徴について、DVD等の映像で学習し、ディスカッションを行う。栄養教育論Ⅱでアセスメントを行った各自の食生活の変化について評価を行い、レポートを提出する。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、小テスト、レポート30%、平常点（授業の受講態度など）10% 期末試験の試験範囲は、栄養教育論Ⅰおよび栄養教育論Ⅱの内容も含む。 期末試験：授業で取り上げた栄養教育プログラムの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 レポート：栄養教育論Ⅱで行ったアセスメントに基づき、行動変容の影響評価を行う。到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。  授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Ⅰで使用した下記の教科書を使用します。【新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	栄養教育論III						
担当教員	橘 ゆかり					科目ナンバ-	N02380
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養教育マネジメントの実施と評価について学ぶ。 ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のプログラムの作成に必要な知識を学ぶ。						
授業の概要	ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育マネジメントの方法について修得する。栄養教育論IIIでは妊娠・授乳期、幼児、学童期、成人期および高齢期についての栄養教育の方法を学ぶ。成人期の栄養教育では生活習慣病の予防・治療、労働、職場給食、外食、単身生活などに関する栄養教育の方法、高齢期の栄養教育では寝たきり予防、QOL、介護、食事サービスに関する栄養教育の方法について修得する。さらに不特定多数の集団を対象とした栄養教育について学ぶ。						
到達目標	(1) 栄養教育プログラムの評価の種類を説明できる。【知識・理解】 (2) ライフステージ、ライフスタイルの特徴を把握して、ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育プログラムの特徴を説明できる。【知識・理解】 (3) ライフステージ、ライフスタイル別栄養教育に応用できる行動変容理論やモデルなど（栄養教育論IおよびIIで学んだ内容）を説明できる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養教育論IおよびIIの復習 第2回 栄養教育マネジメント 栄養教育の実施・評価 第3回 栄養教育の評価 第4回 栄養教育の経済評価 第5回 小テスト（第2～4回） 第6回 行動変容理論やモデルの復習 理論や技法を応用した栄養教育の展開 ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開 妊娠・授乳期の栄養教育の留意事項とプログラム 第7回 乳幼児期の栄養教育の留意事項 第8回 乳幼児期の栄養教育プログラム 第9回 学童期・思春期の栄養教育の留意事項 第10回 学童期・思春期の栄養教育プログラム 第11回 成人期の栄養教育 ① 成人期の栄養教育の特徴と留意事項 第12回 ② 特定保健指導 第13回 ③ 成人期の栄養教育プログラムにおける行動変容 第14回 高齢期の栄養教育の留意事項 傷病者及び障がい者の栄養教育 第15回 まとめおよび試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：シラバスの授業内容を事前に教科書で確認し、わからない用語などを整理してから、授業に臨む。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業のプリントを読み直し、授業で取り上げた内容を確認する。授業内で確認問題に取り組んだ場合は、問題をもう一度解いて、説明ができるようにする。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各授業の内容に対する理解度を、確認問題で自己評価を行う。後半のテーマとなるライフステージの特徴について、DVD等の映像で学習し、ディスカッションを行う。栄養教育論IIでアセスメントを行った各自の食生活の変化について評価を行い、レポートを提出する。						
評価基準と評価方法	期末試験60%、小テスト、レポート30%、平常点（授業の受講態度など）10% 期末試験の試験範囲は、栄養教育論Iおよび栄養教育論IIの内容も含む。 期末試験：授業で取り上げた栄養教育プログラムの理解度について確認する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 レポート：栄養教育論IIで行ったアセスメントに基づき、行動変容の影響評価を行う。到達目標(1)に関する到達度の確認。 授業の受講態度：授業内での受講態度、課題や確認問題の取組状況を総合的に評価する。  授業内容についてのフィードバックの方法 リアクションペーパーのコメント・質問等について、次回の授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	出席回数開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする（交通機関延着による遅刻は延着証明がある場合には遅刻としない）。 遅刻3回で欠席1回とする。						
教科書	栄養教育論Iで使用した下記の教科書を使用します。【新たに購入する必要はありません】 『エッセンシャル栄養教育論（第3版）第5刷（2018年発行）』、春木 敏編著、医歯薬出版株式会社、ISBN：978-4-263-70623-7						

参考書	
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学I						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N02310
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養ケア・マネジメントの概要、意義、方法を学び、ヒトの各ライフサイクルにおける栄養アセスメントが出来る能力を養い、ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
授業の概要	栄養ケア・マネジメントを構成する各要素（①栄養スクリーニング、②栄養アセスメント、③栄養ケア計画、④実施、⑤モニタリング、⑥評価、⑦フィードバック）についての定義と意義、方法を学び、各ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
到達目標	(1) 栄養ケア・マネジメントの各要素の要点について説明出来る。【知識・理解】 (2) 各食事調査法のメリットとデメリットを理解し、対象者に応じた方法を提案出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養ケア・マネジメントの概要 第2回 栄養スクリーニング 第3回 栄養アセスメント：問診・観察・身体計測 第4回 栄養アセスメント：臨床検査・静的栄養アセスメントと動的栄養アセスメント 第5回 栄養アセスメント：栄養・食事調査 第6回 栄養ケア計画：栄養補給 第7回 栄養ケア計画：食事摂取基準 第8回 栄養ケア計画：栄養教育・多領域からの栄養ケア 第9回 実施・モニタリング・評価・フィードバックの概要 第10回 実施・モニタリング：目標設定 第11回 評価とフィードバック 第12回 栄養ケア・マネジメントのまとめ 第13回 成長・発達、加齢（老化）の概念とライフステージ 第14回 加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。1日の食事内容について秤量記録法で食事調査を行う。食物摂取頻度調査を行い、エクセル栄養君でデータ処理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 食事調査結果や臨床検査データについてペアまたはグループによるディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度・提出物（30%） グループディスカッションへの取り組み、報告内容および、食事記録・食物摂取頻度調査の記入状況について評価する。到達目標(2)に関する理解度の確認。 試験（70%） 授業内容の理解度について評価する。到達目標(1)(2)に関する理解度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学I						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N02310
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養ケア・マネジメントの概要、意義、方法を学び、ヒトの各ライフサイクルにおける栄養アセスメントが出来る能力を養い、ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
授業の概要	栄養ケア・マネジメントを構成する各要素（①栄養スクリーニング、②栄養アセスメント、③栄養ケア計画、④実施、⑤モニタリング、⑥評価、⑦フィードバック）についての定義と意義、方法を学び、各ライフステージにおける基本的な活用方法を理解する。						
到達目標	(1) 栄養ケア・マネジメントの各要素の要点について説明出来る。【知識・理解】 (2) 各食事調査法のメリットとデメリットを理解し、対象者に応じた方法を提案出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養ケア・マネジメントの概要 第2回 栄養スクリーニング 第3回 栄養アセスメント：問診・観察・身体計測 第4回 栄養アセスメント：臨床検査・静的栄養アセスメントと動的栄養アセスメント 第5回 栄養アセスメント：栄養・食事調査 第6回 栄養ケア計画：栄養補給 第7回 栄養ケア計画：食事摂取基準 第8回 栄養ケア計画：栄養教育・多領域からの栄養ケア 第9回 実施・モニタリング・評価・フィードバックの概要 第10回 実施・モニタリング：目標設定 第11回 評価とフィードバック 第12回 栄養ケア・マネジメントのまとめ 第13回 成長・発達、加齢（老化）の概念とライフステージ 第14回 加齢に伴う身体的・精神的変化と栄養 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。1日の食事内容について秤量記録法で食事調査を行う。食物摂取頻度調査を行い、エクセル栄養君でデータ処理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 食事調査結果や臨床検査データについてペアまたはグループによるディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度・提出物（30%） グループディスカッションへの取り組み、報告内容および、食事記録・食物摂取頻度調査の記入状況について評価する。到達目標(2)に関する理解度の確認。 試験（70%） 授業内容の理解度について評価する。到達目標(1)(2)に関する理解度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学II						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各ライフステージにおける生理的特徴に基づいた栄養管理についての基礎的知識を習得する。						
授業の概要	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について理解することにより、栄養状態の評価・判定の基本的考え方を修得する。具体的には妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養ケア、乳児期・学童期・思春期などの生理的特徴と栄養ケア、成人期の栄養ケア、加齢に伴う栄養関連機能の変化に応じた栄養ケアについて学ぶ。						
到達目標	(1) 成長・発達・加齢とともに変化する人体の生理的特徴について説明出来る。【知識・理解】 (2) 各ライフステージにおける特徴的な食習慣、生活習慣、病態について説明出来る。【知識・理解】 (3) 各ライフステージの症例をアセスメントし、適切な栄養ケアプランの提案が出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養の特徴 第2回 妊娠期・授乳期の栄養アセスメント、病態・疾患と栄養ケア 第3回 新生児・乳児期の生理的特徴と栄養アセスメント 第4回 幼児期の生理的特徴と栄養アセスメント 第5回 幼児期の病態・疾患と栄養ケア 第6回 学童期・思春期の生理的特徴と栄養の特徴 第7回 学童期・思春期の栄養アセスメント 第8回 学童期・思春期の病態・疾患と栄養ケア 第9回 成人期の生理的特徴 第10回 成人期の病態・疾患と生活習慣 第11回 成人期の栄養ケアのあり方 第12回 更年期（閉経期）の栄養アセスメントと栄養ケア 第13回 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント 第14回 高齢期の病態・疾患と栄養ケア 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 各ライフステージにおける症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度（30%） ペアまたはグループディスカッションへの参加状況、報告内容について評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 試験（70%） 授業内容に関する理解度について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学II						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03320
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各ライフステージにおける生理的特徴に基づいた栄養管理についての基礎的知識を習得する。						
授業の概要	身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を理解することを目的とする。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について理解することにより、栄養状態の評価・判定の基本的考え方を修得する。具体的には妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養ケア、乳児期・学童期・思春期などの生理的特徴と栄養ケア、成人期の栄養ケア、加齢に伴う栄養関連機能の変化に応じた栄養ケアについて学ぶ。						
到達目標	(1) 成長・発達・加齢とともに変化する人体の生理的特徴について説明出来る。【知識・理解】 (2) 各ライフステージにおける特徴的な食習慣、生活習慣、病態について説明出来る。【知識・理解】 (3) 各ライフステージの症例をアセスメントし、適切な栄養ケアプランの提案が出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 妊娠期・授乳期の生理的特徴と栄養の特徴 第2回 妊娠期・授乳期の栄養アセスメント、病態・疾患と栄養ケア 第3回 新生児・乳児期の生理的特徴と栄養アセスメント 第4回 幼児期の生理的特徴と栄養アセスメント 第5回 幼児期の病態・疾患と栄養ケア 第6回 学童期・思春期の生理的特徴と栄養の特徴 第7回 学童期・思春期の栄養アセスメント 第8回 学童期・思春期の病態・疾患と栄養ケア 第9回 成人期の生理的特徴 第10回 成人期の病態・疾患と生活習慣 第11回 成人期の栄養ケアのあり方 第12回 更年期（閉経期）の栄養アセスメントと栄養ケア 第13回 高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント 第14回 高齢期の病態・疾患と栄養ケア 第15回 授業内容についてのまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 各ライフステージにおける症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度（30%） ペアまたはグループディスカッションへの参加状況、報告内容について評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。 試験（70%） 授業内容に関する理解度について評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学III						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	運動・スポーツ、ストレス、特殊環境（高温・低温・高圧・低圧・無重力）と栄養について基礎的な知識を習得する。						
授業の概要	健康増進、疾病予防に寄与する身体活動・運動およびトレーニング時のエネルギー代謝や栄養摂取のあり方、体内で起こっている栄養代謝の内容とメカニズムについて学ぶ。そして、運動・スポーツを通じて、身体活動を活発にすることが、疾病の予防や健康の保持・増進に役立つことを理解する。また、ストレスのメカニズムを理解し、ストレスに耐えるための栄養面の予防策や回復策を考える。環境と栄養では、高温と低温、高圧と低圧、無重力環境における生理的特徴と栄養について学ぶ。						
到達目標	(1) 身体活動・運動時の栄養代謝の内容とメカニズムについて説明出来る。【知識・理解】 (2) ストレスの症例に対して適切な栄養ケア計画を立てることが出来る。【汎用的理解】 (3) 特殊環境下における生理的機能の変化について説明出来る。【知識・理解】						
授業計画	第1回 運動・スポーツの目的 第2回 運動・スポーツと栄養素の代謝 第3回 健康増進と運動 第4回 トレーニングと栄養ケアのあり方 第5回 ストレスと栄養ケア：ショック相と反ショック相 第6回 ストレスと栄養ケア：抵抗期、疲憊期 第7回 ストレスと栄養ケア：症例検討 第8回 生体リズムと栄養 第9回 高温環境における生体の反応と栄養 第10回 低温環境における生体の反応と栄養 第11回 高圧環境における生体の反応と栄養 第12回 低圧環境における生体の反応と栄養 第13回 無重力環境における生体の反応と栄養 第14回 宇宙食および災害時の栄養 第15回 授業内容のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 運動・スポーツ時、ストレス環境下における症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度（30%） ペアまたはグループディスカッションへの参加状況、報告内容について評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 試験（70%） 授業内容に関する理解度について評価する。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学III						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03330
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	運動・スポーツ、ストレス、特殊環境（高温・低温・高圧・低圧・無重力）と栄養について基礎的な知識を習得する。						
授業の概要	健康増進、疾病予防に寄与する身体活動・運動およびトレーニング時のエネルギー代謝や栄養摂取のあり方、体内で起こっている栄養代謝の内容とメカニズムについて学ぶ。そして、運動・スポーツを通じて、身体活動を活発にすることが、疾病の予防や健康の保持・増進に役立つことを理解する。また、ストレスのメカニズムを理解し、ストレスに耐えるための栄養面の予防策や回復策を考える。環境と栄養では、高温と低温、高圧と低圧、無重力環境における生理的特徴と栄養について学ぶ。						
到達目標	(1) 身体活動・運動時の栄養代謝の内容とメカニズムについて説明出来る。【知識・理解】 (2) ストレスの症例に対して適切な栄養ケア計画を立てることが出来る。【汎用的理解】 (3) 特殊環境下における生理的機能の変化について説明出来る。【知識・理解】						
授業計画	第1回 運動・スポーツの目的 第2回 運動・スポーツと栄養素の代謝 第3回 健康増進と運動 第4回 トレーニングと栄養ケアのあり方 第5回 ストレスと栄養ケア：ショック相と反ショック相 第6回 ストレスと栄養ケア：抵抗期、疲憊期 第7回 ストレスと栄養ケア：症例検討 第8回 生体リズムと栄養 第9回 高温環境における生体の反応と栄養 第10回 低温環境における生体の反応と栄養 第11回 高圧環境における生体の反応と栄養 第12回 低圧環境における生体の反応と栄養 第13回 無重力環境における生体の反応と栄養 第14回 宇宙食および災害時の栄養 第15回 授業内容のまとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画で指定されている範囲を、教科書で予習する。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義 運動・スポーツ時、ストレス環境下における症例についてペアまたはグループで栄養アセスメントおよび栄養ケア計画についてディスカッションを行う。報告内容について解説すると共に、重要事項について講義を行う。						
評価基準と評価方法	受講態度（30%） ペアまたはグループディスカッションへの参加状況、報告内容について評価する。到達目標(2)に関する到達度の確認。 試験（70%） 授業内容に関する理解度について評価する。到達目標(1)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 居眠り、私語、携帯電話の使用、無断退出については受講態度より減点する。						
教科書	「応用栄養学 第2版」、江上いすず編、朝倉書店、2015年、ISBN978-4-254-61656-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート」、女子栄養大学出版、2018年、ISBN 978-4-7895-2438-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03340
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	各ライフステージの栄養上の特性を理解して、各症例に対する栄養ケア・マネジメントの実践的な技能を修得する。						
授業の概要	応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期）および運動・スポーツ時の栄養管理について演習・実習を通して学ぶ。各症例に対して、対象者の栄養状態をアセスメントし、その結果に基づいた栄養ケア計画、食事計画、献立作成を行い発表する。作成した献立を基に対象者に適した調理方法で調理する。						
到達目標	(1) 各ライフステージにおける栄養アセスメント・栄養ケアの要点が説明出来る。【知識・理解】 (2) 発達段階に応じ、離乳食・幼児食に適した食品選択および調理が出来る。【汎用的技能】 (3) 高齢者の摂取量・摂食機能の応じた食事設計および調理が出来る。【汎用的技能】 (4) 他者に伝えるプレゼンテーションが出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 【講義】 オリエンテーション、実習の進め方、課題・レポートについての説明 第2回 【演習】 大学生の栄養マネジメント：身体計測、食事調査、生活状況調査 第3回 【演習】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第4回 【発表】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第5回 【実習】 各種調整粉乳とベビーフードの食味試験 第6回 【演習】 乳児期・幼児期の栄養アセスメント 第7回 【実習】 幼児のお弁当、おやつ調理実習 第8回 【演習・発表】 学童期、思春期の栄養マネジメント 第9回 【演習・発表】 成人期の栄養マネジメント 第10回 【実習】 ユニバーサルデザインフード、ソフト食の食味試験 第11回 【演習】 高齢期の栄養マネジメント 第12回 【発表】 高齢期の栄養 第13回 【実習】 高齢期の調理実習 第14回 【演習】 運動・スポーツと栄養 第15回 【発表】 運動・スポーツと栄養						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題1：秤量記録法による1日の食事調査と栄養価計算および生活状況調査 課題2：各ライフステージにおける症例検討のレポート作成 課題3：献立作成、栄養価計算、発注書作成 授業前後：栄養ケア・マネジメントに必要な情報収集、データ整理、発表準備、課題作成						
授業方法	講義・演習・実習 各ライフステージの症例に対するアセスメントを行い、栄養ケア計画をたてる。また、症例に対する献立作成を行い、調理する。離乳食、幼児食、高齢者食を作り、調理および食事形態について理解する。						
評価基準と評価方法	受講態度(30%)：グループディスカッションへの参加状況、アセスメント、栄養ケア計画作成への取り組み、調理に取り組む姿勢について評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 発表(10%)：発表内容、配布資料の作成、発表に望む姿勢について総合的に評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。 課題・レポート(60%)：課題・レポートの内容および提出状況について評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用し、衛生面を考慮して実習に参加すること。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	「応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理 第3版」、東愛子・原田まつ子・牧野登志子・白尾美佳編、講談社、ISBN978-4-06-139839-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「新カラーチャート食品成分表—全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用栄養学実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N03340
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	各ライフステージの栄養上の特性を理解して、各症例に対する栄養ケア・マネジメントの実践的な技能を修得する。						
授業の概要	応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、高齢期）および運動・スポーツ時の栄養管理について演習・実習を通して学ぶ。各症例に対して、対象者の栄養状態をアセスメントし、その結果に基づいた栄養ケア計画、食事計画、献立作成を行い発表する。作成した献立を基に対象者に適した調理方法で調理する。						
到達目標	(1) 各ライフステージにおける栄養アセスメント・栄養ケアの要点が説明出来る。【知識・理解】 (2) 発達段階に応じ、離乳食・幼児食に適した食品選択および調理が出来る。【汎用的技能】 (3) 高齢者の摂取量・摂食機能の応じた食事設計および調理が出来る。【汎用的技能】 (4) 他者に伝えるプレゼンテーションが出来る。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 【講義】 オリエンテーション、実習の進め方、課題・レポートについての説明 第2回 【演習】 大学生の栄養マネジメント：身体計測、食事調査、生活状況調査 第3回 【演習】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第4回 【発表】 妊娠期・授乳期の栄養マネジメント 第5回 【実習】 各種調整粉乳とベビーフードの食味試験 第6回 【演習】 乳児期・幼児期の栄養アセスメント 第7回 【実習】 幼児のお弁当、おやつ調理実習 第8回 【演習・発表】 学童期、思春期の栄養マネジメント 第9回 【演習・発表】 成人期の栄養マネジメント 第10回 【実習】 ユニバーサルデザインフード、ソフト食の食味試験 第11回 【演習】 高齢期の栄養マネジメント 第12回 【発表】 高齢期の栄養 第13回 【実習】 高齢期の調理実習 第14回 【演習】 運動・スポーツと栄養 第15回 【発表】 運動・スポーツと栄養						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	課題1：秤量記録法による1日の食事調査と栄養価計算および生活状況調査 課題2：各ライフステージにおける症例検討のレポート作成 課題3：献立作成、栄養価計算、発注書作成 授業前後：栄養ケア・マネジメントに必要な情報収集、データ整理、発表準備、課題作成						
授業方法	講義・演習・実習 各ライフステージの症例に対するアセスメントを行い、栄養ケア計画をたてる。また、症例に対する献立作成を行い、調理する。離乳食、幼児食、高齢者食を作り、調理および食事形態について理解する。						
評価基準と評価方法	受講態度(30%)：グループディスカッションへの参加状況、アセスメント、栄養ケア計画作成への取り組み、調理に取り組む姿勢について評価する。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 発表(10%)：発表内容、配布資料の作成、発表に望む姿勢について総合的に評価する。到達目標(4)に関する到達度の確認。 課題・レポート(60%)：課題・レポートの内容および提出状況について評価する。到達目標(1)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 調理室では指定の実習着と靴を着用し、衛生面を考慮して実習に参加すること。 授業中の携帯電話の使用は禁止する。						
教科書	「応用栄養学実習 ライフステージ別の栄養管理 第3版」、東愛子・原田まつ子・牧野登志子・白尾美佳編、講談社、ISBN978-4-06-139839-9						
参考書	「日本人の食事摂取基準2015年版」、菱田明・佐々木敏 監修、第一出版、2014年、ISBN978-4-8041-1312-8 「新カラーチャート食品成分表—全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用調理実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N01270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	<p>供給食、行事食の献立・調理方法を学び、季節や対象者に合わせた供給食、行事食の調理技術、献立作成能力を養う。</p>						
授業の概要	<p>日常食、供給食、行事食の調理実習を行う。各食事の栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解し、対象者と食事の目的に合わせた献立作成能力を養う。</p>						
到達目標	<p>(1) 行事食、供給食の意義を説明することが出来る。【知識・理解】  (2) 基本的な料理の知識や調理技術を身につけ、安全で美味しい料理を作ることが出来る。【汎用的技能】  (3) 献立作成の基本、1食当たりの食品の使用量を学び、食事設計と調理が出来る。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 お月見の献立  第3回 敬老の日の献立  第4回 ハロウィーンの献立  第5回 秋のお彼岸の献立  第6回 七五三の献立  第7回 冬至の献立  第8回 自主献立の準備（栄養価計算、調理工程の確認、食材の発注作業）  第9回 自主献立1回目  第10回 クリスマスの献立  第11回 正月料理  第12回 成人の日の献立  第13回 節分の献立  第14回 自主献立2回目  第15回 ひな祭りの献立</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：実習する献立・料理について予習し、材料の廃棄率、分量を計算する。（学習時間2時間）  課題1：食事摂取基準に応じた献立を立案、作成する。（学習時間3時間）  課題2：各行事について調べてまとめる。（学習時間1時間）  授業後学習：再現性のある作り方、栄養価計算、考察をまとめる。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>実習：グループごとに作業手順や操作方法を確認した上で調理し、反省点や考察をまとめる。  また、調理した料理を、他のグループにふるまうことで、供給食の理解を深める。  自主献立では、グループで献立作成、調理手順書の作成、発注書の作成を行い、調理し、グループ発表を行い、レポートにまとめる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>受講態度・実習への取り組み(60%)  調理への参加度、配当番や掃除当番での取り組み、発表内容より総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。  課題・レポート(40%)  再現性のある作り方および盛り付けの記入、献立の作成、栄養価計算について総合的に評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。なお、レポート評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>20分以上の遅刻は欠席扱いとし、出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。  調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない）  衛生面に考慮して実習に望むこと。  授業中の携帯電話の使用は禁止する。</p>						
教科書	<p>改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077（「調理実習」と同じ教科書を使用します）</p>						
参考書	<p>「新カラーチャート食品成分表—全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4</p>						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	応用調理実習						
担当教員	橋本 沙幸					科目ナンバ-	N01270
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	<p>供給食、行事食の献立・調理方法を学び、季節や対象者に合わせた供給食、行事食の調理技術、献立作成能力を養う。</p>						
授業の概要	<p>日常食、供給食、行事食の調理実習を行う。各食事の栄養面、嗜好性、経済性、能率性、季節性を考慮することの重要性を理解し、対象者と食事の目的に合わせた献立作成能力を養う。</p>						
到達目標	<p>(1) 行事食、供給食の意義を説明することが出来る。【知識・理解】  (2) 基本的な料理の知識や調理技術を身につけ、安全で美味しい料理を作ることが出来る。【汎用的技能】  (3) 献立作成の基本、1食当たりの食品の使用量を学び、食事設計と調理が出来る。【汎用的技能】</p>						
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション  第2回 お月見の献立  第3回 敬老の日の献立  第4回 ハロウィーンの献立  第5回 秋のお彼岸の献立  第6回 七五三の献立  第7回 冬至の献立  第8回 自主献立の準備（栄養価計算、調理工程の確認、食材の発注作業）  第9回 自主献立1回目  第10回 クリスマスの献立  第11回 正月料理  第12回 成人の日の献立  第13回 節分の献立  第14回 自主献立2回目  第15回 ひな祭りの献立</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：実習する献立・料理について予習し、材料の廃棄率、分量を計算する。（学習時間2時間）  課題1：食事摂取基準に応じた献立を立案、作成する。（学習時間3時間）  課題2：各行事について調べてまとめる。（学習時間1時間）  授業後学習：再現性のある作り方、栄養価計算、考察をまとめる。（学習時間2時間）</p>						
授業方法	<p>実習：グループごとに作業手順や操作方法を確認した上で調理し、反省点や考察をまとめる。  また、調理した料理を、他のグループにふるまうことで、供給食の理解を深める。  自主献立では、グループで献立作成、調理手順書の作成、発注書の作成を行い、調理し、グループ発表を行い、レポートにまとめる。</p>						
評価基準と評価方法	<p>受講態度・実習への取り組み(60%)  調理への参加度、配当番や掃除当番での取り組み、発表内容より総合的に評価する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。  課題・レポート(40%)  再現性のある作り方および盛り付けの記入、献立の作成、栄養価計算について総合的に評価する。到達目標(3)に関する到達度の確認。なお、レポート評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>20分以上の遅刻は欠席扱いとし、出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。  調理室では指定の実習着と靴を着用すること。（貸借は認めない）  衛生面に考慮して実習に望むこと。  授業中の携帯電話の使用は禁止する。</p>						
教科書	<p>改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 C3077（「調理実習」と同じ教科書を使用します）</p>						
参考書	<p>「新カラーチャート食品成分表—全食品・全成分項目掲載」、教育図書、2017年、ISBN978-4-8773-0388-4</p>						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	解剖生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N01070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	正常な人間の体の構造と機能を、細胞レベルから組織・器官レベルまで系統的に学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士課程の専門科目として、解剖生理学を学ぶ。栄養と健康を考えるにはまず人間の体の仕組みについて理解することが重要である。総論として、細胞内、細胞外の情報伝達機序（神経系、内分泌系の基本概念）や個体の恒常性について学んだ後、各臓器の正常構造と機能を理解する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 人体の構成 2 個体の恒常性 3 情報伝達機構 4 消化管 5 消化器（肝胆膵） 6 循環器（心臓） 7 循環器（血管系） 8 まとめと中間テスト 9 腎臓（解剖） 10 腎臓2（機能） 11 腎臓3（酸塩基平衡） 12 内分泌（正常） 13 内分泌（下垂体甲状腺疾患） 14 内分泌（副腎疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて、教科書参考書で下調べを行うこと（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイント（特に国家試験形式の問題）を、一回ずつノートにまとめましょう（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。授業の後半で、松蔭マナバとタブレット端末を用いた課題設定を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%、授業への参加態度点（タブレット端末での課題提出内容を含む）10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）。 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） * 「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	解剖生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N01070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	正常な人間の体の構造と機能を、細胞レベルから組織・器官レベルまで系統的に学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士課程の専門科目として、解剖生理学を学ぶ。栄養と健康を考えるにはまず人間の体の仕組みについて理解することが重要である。総論として、細胞内、細胞外の情報伝達機序（神経系、内分泌系の基本概念）や個体の恒常性について学んだ後、各臓器の正常構造と機能を理解する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 人体の構成 2 個体の恒常性 3 情報伝達機構 4 消化管 5 消化器（肝胆膵） 6 循環器（心臓） 7 循環器（血管系） 8 まとめと中間テスト 9 腎臓（解剖） 10 腎臓2（機能） 11 腎臓3（酸塩基平衡） 12 内分泌（正常） 13 内分泌（下垂体甲状腺疾患） 14 内分泌（副腎疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて、教科書参考書で下調べを行うこと（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイント（特に国家試験形式の問題）を、一回ずつノートにまとめましょう（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。授業の後半で、松蔭マナバとタブレット端末を用いた課題設定を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%、授業への参加態度点（タブレット端末での課題提出内容を含む）10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない）。 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） * 「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	解剖生理学実験						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜3~4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	解剖生理学を学んだ後、理解をより深めるために実験を行う。組織標本の顕微鏡観察や、循環機能の計測や感覚器試験によって人体の生理と機能を理解する。						
授業の概要	組織標本の顕微鏡観察、スケッチを通して人体の構造を理解する。①消化管②肝臓③内分泌系④女性生殖器⑤男性生殖器⑥循環器⑦呼吸器⑧神経⑨生理機能検査（循環器、呼吸器、感覚器）などを取り上げる。						
到達目標	顕微鏡観察で得た臓器の構造と機能の理解を、スケッチの中で明確に説明できるようになる。【知識・理解】 予習課題（生理学班）の発表を通して、重要項目の要約作成・わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】 復習課題（国家試験形式の問題の解説）の発表を通して、重要項目の要約作成・プレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション・総論（細胞・組織・器官） 第2回 舌・唾液腺 第3回 食道と胃 第4回 小腸と大腸 第5回 肝臓 第6回 内分泌1 下垂体・甲状腺 第7回 内分泌2 膵臓と副腎 第8回 内分泌3 男性生殖器 第9回 卵巣・卵管・子宮 第10回 軟骨・骨・運動器疾患 第11回 神経 第12回 血液・免疫 第13回 呼吸器 第14回 循環器 第15回 体感型実習（呼吸機能、アイマスク体験など）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、生理学班の課題について、教科書などで下調べを行うこと（学習時間：1時間）。 予習（生理学班）：指定した内容について、授業での発表準備を行う。 復習（全員および、問題班）：授業で扱ったテーマと関連する管理栄養士国家試験問題の解説を作成し、翌週の授業で提出する（学習時間：1時間）。問題班は、翌週の授業での発表準備を行う。						
授業方法	顕微鏡観察、スケッチ、プレゼンテーション、国家試験形式問題の解説作成						
評価基準と評価方法	提出物（スケッチ、国家試験形式問題の解説）80%、 服装（白衣の着用）、授業準備（実験授業で使用する教科書の準備など）、発表等を含めた授業態度20%（「履修上の注意」参照）						
履修上の注意	実験では白衣を着用すること。白衣忘れが2回目以上になったときは、評価を減じる。 生理学班、問題班には、発表時に使用する配布物の作成をしてもらいます。授業当日（月曜日）12:30までに、食物栄養学科共同研究室へ配布物の原本を提出すること。遅れた場合は、提出が遅れた履修者の評価を減じる。 提出遅れと発表の欠席では、一回につき最終評価から2点減点を目安とする。 私語厳禁。 授業中に、授業とは直接関係のない作業を行っていることがわかった場合（携帯電話の使用を指摘された場合など）は評価を減じる。1回の指摘において、最終評価から2点減点を目安とする。 なお、授業の後半で国家試験問題解説を作成する時間をとる場合は、スマートフォンなどでの事項検索を認める場合がある（授業内で指示する）。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 【特に注意】実験授業での提出物が、評価上重要になる。欠席回数が4回以上になると、原則単位認定を行わない。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「解剖生理学」で使用したものと同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	解剖生理学実験						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02140
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	解剖生理学を学んだ後、理解をより深めるために実験を行う。組織標本の顕微鏡観察や、循環機能の計測や感覚器試験によって人体の生理と機能を理解する。						
授業の概要	組織標本の顕微鏡観察、スケッチを通して人体の構造を理解する。①消化管②肝臓③内分泌系④女性生殖器⑤男性生殖器⑥循環器⑦呼吸器⑧神経⑨生理機能検査（循環器、呼吸器、感覚器）などを取り上げる。						
到達目標	顕微鏡観察で得た臓器の構造と機能の理解を、スケッチの中で明確に説明できるようになる。【知識・理解】 予習課題（生理学班）の発表を通して、重要項目の要約作成・わかりやすいプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】 復習課題（国家試験形式の問題の解説）の発表を通して、重要項目の要約作成・プレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション・総論（細胞・組織・器官） 第2回 舌・唾液腺 第3回 食道と胃 第4回 小腸と大腸 第5回 肝臓 第6回 内分泌1 下垂体・甲状腺 第7回 内分泌2 膵臓と副腎 第8回 内分泌3 男性生殖器 第9回 卵巣・卵管・子宮 第10回 軟骨・骨・運動器疾患 第11回 神経 第12回 血液・免疫 第13回 呼吸器 第14回 循環器 第15回 体感型実習（呼吸機能、アイマスク体験など）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、生理学班の課題について、教科書などで下調べを行うこと（学習時間：1時間）。 予習（生理学班）：指定した内容について、授業での発表準備を行う。 復習（全員および、問題班）：授業で扱ったテーマと関連する管理栄養士国家試験問題の解説を作成し、翌週の授業で提出する（学習時間：1時間）。問題班は、翌週の授業での発表準備を行う。						
授業方法	顕微鏡観察、スケッチ、プレゼンテーション、国家試験形式問題の解説作成						
評価基準と評価方法	提出物（スケッチ、国家試験形式問題の解説）80%。 服装（白衣の着用）、授業準備（実験授業で使用する教科書の準備など）、発表等を含めた授業態度20%（「履修上の注意」参照）						
履修上の注意	実験では白衣を着用すること。白衣忘れが2回目以上になったときは、評価を減じる。 生理学班、問題班には、発表時に使用する配布物の作成をしてもらいます。授業当日（火曜日）9:10までに、食物栄養学科共同研究室へ配布物の原本を提出すること。遅れた場合は、提出が遅れた履修者の評価を減じる。 提出遅れと発表の欠席では、一回につき最終評価から2点減点を目安とする。 私語厳禁。 授業中に、授業とは直接関係のない作業を行っていることがわかった場合（携帯電話の使用を指摘された場合など）は評価を減じる。1回の指摘において、最終評価から2点減点を目安とする。 なお、授業の後半で国家試験問題解説を作成する時間をとる場合は、スマートフォンなどでの事項検索を認める場合がある（授業内で指示する）。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 【特に注意】実験授業での提出物が、評価上重要になる。欠席回数が4回以上になると、原則単位認定を行わない。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） *「解剖生理学」で使用したものと同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ						
担当教員	作田 はるみ・仲平 千栄子					科目ナンバ-	N03540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理論、給食経営計画論、給食経営計画実習で修得した知識と技術を活用して、給食経営管理の実務を実習する。対象者の給与栄養目標量見合った献立を作成し、原価計算を行い、大量調理を計画、実施する。実際に喫食者に食事を提供することにより評価を行う。特定給食施設における栄養士、調理従事者（下処理、調理、洗浄）との関係や組織を意識した役割をローテーションで経験することにより、給食経営管理における管理栄養士の役割について理解する。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 栄養・食事計画 第3回 作業計画 第4回 試作 第5回 試作検討 第6回 施設・設備管理①（実習前点検と消毒） 第7回 第1回給食実習（準備） 第8回 第2回給食実習（栄養士） 第9回 第3回給食実習（下処理・洗浄） 第10回 第4回給食実習（調理） 第11回 第5回給食実習（評価） 第12回 第6回給食実習（調査） 第13回 第7回給食実習（パート） 第14回 施設・設備管理②（最終点検と消毒） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 個別提出物（実習レポートの記載内容）40% 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」を同時に履修しなければならない。（単位には算入されない） ・実習中は指定の実習着と実習靴を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・1/3以上欠席した者は原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り、責任をもって役割を遂行すること。 ・一方のクラスの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする） ・試作日と給食実習の前日には、準備作業があります。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美ほか(みらい) 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実際―、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院)						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習Ⅰ						
担当教員	作田 はるみ・仲平 千栄子					科目ナンバ-	N03540
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理論、給食経営計画論、給食経営計画実習で修得した知識と技術を活用して、給食経営管理の実務を実習する。対象者の給与栄養目標量見合った献立を作成し、原価計算を行い、大量調理を計画、実施する。実際に喫食者に食事を提供することにより評価を行う。特定給食施設における栄養士、調理従事者（下処理、調理、洗浄）との関係や組織を意識した役割をローテーションで経験することにより、給食経営管理における管理栄養士の役割について理解する。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 栄養・食事計画 第3回 作業計画 第4回 試作 第5回 試作検討 第6回 施設・設備管理①（実習前点検と消毒） 第7回 第1回給食実習（準備） 第8回 第2回給食実習（栄養士） 第9回 第3回給食実習（下処理・洗浄） 第10回 第4回給食実習（調理） 第11回 第5回給食実習（評価） 第12回 第6回給食実習（調査） 第13回 第7回給食実習（パート） 第14回 施設・設備管理②（最終点検と消毒） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 個別提出物（実習レポートの記載内容）40% 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・「給食経営管理実習Ⅰ課外科目」を同時に履修しなければならない。（単位には算入されない） ・実習中は指定の実習着と実習靴を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・1/3以上欠席した者は原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り、責任をもって役割を遂行すること。 ・一方のクラスの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする） ・試作日と給食実習の前日には、準備作業があります。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美ほか(みらい) 改訂新版 大量調理―品質管理と調理の実際―、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院)						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習I 課外科目						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	給食実習として、実習内容を班で役割分担し、ローテーションする。 第1回 実習準備 第2回 栄養士 第3回 下処理・洗浄 第4回 調理 第5回 評価 第6回 調査 第7回 パート業務						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。						
評価基準と評価方法	「給食経営管理実習I 課外科目」は単位化されないため、「給食経営管理実習I」として評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中は指定の実習着を着用する。</li> <li>・連絡や報告にはmanabaを用いる。</li> <li>・いずれの日も無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaに連絡を入れておくこと。</li> <li>・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は、実習作業に従事できません。</li> <li>・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。</li> <li>・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある）</li> </ul>						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美ほか(みらい) 改訂新版 大量調理-品質管理と調理の実践-、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) 978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院) 978-4-7624-0878-6						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習I 課外科目						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（大量調理）						
授業の概要	給食経営管理実習室において、給食経営管理に関わる基礎的な実務（献立計画・調理計画・発注・検収・調理と提供・品質管理・評価）をローテーションで行う。						
到達目標	栄養や衛生、経営面に配慮し、他者と連携し、管理栄養士として給食経営管理業務をマネジメントすることができる。【汎用的技能】						
授業計画	給食実習として、実習内容を班で役割分担し、ローテーションする。 第1回 実習準備 第2回 栄養士 第3回 下処理・洗浄 第4回 調理 第5回 評価 第6回 調査 第7回 パート業務						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。						
評価基準と評価方法	「給食経営管理実習I 課外科目」は単位化されないため、「給食経営管理実習I」として評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習中は指定の実習着を着用する。</li> <li>・連絡や報告にはmanabaを用いる。</li> <li>・いずれの日も無断欠席・遅刻は厳禁する。manabaに連絡を入れておくこと。</li> <li>・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は、実習作業に従事できません。</li> <li>・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。</li> <li>・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある）</li> </ul>						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美ほか(みらい) 改訂新版 大量調理-品質管理と調理の実際-、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) 978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院) 978-4-7624-0878-6						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習Ⅱ						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N73050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（応用）						
授業の概要	給食経営管理実習Ⅰの内容を発展させ、学内実習施設を使用して様々な喫食者を想定した給食提供の計画、実施、評価を行う。レディフードシステムにおける新調理システム（クックチル、クックフリーズ、真空調理）について実習を行い、実際の給食提供における利用の可能性について検討する。献立作成や栄養価計算は現場で使用されている給食経営管理ソフトを活用し、事務の効率化について理解する。また、災害時の給食マネジメントとして、給食施設における備蓄食材の考え方と提供方法について学ぶ。						
到達目標	(1)新調理システム（クックチル・クックフリーズ・真空調理）を活用した給食提供ができる。【汎用的技能】 (2)災害などの非常時における給食提供に必要な内容について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション ゲストスピーカーによる講話 第2回 配食サービス計画①献立作成 第3回 真空調理 第4回 配食サービス計画②作業管理 第5回 非常時における給食マネジメント①簡易真空調理（バッククッキング） 第6回 非常時における給食マネジメント②備蓄食材を用いた食事提供 第7回 非常時における給食マネジメント③炊き出し訓練 第8回 配食サービス計画③試作 第9回 配食サービス計画④試作検討 第10回 配食サービス実習①（準備） 第11回 配食サービス実習②（栄養士） 第12回 配食サービス実習③（下処理・洗浄） 第13回 配食サービス実習④（調理） 第14回 配食サービス実習⑤（評価・配食） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループでディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 炊き出し訓練では4年生SAの指示のもと屋外での調理と配食を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 到達目標(1)(2)の確認 個別提出物（レポートの記載内容、献立課題）40% 到達目標(1)(2)の確認 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 到達目標(1)の確認 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>調理室では指定の実習着を着用する。</li> <li>連絡や報告にはmanabaを用いる。</li> <li>いずれの日も無断欠席・遅刻は禁止する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。</li> <li>日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。</li> <li>グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。</li> <li>1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある）</li> <li>試作と配食サービス実習の前日には準備作業がある。</li> <li>炊き出し訓練と配食サービス実習は屋休みを試食と反省会の時間とする。</li> </ul>						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美(みらい) 改訂新版 大量調理—品質管理と調理の実際—、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第4版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) 978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院) 978-4-7624-0878-6						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理実習Ⅱ						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N73050
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（応用）						
授業の概要	給食経営管理実習Ⅰの内容を発展させ、学内実習施設を使用して様々な喫食者を想定した給食提供の計画、実施、評価を行う。レディフードシステムにおける新調理システム（クックチル、クックフリーズ、真空調理）について実習を行い、実際の給食提供における利用の可能性について検討する。献立作成や栄養価計算は現場で使用されている給食経営管理ソフトを活用し、事務の効率化について理解する。また、災害時の給食マネジメントとして、給食施設における備蓄食材の考え方と提供方法について学ぶ。						
到達目標	(1)新調理システム（クックチル・クックフリーズ・真空調理）を活用した給食提供ができる。【汎用的技能】 (2)災害などの非常時における給食提供に必要な内容について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション ゲストスピーカーによる講話 第2回 配食サービス計画①献立作成 第3回 真空調理 第4回 配食サービス計画②作業管理 第5回 非常時における給食マネジメント①簡易真空調理（バッククッキング） 第6回 非常時における給食マネジメント②備蓄食材を用いた食事提供 第7回 非常時における給食マネジメント③炊き出し訓練 第8回 配食サービス計画③試作 第9回 配食サービス計画④試作検討 第10回 配食サービス実習①（準備） 第11回 配食サービス実習②（栄養士） 第12回 配食サービス実習③（下処理・洗浄） 第13回 配食サービス実習④（調理） 第14回 配食サービス実習⑤（評価・配食） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。						
授業方法	実習と演習 グループでディスカッションしながら給食のトータルシステムを実践する。 炊き出し訓練では4年生SAの指示のもと屋外での調理と配食を行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（準備の状況、衛生管理点検表の記録状況）20% 到達目標(1)(2)の確認 個別提出物（レポートの記載内容、献立課題）40% 到達目標(1)(2)の確認 班別提出物（給食経営管理に関する各種帳票の記載状況）40% 到達目標(1)の確認 提出物については、期日を守り丁寧に分かりやすく記載されているかを評価する。						
履修上の注意	・調理室では指定の実習着を着用する。 ・連絡や報告にはmanabaを用いる。 ・いずれの日も無断欠席・遅刻は禁止する。manabaプロジェクトに連絡を入れておくこと。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。20分以上の遅刻は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・試作と配食サービス実習の前日には準備作業がある。 ・炊き出し訓練と配食サービス実習は屋休みを試食と反省会の時間とする。						
教科書	実習書を配布する。2年後期の給食経営計画実習で配布したファイルに続けて保管する。 以下は購入済み 給食経営管理論(第2版) 片山直美・原正美(みらい) 改訂新版 大量調理—品質管理と調理の実際—、殿塚婦美子(学建書院) 給食経営管理実習ワークブック[第4版] 藤原政嘉ほか(みらい) 新版 トータルクッキング 大喜多祥子(講談社)						
参考書	NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ(同文書院) 978-4-8103-1395-6 イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子(学建書院) 978-4-7624-0882-3 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課(学建書院) 978-4-7624-0878-6						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02520
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理に関連する基礎知識を学ぶ						
授業の概要	特定多数人に対して継続的に食事を提供する給食施設の経営管理について講義する。給食を提供する施設の法的根拠、給食のオペレーションシステム、経営管理（給食の資源、マーケティング、組織）、品質管理、原価管理、食材料管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事管理について概説する。これらの内容を、給食施設における栄養士・管理栄養士の業務内容として勘案し、適切に実践例を示すことにより理解させる。						
到達目標	(1) 給食提供が複数のサブシステムで構成されていることを理解する。【知識・理解】 (2) 特定給食施設の関連法規を理解している。【知識・理解】 (3) 給食経営管理の各サブシステムとその業務内容について関連づけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 給食の概要 第2回 給食施設と関連法規 第3回 給食の経営管理 第4回 栄養・食事管理①食事計画 第5回 栄養・食事管理②評価 第6回 品質管理 第7回 会計・原価管理 第8回 食材管理 第9回 生産（調理）管理 第10回 安全・衛生管理 第11回 施設・設備管理 第12回 人事・事務管理 第13回 学校給食 第14回 病院給食 第15回 福祉施設給食						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回の授業の内容の復習テストを実施するので準備する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施回の翌々週の授業までとする。（2時間） 授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実に行う。（2時間）						
授業方法	講義とテーマに関するグループまたはペアによるディスカッション。						
評価基準と評価方法	平常点（忘れ物・リアクションシート）20% 課題提出物10% テスト（復習テスト全14回と定期試験）70% 復習テストは、次回に返却して質問を受け付ける。						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・私語厳禁 ・「給食経営管理論」の取得単位は、4年次の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件である。 ・給食経営管理実習Ⅰの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする）						
教科書	給食経営管理論 [第2版] 片山直美 原正美（みらい） ISBN 978-4-86015-464-6 以下は購入済み 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営管理論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02520
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理に関連する基礎知識を学ぶ						
授業の概要	特定多数人に対して継続的に食事を提供する給食施設の経営管理について講義する。給食を提供する施設の法的根拠、給食のオペレーションシステム、経営管理（給食の資源、マーケティング、組織）、品質管理、原価管理、食材料管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理、施設・設備管理、人事管理について概説する。これらの内容を、給食施設における栄養士・管理栄養士の業務内容として勘案し、適切に実践例を示すことにより理解させる。						
到達目標	(1) 給食提供が複数のサブシステムで構成されていることを理解する。【知識・理解】 (2) 特定給食施設の関連法規を理解している。【知識・理解】 (3) 給食経営管理の各サブシステムとその業務内容について関連づけることができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 給食の概要 第2回 給食施設と関連法規 第3回 給食の経営管理 第4回 栄養・食事管理①食事計画 第5回 栄養・食事管理②評価 第6回 品質管理 第7回 会計・原価管理 第8回 食材管理 第9回 生産（調理）管理 第10回 安全・衛生管理 第11回 施設・設備管理 第12回 人事・事務管理 第13回 学校給食 第14回 病院給食 第15回 福祉施設給食						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回の授業の内容の復習テストを実施するので準備する。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施回の翌々週の授業までとする。（2時間） 授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実に行う。（2時間）						
授業方法	講義とテーマに関するグループまたはペアによるディスカッション。						
評価基準と評価方法	平常点（忘れ物・リアクションシート）20% 課題提出物10% テスト（復習テスト全14回と定期試験）70% 復習テストは、次回に返却して質問を受け付ける。						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・私語厳禁 ・「給食経営管理論」の取得単位は、4年次の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件である。 ・給食経営管理実習Ⅰの給食を喫食し、指定された内容のレポートを授業の最終日に提出すること。（給食費は自己負担とする）						
教科書	給食経営管理論 [第2版] 片山直美 原正美（みらい） ISBN 978-4-86015-464-6 以下は購入済み 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営計画実習						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（栄養食事計画と設備機器管理）						
授業の概要	給食経営管理において最も重視されることは、安全な食事を提供することである。この科目では、学内の実習施設において「大量調理施設衛生管理マニュアル」の記載事項に則り、食材管理、施設・設備管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理の手法について実習する。また、給食経営管理に関わる事務作業である食材の発注、衛生管理に関わる記録を取り扱う各種帳票管理についても実習する。施設の機器を実際に使用し、大量調理の方法と特徴についても理解を深める。						
到達目標	(1) HACCPに基づいた作業工程を実践できる。【汎用性技能】 (2) 給食経営管理に関わる各種帳票の記入と管理ができる。【汎用性技能】 (3) 給食施設の施設・設備の管理ができる。【汎用性技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食材管理（発注と出庫）味覚検査1回目 第3回 施設・設備管理 第4回 衛生管理①（大量調理施設衛生管理マニュアル試験） 第5回 作業管理 第6回 衛生管理②（消毒） 第7回 厨房実習①（検収） 第8回 厨房実習②（下処理） 第9回 厨房実習③（炊飯） 第10回 厨房実習④（調理機器操作） 第11回 厨房実習⑤（盛り付け） 第12回 厨房実習⑥（洗浄） 第13回 ゲストスピーカーによる講話 第14回 厨房実習まとめ 味覚検査2回目 第15回 実技試験と最終レポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。 食材の重量の日安を自宅などで確認する「目測訓練」を行い、様式に記録しておく。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でのディスカッション、データの共有						
評価基準と評価方法	試験（大量調理施設衛生管理マニュアル、実技試験）50% 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物（実習レポート、目測訓練）25% 到達目標(1)(3)の確認 実習態度（実習への取り組み）25% 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物は期日を守り丁寧に分かりやすく記載しているかを評価する。						
履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁する。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・本実習の取得単位は、3年次の「校外実習」履修要件である。 ・調理室では指定の実習着と靴を着用する。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・厨房実習①～⑥については、昼休みに試食や実習室の後片付けを行う。						
教科書	適宜資料を配布するのでファイルしておく。 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）978-4-06-139843-6 給食経営管理実習ワークブック【第3版】藤原政嘉ほか（みらい）978-4-86015-189-8 改定新版大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-2872-2 以下購入済み 給食経営管理論【第2版】片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						

参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子 (学建書院) 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 (学建書院) あすの健康と調理 三輪里子監修 (アイ・ケイコーポレーション)
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営計画実習						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02530
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	学内実習施設における給食経営管理（栄養食事計画と設備機器管理）						
授業の概要	給食経営管理において最も重視されることは、安全な食事を提供することである。この科目では、学内の実習施設において「大量調理施設衛生管理マニュアル」の記載事項に則り、食材管理、施設・設備管理、生産（調理）管理、安全・衛生管理の手法について実習する。また、給食経営管理に関わる事務作業である食材の発注、衛生管理に関わる記録を取り扱う各種帳票管理についても実習する。施設の機器を実際に使用し、大量調理の方法と特徴についても理解を深める。						
到達目標	(1) HACCPに基づいた作業工程を実践できる。【汎用性技能】 (2) 給食経営管理に関わる各種帳票の記入と管理ができる。【汎用性技能】 (3) 給食施設の施設・設備の管理ができる。【汎用性技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 食材管理（発注と出庫）味覚検査1回目 第3回 施設・設備管理 第4回 衛生管理①（大量調理施設衛生管理マニュアル試験） 第5回 作業管理 第6回 衛生管理②（消毒） 第7回 厨房実習①（検収） 第8回 厨房実習②（下処理） 第9回 厨房実習③（炊飯） 第10回 厨房実習④（調理機器操作） 第11回 厨房実習⑤（盛り付け） 第12回 厨房実習⑥（洗浄） 第13回 ゲストスピーカーによる講話 第14回 厨房実習まとめ 味覚検査2回目 第15回 実技試験と最終レポートの作成						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	日常から積極的に調理に携わる機会をもつ。 実習書や作業計画書を熟読し、当日の自分の作業内容のみならず全体の流れを十分に把握しておくこと。 食材の重量の日安を自宅などで確認する「目測訓練」を行い、様式に記録しておく。						
授業方法	実習と演習 グループ内、グループ間でのディスカッション、データの共有						
評価基準と評価方法	試験（大量調理施設衛生管理マニュアル、実技試験）50% 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物（実習レポート、目測訓練）25% 到達目標(1)(3)の確認 実習態度（実習への取り組み）25% 到達目標(1)(2)(3)の確認 提出物は期日を守り丁寧に分かりやすく記載しているかを評価する。						
履修上の注意	・無断欠席・遅刻は厳禁する。 ・1/3以上欠席した者は、原則単位認定を行わない。（交通機関延着による場合は証明があれば考慮することもある） ・本実習の取得単位は、3年次の「校外実習」履修要件である。 ・調理室では指定の実習着と靴を着用する。 ・日常から個人の衛生管理・体調管理につとめること。健康状態が疑わしい人は実習作業に従事できません。 ・グループでの作業や話し合いが多い実習であるため、お互いにコミュニケーションを図り責任をもって役割を遂行すること。 ・厨房実習①～⑥については、昼休みに試食や実習室の後片付けを行う。						
教科書	適宜資料を配布するのでファイルしておく。 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社）978-4-06-139843-6 給食経営管理実習ワークブック【第3版】藤原政嘉ほか（みらい）978-4-86015-189-8 改定新版大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院）978-4-7624-2872-2 以下購入済み 給食経営管理論【第2版】片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						

参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子 (学建書院) 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 (学建書院) あすの健康と調理 三輪里子監修 (アイ・ケイコーポレーション)
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営計画論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02510
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理における栄養・食事管理について学ぶ。						
授業の概要	この科目では、特定給食施設における献立作成基準の作成、給与栄養目標量ならびに食品構成の考え方と設定の手順、献立の立案、評価と改善の方法について講義する。特定給食施設は、特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設である。栄養士・管理栄養士は、喫食対象者を定期的にあセスメントし、喫食者の嗜好に配慮した食事を提供する。給食の目的は喫食者の健康増進であることに加えて、各種施設の特性にも配慮した栄養・食事管理のあり方を理解する。						
到達目標	(1) 給食の目的は喫食者の健康増進であり、喫食者の特性に配慮することを理解する【知識・理解】 (2) 給食対象者に応じた栄養食事管理の流れを説明できる。【知識・理解】 (3) 給与栄養目標量に見合った献立作成とその評価ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養・食事管理の概要 第2回 栄養・食事計画（食事摂取基準） 第3回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画①エネルギーの設定 第4回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画②栄養素の設定 第5回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画③解説 第6回 献立作成基準と食品構成 第7回 食品群別荷重平均成分表①食品集計 第8回 食品群別荷重平均成分表②荷重平均成分値の設定 第9回 食品構成①穀類・動物性食品群の設定 第10回 食品構成②その他食品群の設定 第11回 献立計画 第12回 献立の評価と改善 第13回 献立作成①食品構成の活用 第14回 献立作成②給食経営管理ソフトの使用 第15回 試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回の授業の内容の復習テストを実施するので準備しておく。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施日の翌週の授業までとする。 管理栄養士国家試験（給食経営管理論）の解説をグループごとに行うので準備しておく。（2時間） 授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実にやる。（2時間）						
授業方法	講義と演習 グループ内、グループ間でのディスカッションやデータの共有を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（グループ課題の内容、リアクションシート）20% 到達目標(1)(2)(3)の確認 課題提出物 10% 到達目標(2)(3)の確認 テスト（復習テストと定期試験）70% 到達目標(1)(2)(3)の確認						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ・私語厳禁						
教科書	給食経営計画実習（後期）で購入済み 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院） 以下、購入済み 給食経営管理論 [第2版] 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	給食経営計画論						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバ-	N02510
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	給食経営管理における栄養・食事管理について学ぶ。						
授業の概要	この科目では、特定給食施設における献立作成基準の作成、給与栄養目標量ならびに食品構成の考え方と設定の手順、献立の立案、評価と改善の方法について講義する。特定給食施設は、特定多数人に対して継続的に食事を提供する施設である。栄養士・管理栄養士は、喫食対象者を定期的にあセスメントし、喫食者の嗜好に配慮した食事を提供する。給食の目的は喫食者の健康増進であることに加えて、各種施設の特性にも配慮した栄養・食事管理のあり方を理解する。						
到達目標	(1) 給食の目的は喫食者の健康増進であり、喫食者の特性に配慮することを理解する【知識・理解】 (2) 給食対象者に応じた栄養食事管理の流れを説明できる。【知識・理解】 (3) 給与栄養目標量に見合った献立作成とその評価ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養・食事管理の概要 第2回 栄養・食事計画（食事摂取基準） 第3回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画①エネルギーの設定 第4回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画②栄養素の設定 第5回 給与エネルギーと給与栄養素量の計画③解説 第6回 献立作成基準と食品構成 第7回 食品群別荷重平均成分表①食品集計 第8回 食品群別荷重平均成分表②荷重平均成分値の設定 第9回 食品構成①穀類・動物性食品群の設定 第10回 食品構成②その他食品群の設定 第11回 献立計画 第12回 献立の評価と改善 第13回 献立作成①食品構成の活用 第14回 献立作成②給食経営管理ソフトの使用 第15回 試験とまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回の授業の内容の復習テストを実施するので準備しておく。テストは翌週の授業で返却するので、各自で正答を確認しておくこと。質問や訂正はテスト実施日の翌週の授業までとする。 管理栄養士国家試験（給食経営管理論）の解説をグループごとに行うので準備しておく。（2時間） 授業後学習：授業の復習を行うこと。教科書を見直し、配布資料への追記や提示された課題は確実にやる。（2時間）						
授業方法	講義と演習 グループ内、グループ間でのディスカッションやデータの共有を行う。						
評価基準と評価方法	平常点（グループ課題の内容、リアクションシート）20% 到達目標(1)(2)(3)の確認 課題提出物 10% 到達目標(2)(3)の確認 テスト（復習テストと定期試験）70% 到達目標(1)(2)(3)の確認						
履修上の注意	・出席回数が開講日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行わない。 ・20分以上遅刻の場合は、欠席とする（交通機関延着による遅刻は、延着証明がある場合は遅刻としない） ・私語厳禁						
教科書	給食経営計画実習（後期）で購入済み 新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） 給食経営管理実習ワークブック[第3版] 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－ 殿塚婦美子（学建書院） 以下、購入済み 給食経営管理論 [第2版] 片山直美 原正美（みらい） 新カラーチャート食品成分表～全食品・全成分項目掲載～（教育図書）						
参考書	イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養とは何か、その意義について理解する。さらに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学び、エネルギー・栄養素の代謝とその生理的意義について理解することを目標とする。そのために、人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品の栄養成分が生体の構成成分としての栄養素への代謝変換され、さらに臓器間の連携によって体内で栄養素相互の変換が行われるという、一連の栄養代謝の全体像として捉える。						
授業の概要	食物に含まれる栄養素が体内でどのように加工され、利用されているのかを理解するため、①栄養の概念、②消化・吸収と栄養素の体内動態、③五大栄養素の栄養、④エネルギー代謝、⑤遺伝子発現と栄養について解説する。						
到達目標	1. 栄養とは何かを説明できる【知識・理解】 2. 栄養素の消化・吸収について説明できる【知識・理解】 3. 栄養素の代謝について説明できる【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養の概念、食物の摂取 第2回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第3回 糖質の栄養(1) 糖質の代謝、血糖とその調節 第4回 糖質の栄養(2) エネルギー源としての糖質、他の栄養素との関係 第5回 脂質の栄養(1) 脂質の体内代謝、脂質の臓器間輸送 第6回 脂質の栄養(2) 貯蔵エネルギーとしての脂質、コレステロールの代謝調節 第7回 中間テスト、たんぱく質の栄養(1) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 第8回 たんぱく質の栄養(2) アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の栄養価、他の栄養素との関係 第9回 ビタミンの栄養(1) 脂溶性ビタミン 第10回 ビタミンの栄養(2) 水溶性ビタミン 第11回 ミネラルの栄養(1) 多量元素 第12回 ミネラルの栄養(2) 微量元素 第13回 水・電解質の代謝 第14回 エネルギー代謝 第15回 遺伝子発現と栄養、 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書の当該箇所を予習し、疑問点を把握しておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容を復習する。課題を行う。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 松蔭manabaを利用して課題を課す場合がある。						
評価基準と評価方法	試験 (到達目標1.～3.の確認)						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。)						
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 (第6版) 梶田康孝、真鍋祐之、鈴木和春著 第一出版株式会社 ISBN: 978-4-8041-1402-6  管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第8版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN: 9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02290
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	栄養とは何か、その意義について理解する。さらに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学び、エネルギー・栄養素の代謝とその生理的意義について理解することを目標とする。そのために、人間の個体レベルでの栄養現象を、摂取した食品の栄養成分が生体の構成成分としての栄養素への代謝変換され、さらに臓器間の連携によって体内で栄養素相互の変換が行われるという、一連の栄養代謝の全体像として捉える。						
授業の概要	食物に含まれる栄養素が体内でどのように加工され、利用されているのかを理解するため、①栄養の概念、②消化・吸収と栄養素の体内動態、③五大栄養素の栄養、④エネルギー代謝、⑤遺伝子発現と栄養について解説する。						
到達目標	1. 栄養とは何かを説明できる【知識・理解】 2. 栄養素の消化・吸収について説明できる【知識・理解】 3. 栄養素の代謝について説明できる【知識・理解】						
授業計画	第1回 栄養の概念、食物の摂取 第2回 消化・吸収と栄養素の体内動態 第3回 糖質の栄養(1) 糖質の代謝、血糖とその調節 第4回 糖質の栄養(2) エネルギー源としての糖質、他の栄養素との関係 第5回 脂質の栄養(1) 脂質の体内代謝、脂質の臓器間輸送 第6回 脂質の栄養(2) 貯蔵エネルギーとしての脂質、コレステロールの代謝調節 第7回 中間テスト、たんぱく質の栄養(1) たんぱく質・アミノ酸の体内代謝 第8回 たんぱく質の栄養(2) アミノ酸の臓器間輸送、たんぱく質の栄養価、他の栄養素との関係 第9回 ビタミンの栄養(1) 脂溶性ビタミン 第10回 ビタミンの栄養(2) 水溶性ビタミン 第11回 ミネラルの栄養(1) 多量元素 第12回 ミネラルの栄養(2) 微量元素 第13回 水・電解質の代謝 第14回 エネルギー代謝 第15回 遺伝子発現と栄養、 期末テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：教科書の当該箇所を予習し、疑問点を把握しておく。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容を復習する。課題を行う。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 松蔭manabaを利用して課題を課す場合がある。						
評価基準と評価方法	試験 (到達目標1.～3.の確認)						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。)						
教科書	サクセス管理栄養士・栄養士養成講座 基礎栄養学 (第6版) 梶田康孝、真鍋祐之、鈴木和春著 第一出版株式会社 ISBN: 978-4-8041-1402-6  管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第8版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN: 9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02300
学期	後期隔週B	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養学の基礎である消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝の深い理解をめざして実験を行う。						
授業の概要	食品学実験で習得した実験技術を基盤に、生化学実験との連携のもと、生体成分などを実際に取り扱うことにより、実験を通じて基礎栄養学で得た知識をより深く理解することを目的とする。 基礎栄養学で取り扱う、栄養素の消化・吸収、体内動態や代謝に対する深い理解を目指し、①栄養素の酵素消化実験、②生体成分に含まれる、糖質・脂質・タンパク質などの定量および分析、③エネルギー消費測定、を実験内容とする。						
到達目標	(1) 基礎栄養学（講義）での内容を、実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】 (2) 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに（実験の心得、試薬調製） でんぶんのin vitro消化実験 第2回 脂肪、タンパク質のin vitro消化実験 糖質実験（でんぶん、食べるとどうなる？） 第3回 脂質実験（卵の黄身、食べるとどうなる？） 第4回 肝臓グリコーゲンの分離と定量 第5回 肝臓脂質の抽出と定量 第6回 酵素実験Ⅰ（反応時間、基質との親和性、阻害） 第7回 酵素実験Ⅱ（温度依存性、pH依存性、補酵素） 第8回 エネルギー代謝、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	レポート（課題を含む）で評価する。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、結果の書き方、考察を重視する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎栄養学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02300
学期	後期隔週A	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養学の基礎である消化・吸収、栄養素の体内動態や代謝の深い理解をめざして実験を行う。						
授業の概要	食品学実験で習得した実験技術を基盤に、生化学実験との連携のもと、生体成分などを実際に取り扱うことにより、実験を通じて基礎栄養学で得た知識をより深く理解することを目的とする。 基礎栄養学で取り扱う、栄養素の消化・吸収、体内動態や代謝に対する深い理解を目指し、①栄養素の酵素消化実験、②生体成分に含まれる、糖質・脂質・タンパク質などの定量および分析、③エネルギー消費測定、を実験内容とする。						
到達目標	(1) 基礎栄養学（講義）での内容を、実験を通じて理解を深めることができる。【知識・理解】 (2) 得られた実験結果について、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに（実験の心得、試薬調製） でんぶんのin vitro消化実験 第2回 脂肪、タンパク質のin vitro消化実験 糖質実験（でんぶん、食べるとどうなる？） 第3回 脂質実験（卵の黄身、食べるとどうなる？） 第4回 肝臓グリコーゲンの分離と定量 第5回 肝臓脂質の抽出と定量 第6回 酵素実験Ⅰ（反応時間、基質との親和性、阻害） 第7回 酵素実験Ⅱ（温度依存性、pH依存性、補酵素） 第8回 エネルギー代謝、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	レポート（課題を含む）で評価する。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、結果の書き方、考察を重視する。到達目標(1)(2)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎化学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N71080
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食品と化学（特に有機化学）						
授業の概要	化学は、食と健康に関する様々な反応や現象を理解するために必要な基礎科目である。本科目では、食品中の成分変化や生体内での物質変化などを理解するためのツールとして、化学(特に有機化学)を扱えるようになることを目標としている。その目標に到達する中で、化学現象の背後にある原理の理解や論理的に考えるための基礎知識を身につける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の成り立ちについて理解することができる【知識・理解】</li> <li>・化学を身近なものとして感じ、原子・分子レベルで物をみて考えることができる【知識・理解】</li> <li>・食品学の基礎となる化学の知識を身につける【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回 有機化学を学ぶ前に：有効数字、単位、割合、濃度 第2回 有機化学の基礎：①定義と基本 第3回 有機化学の基礎：②物質と原子の構造 第4回 有機化学の基礎：③化学結合（イオン結合） 第5回 有機化学の基礎：④化学結合（共有結合、金属結合） 第6回 有機化学の基礎：⑤原子量、分子量 第7回 有機化学の基礎：⑥物質と化学反応式 第8回 有機化学の基礎：⑦酸と塩基、pH 第9回 有機化学の基礎：⑧酸化還元反応 第10回 有機化学の基礎：⑨酵素反応 第11回 食品中の有機化合物：①有機化合物 第12回 食品中の有機化合物：②糖質 第13回 食品中の有機化合物：③脂質 第14回 食品中の有機化合物：④たんぱく質 第15回 食品中の有機化合物：⑤核酸 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回学んだことを思い出しておくこと。 また、高等学校で「化学」を履修していない者は、各自の理解度に応じて高等学校の「化学基礎」や「化学」の教科書を復習しておくこと。 高等学校で「化学」を履修した者は、当該回の教科書を通読し、その授業回でどのようなことを学ぶのか、確認しておくこと。（標準学習時間：2時間）  授業後学習：授業内容を教科書に沿って復習すること。課題が出された場合は、早めに取り組むこと。 化学の知識は、これまでの履修の有無に拘わらず、栄養士・管理栄養士を目指す上で多くの分野の基礎となるため必須である。 教科書の内容を理解できるまで復習し、オフィスアワー等も活用して理解すること（標準学習時間：2時間）。						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	小テストや課題：30% 期末試験：70%						
履修上の注意	疑問点や不明点は、後回しにせず早めに解決すること。 20分未満の遅刻や早退は、原則として1/3回欠席扱いとする。 20分以上の遅刻や早退は、原則として欠席扱いとする。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。						
教科書	『生理学・生化学につながる ていねいな化学』白戸亮吉・小川由香里、鈴木研太 著／羊土社 ISBN 978-4-7581-2100-2						

参考書	・『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 小野 廣紀ほか 化学同人 ISBN 978-4-7598-1941-0 ※計算が極めて苦手な者や、練習問題を通して復習をしたい者向け。
-----	---

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	基礎生物						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバー	N71090
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	専門科目の学びに必要な、高校生物の復習を行う。一部、発展的な内容も取り扱う。						
授業の概要	専門基礎分野「人体の構造・機能および疾病の成り立ち」及び、専門分野「応用栄養学」「臨床栄養学」を中心に、生物の基本的な知識が必要となる。専門科目の学びを円滑に進めるため、生物の基本事項の確認を行う。						
到達目標	授業で取り扱う項目（細胞、代謝、恒常性、身体の主な生理作用など）について、文章や口頭で説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回：オリエンテーション、世界を構成する物質 第2回：生体物質と、身体内外の圧力 第3回：細胞 第4回：エネルギーと代謝（呼吸） 第5回：細胞分裂、生殖と遺伝 第6回：遺伝情報・DNAとタンパク質 第7回：細胞と電気、血液 第8回：中間まとめと試験 第9回：人体の階層構造（組織と器官） 第10回：ホメオスタシス（ホルモン：視床下部、下垂体、甲状腺） 第11回：ホメオスタシス（ホルモン：副腎、性腺、膵臓など） 第12回：生体防御と免疫 第13回：器官系（骨と筋肉）（消化器）人体の階層構造（感覚器、内分泌、生殖器） 第14回：成長と老化 第15回：期末まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従い、その日の内容について教科書などで下調べを行う（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った、問題の解説をノートに作成する。図なども積極的に加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義とグループ学習 松蔭マナバを用いて、タブレット端末、スマートフォンを利用した課題へのとりくみ						
評価基準と評価方法	出席や課題提出を含めた授業態度（10%）、試験（90%）						
履修上の注意	・講義では、双方向的な学習を行うため、発言をもとめたり、理解度を挙手で示すことを求めたりすることがある。積極的に参加すること。 ・授業の後半で、松蔭マナバを用いた課題設定を行う。未提出は成績評価を減じることになるので、注意すること。 ・20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 ・出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中の無断退出は認めません。許可無く携帯電話を使用しないこと。平常点の中で、減点対象とします。（授業中に退出の必要がある人は、申し出ること） ・履修ガイドの「受講上の注意」をよく読んでおくこと。						
教科書	①『楽しくわかる生物・化学・物理』（岡田隆夫、羊土社） ②『人体の構造と生理機能』（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） *②は、1年生後期からの専門科目「解剖生理学」などで主に使用する教科書。前期のうちに購入し、基礎生物の授業においても、専門科目の導入のために使用する。						
参考書	『忘れてしまった高校の生物を復習する本』（大森徹、KADOKAWA）						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	健康・環境論						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N01030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生態系・環境と健康、主要生活習慣病、感染症の理解						
授業の概要	生物を取り巻くすべてを「環境」という。生物は環境との相互作用の中で生きており、人の健康を考える上で、人と環境の双方向に影響を与えるあらゆる因子が、健康を支え、反対に健康被害を引き起こし得ることを理解する。さらに、地球環境をはじめとする自然環境や、身近な生活環境を理解し、すべての「環境」を快適に保つための努力が、持続可能な次世代を構築するために重要な課題であることを認識する。						
到達目標	地球規模ならびにわが国の環境問題と対策を概説できる。【知識・理解】わが国の生活習慣病、感染症、その他主要疾患について、その動向と現状及び対策を理解する。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と公衆衛生</li> <li>2. 環境と健康 - 生態系と環境の保全 地球規模の環境破壊</li> <li>3. 環境と健康 - 環境汚染と健康影響</li> <li>4. 環境と健康 - 環境衛生</li> <li>5. 生活習慣の現状と対策 - 食生活と栄養、身体活動・運動</li> <li>6. 生活習慣の現状と対策 - 睡眠・休養・ストレス</li> <li>7. 生活習慣の現状と対策 - 喫煙、飲酒</li> <li>8. 生活習慣病</li> <li>9. 生活習慣病の疫学と対策 - 悪性新生物</li> <li>10. 生活習慣病の疫学と対策 - 循環器疾患</li> <li>11. 生活習慣病の疫学と対策 - 骨・関節疾患、歯・口腔疾患</li> <li>12. 感染症対策 - 感染症と疫学、感染症法</li> <li>13. 感染症対策 - 予防接種法、検疫法、世界の感染症</li> <li>14. 精神保健対策</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行い、松陰manabaのレポート課題を行う。授業後は配布プリントを必ず復習する。予習・復習各90分。						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テストを行う。 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 反転授業（事前学習にて収集した情報の知識確認を行う）、松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。 ※PC設置教室の場合。						
評価基準と評価方法	課題10%、小テスト40%、期末試験50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2020年版 ISBN978-4-263-70746-3 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第8版女子栄養大学出版社 ISBN-13: 978-4-78952-445-2						
参考書	公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN: 978-4-89632-687-1 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6 公衆衛生マニュアル 2019 南山堂 ISBN:978-4-525-18737-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	健康・環境論						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N01030
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	生態系・環境と健康、主要生活習慣病、感染症の理解						
授業の概要	生物を取り巻くすべてを「環境」という。生物は環境との相互作用の中で生きており、人の健康を考える上で、人と環境の双方向に影響を与えるあらゆる因子が、健康を支え、反対に健康被害を引き起こし得ることを理解する。さらに、地球環境をはじめとする自然環境や、身近な生活環境を理解し、すべての「環境」を快適に保つための努力が、持続可能な次世代を構築するために重要な課題であることを認識する。						
到達目標	地球規模ならびにわが国の環境問題と対策を概説できる。【知識・理解】わが国の生活習慣病、感染症、その他主要疾患について、その動向と現状及び対策を理解する。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健康と公衆衛生</li> <li>2. 環境と健康 - 生態系と環境の保全 地球規模の環境破壊</li> <li>3. 環境と健康 - 環境汚染と健康影響</li> <li>4. 環境と健康 - 環境衛生</li> <li>5. 生活習慣の現状と対策 - 食生活と栄養、身体活動・運動</li> <li>6. 生活習慣の現状と対策 - 睡眠・休養・ストレス</li> <li>7. 生活習慣の現状と対策 - 喫煙、飲酒</li> <li>8. 生活習慣病</li> <li>9. 生活習慣病の疫学と対策 - 悪性新生物</li> <li>10. 生活習慣病の疫学と対策 - 循環器疾患</li> <li>11. 生活習慣病の疫学と対策 - 骨・関節疾患、歯・口腔疾患</li> <li>12. 感染症対策 - 感染症と疫学、感染症法</li> <li>13. 感染症対策 - 予防接種法、検疫法、世界の感染症</li> <li>14. 精神保健対策</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行い、松陰manabaのレポート課題を行う。授業後は配布プリントを必ず復習する。予習・復習各90分。						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テストを行う。 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 反転授業（事前学習にて収集した情報の知識確認を行う）、松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。 ※PC設置教室の場合。						
評価基準と評価方法	課題10%、小テスト40%、期末試験50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2020年版 ISBN978-4-263-70746-3 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第8版女子栄養大学出版社 ISBN-13: 978-4-78952-445-2						
参考書	公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN: 978-4-89632-687-1 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6 公衆衛生マニュアル 2019 南山堂 ISBN:978-4-525-18737-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	校外実習						
担当教員	橘 ゆかり・作田 はるみ					科目ナンバ-	N03570
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養士養成に必要な単位である「給食の運営」（1単位）に必要な知識、技術を給食現場における実践を通して習得する。						
授業の概要	実習施設で給食費、献立作成、材料発注、検収、食数管理、調理作業、配膳などの給食サービス提供に関する基本的業務を体験する。授業で学んだ知識を現実のものとして再認識することができ、より深く学ぶ事の必要性を感じることでできる実習にする。						
到達目標	学外施設での実習を通じて授業で学習した「給食の運営」の知識やスキルを応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	事業所・社会福祉施設・病院等において5日間の学外実習を行う。 「臨地・校外実習課外科目（3年生）」の中で事前指導および事後指導を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	校外実習期間または「臨地・校外実習課外科目」の時間以外に、実習施設との打ち合わせおよび課題の準備が必要になります。						
授業方法	実習（学外）：5日間の学外実習および「臨地・校外実習課外科目」において、実習の事前事後学習を行う。						
評価基準と評価方法	実習施設の評価点：65%、事前学習、事後学習および実習ノートの記録等の評価：35% 実習施設の評価点：実習施設の評価を点数に換算して評価する。 事前指導、事後指導および実習ノートの記録等の評価：事前学習、事後学習への取組の態度、報告会の内容および提出した実習ノートなどによる「給食の運営」の理解度を総合的に評価する。 実習時間数の不足、連絡のない課外授業の欠席やレポート未提出の場合には単位を認めないことがあります。						
履修上の注意	「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「校外実習」の履修要件となっている授業への出席が必要です。履修要件となる授業は、別にプリントで指定します（臨地・校外実習課外科目は、単位化されません）。35～45時間の校外実習および「臨地・校外実習課外科目」の「校外実習」の履修要件となっている全授業の出席をもって1単位とする。 実習期間および打ち合わせ時の交通費および食費は自己負担となる。  実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。						
教科書	田上貞一郎・田中ひさよ 著 「管理栄養士・栄養士になるための国語表現」 萌文書林 ISBN 978-4-89347-174-1						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆衛生実験						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N02050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る情報の活用と計画策定手法の習得						
授業の概要	「社会と健康」、「健康・環境論」で学んだ理論を実証するための演習および実験を行う。健康に関する情報の収集・解析では、論文を検索して読み解く力を養う。生活の環境を測る試験として、飲料水や河川の水質試験、学校環境下では、騒音、教室や廊下の照度、体感温度を構成する気温・気湿等の総合的な評価を行い、快適な環境について理解する。さらに、地域企業の環境への取組みを学ぶ。						
到達目標	公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 参加型計画手法による公衆衛生活動の計画が策定できる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(1)</li> <li>2. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(2)</li> <li>3. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(1)</li> <li>4. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(2)</li> <li>5. 環境測定(1) 騒音、照度、気温、気湿、紫外線、水質(総硬度、残留塩素)等実験器具の使用手法、実験計画の策定、記録用紙の作成</li> <li>6. 環境測定(2) 測定の実施、データ入力</li> <li>7. 環境測定(3) データ分析、プレゼンテーション作成</li> <li>8. 環境測定(4) プレゼンテーション</li> <li>9. 環境衛生 - 地方自治体・企業等の取組み</li> <li>10. 前半まとめ 中間試験</li> <li>11. 公衆衛生活動の計画策定 - 問題分析</li> <li>12. 公衆衛生活動の計画策定 - 目的分析</li> <li>13. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画表の作成</li> <li>14. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画発表</li> <li>15. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画の修正・最終化・発表</li> </ol> ※学外実習として地域企業の見学を実施することもある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験・演習課題を行う。						
授業方法	実験・演習 グループワークによる実験・演習およびプレゼンテーションを行う。 課題解決型学修(PBL)による公衆衛生活動の計画策定では、ディスカッションおよびディベートを行う。 松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	平常点(グループワークにおける積極性、協働性等)30%、課題30%、小・中間テスト40% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	プロジェクト・サイクル・マネジメント 参加型計画編 国際開発高等教育機構						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆衛生実験						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N02050
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る情報の活用と計画策定手法の習得						
授業の概要	「社会と健康」、「健康・環境論」で学んだ理論を実証するための演習および実験を行う。健康に関する情報の収集・解析では、論文を検索して読み解く力を養う。生活の環境を測る試験として、飲料水や河川の水質試験、学校環境下では、騒音、教室や廊下の照度、体感温度を構成する気温・気湿等の総合的な評価を行い、快適な環境について理解する。さらに、地域企業の環境への取組みを学ぶ。						
到達目標	公衆衛生に係る情報を収集、分析、地域診断ができる。【知識・理解】【汎用的技能】 参加型計画手法による公衆衛生活動の計画が策定できる。【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(1)</li> <li>2. 衛生統計の活用 - 基本統計量の算出(2)</li> <li>3. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(1)</li> <li>4. 衛生統計の活用 - 基本統計量の作図・作表(2)</li> <li>5. 環境測定(1) 騒音、照度、気温、気湿、紫外線、水質(総硬度、残留塩素)等実験器具の使用手法、実験計画の策定、記録用紙の作成</li> <li>6. 環境測定(2) 測定の実施、データ入力</li> <li>7. 環境測定(3) データ分析、プレゼンテーション作成</li> <li>8. 環境測定(4) プレゼンテーション</li> <li>9. 環境衛生 - 地方自治体・企業等の取組み</li> <li>10. 前半まとめ 中間試験</li> <li>11. 公衆衛生活動の計画策定 - 問題分析</li> <li>12. 公衆衛生活動の計画策定 - 目的分析</li> <li>13. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画表の作成</li> <li>14. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画発表</li> <li>15. 公衆衛生活動の計画策定 - 計画の修正・最終化・発表</li> </ol> ※学外実習として地域企業の見学を実施することもある。						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実験・演習課題を行う。						
授業方法	実験・演習 グループワークによる実験・演習およびプレゼンテーションを行う。 課題解決型学修(PBL)による公衆衛生活動の計画策定では、ディスカッションおよびディベートを行う。 松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	平常点(グループワークにおける積極性、協働性等)30%、課題30%、小・中間テスト40% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	プロジェクト・サイクル・マネジメント 参加型計画編 国際開発高等教育機構						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学Ⅰ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N02470
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆栄養学の概念、日本・諸外国の栄養問題及び栄養政策						
授業の概要	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目的とし、日本や諸外国の健康・栄養問題、管理栄養士制度や栄養士制度、我が国の栄養施策としての国民健康・栄養調査の方法およびその結果や食生活指針、運動指針、休養指針などの指針、健康日本21、食事バランスガイド等について学ぶ。また、栄養施策の根拠法として健康増進法、地域保健法、栄養士法、食育基本法等について学ぶ。						
到達目標	(1) 公衆栄養学の主な対象と目的について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (2) 日本で実施されている主な栄養施策の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (3) 日本で施行されている健康増進法、食育基本法、栄養士法など公衆栄養関連の法律の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (4) 日本の食生活、食事、食料自給率の問題について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 公衆栄養学の概念 (1) 公衆栄養学の定義 第2回 公衆栄養の概念 (2) 公衆栄養活動 第3回 公衆栄養の概念 (3) 公衆栄養活動の歴史 第4回 健康日本21と日本の健康問題 (1) 第5回 健康日本21と日本の健康問題 (2) 第6回 日本の栄養問題の現状と課題 (1) 食生活の変化 第7回 日本の栄養問題の現状と課題 (2) 食事の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題 (3) 食環境の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題 (4) 食料需給表 第9回 日本の栄養政策 (1) 健康増進法 第10回 日本の栄養政策 (2) 地域保健法 第11回 日本の栄養政策 (3) 食育基本法、第3次食育推進基本計画 第12回 日本の栄養政策 (4) 日本の栄養士制度、栄養士法、その他栄養関連法規 第13回 日本の栄養政策 (5) 国民健康・栄養調査 第14回 日本の栄養政策 (6) 食生活指針 第15回 公衆栄養学の歴史、公衆栄養学Ⅰ期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を確認し、教科書欄に提示した「ワークノート」に取り組み、わからない用語などを整理してから授業に臨む。(学習時間90分) 授業後学習：授業で取り上げた重要箇所について確認・整理する。manabaでの小テストに向けて暗記する。提示された課題について、調べまとめる。(学習時間90分)						
授業方法	【講義】基本項目について説明し、要点をまとめる。疑問点や難しい点について、質疑応答の時間を作り、繰り返し説明する。 【反転授業】事前に提示し、manabaレポートに提出した課題のまとめについて、内容を確認し、我が国の栄養課題、公衆栄養活動について理解を深める。 【プレゼンテーション】教科書の図や表について解説する。						
評価基準と評価方法	レポート10%(締め切り厳守)：提示された課題について、実践例を調べ、まとめる。 小テスト40%：前回の授業内容について松蔭manabaで小テストを行う。 期末試験50%：達成目標(1)(2)(3)(4)の到達度についての試験を行う。  レポート10%(締め切り厳守)：提示された課題について、実践例を調べ、まとめる。 小テスト40%：①概要、②策定の基礎理論、③活用の基礎理論、④エネルギー・⑤主要栄養素・⑥ビタミン・⑦ミネラルの食事摂取基準の理解度の確認を行う。 期末試験50%：到達目標(1)(2)(3)(4)の総合的な達成度の確認を筆記試験で行う。  授業内容についてのフィードバック 授業時に質疑・応答・意見を松蔭manabaで集め、次回授業時に紹介、解説する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2020年版 医歯薬出版株式会社(最新版) ISBN978-4-263-70717-3 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版(社会・環境と健康で使用のため新たに購入の必要なし) ISBN-10: 4789524337						

参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版 2020年3月発行予定
-----	---------------------------------

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学Ⅰ						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N02470
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆栄養学の概念、日本・諸外国の栄養問題及び栄養政策						
授業の概要	地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養うことを目的とし、日本や諸外国の健康・栄養問題、管理栄養士制度や栄養士制度、我が国の栄養施策としての国民健康・栄養調査の方法およびその結果や食生活指針、運動指針、休養指針などの指針、健康日本21、食事バランスガイド等について学ぶ。また、栄養施策の根拠法として健康増進法、地域保健法、栄養士法、食育基本法等について学ぶ。						
到達目標	(1) 公衆栄養学の主な対象と目的について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (2) 日本で実施されている主な栄養施策の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (3) 日本で施行されている健康増進法、食育基本法、栄養士法など公衆栄養関連の法律の基本事項について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】 (4) 日本の食生活、食事、食料自給率の問題について理解し、暗記し、説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 公衆栄養学の概念 (1) 公衆栄養学の定義 第2回 公衆栄養の概念 (2) 公衆栄養活動 第3回 公衆栄養の概念 (3) 公衆栄養活動の歴史 第4回 健康日本21と日本の健康問題 (1) 第5回 健康日本21と日本の健康問題 (2) 第6回 日本の栄養問題の現状と課題 (1) 食生活の変化 第7回 日本の栄養問題の現状と課題 (2) 食事の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題 (3) 食環境の変化 第8回 日本の栄養問題の現状と課題 (4) 食料需給表 第9回 日本の栄養政策 (1) 健康増進法 第10回 日本の栄養政策 (2) 地域保健法 第11回 日本の栄養政策 (3) 食育基本法、第3次食育推進基本計画 第12回 日本の栄養政策 (4) 日本の栄養士制度、栄養士法、その他栄養関連法規 第13回 日本の栄養政策 (5) 国民健康・栄養調査 第14回 日本の栄養政策 (6) 食生活指針 第15回 公衆栄養学の歴史、公衆栄養学Ⅰ期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を確認し、教科書欄に提示した「ワークノート」に取り組み、わからない用語などを整理してから授業に臨む。(学習時間90分) 授業後学習：授業で取り上げた重要箇所について確認・整理する。manabaでの小テストに向けて暗記する。提示された課題について、調べまとめる。(学習時間90分)						
授業方法	【講義】基本項目について説明し、要点をまとめる。疑問点や難しい点について、質疑応答の時間を作り、繰り返し説明する。 【反転授業】事前に提示し、manabaレポートに提出した課題のまとめについて、内容を確認し、我が国の栄養課題、公衆栄養活動について理解を深める。 【プレゼンテーション】教科書の図や表について解説する。						
評価基準と評価方法	レポート10% (締め切り厳守)：提示された課題について、実践例を調べ、まとめる。 小テスト40%：前回の授業内容について松蔭manabaで小テストを行う。 期末試験50%：達成目標(1)(2)(3)(4)の到達度についての試験を行う。  授業内容についてのフィードバック 授業時に質疑・応答・意見を松蔭manabaで集め、次回授業時に紹介、解説する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2020年版 医歯薬出版株式会社 (最新版) ISBN978-4-263-70717-3 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版 (社会・環境と健康で使用のため新たに購入の必要なし) ISBN-10: 4789524337						
参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版 2020年3月発行予定						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学II						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N03480
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域住民・集団の栄養問題, 公衆栄養活動計画の作成, 実施, モニタリング・評価						
授業の概要	公衆栄養学Iで習得した知識を基に, 保健, 医療, 福祉, 介護システムの中で, 栄養上ハイリスク集団の特定とともに, あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的な公衆栄養マネジメントに必要な理論と方法を習得することを目的に, 対象集団の状況を的確に把握, 適切な公衆栄養プログラムの計画作成・実施・評価に必要な理論や方法の習得と, 各種サービスやプログラムの調整, 人的資源など社会的資源の活用, コミュニケーションの管理などの仕組みについて学ぶ。						
到達目標	(1)先進国, 開発途上国の主な栄養問題について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (2)多国籍援助機関の栄養に関する主な活動について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (3)公衆栄養アセスメントに用いる主な既存の資料の調査名, 調査内容, 担当省庁を理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (4)食事摂取基準2015の各指標, 集団の栄養アセスメント・改善計画への活用について, 理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (5)公衆栄養活動計画の目標設定, 計画作成, 評価の方法の基本的事項について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 日本の栄養政策 (1) 公衆栄養学Iの復習, 公衆栄養実施機関 第2回 日本の栄養政策 (2) 食事バランスガイド, 特定健診・特定保健指導 第3回 諸外国の栄養問題 (1) 先進国 第4回 諸外国の栄養政策 (2) 開発途上国 第5回 諸外国の栄養政策 (3) 国際協力機関の栄養政策 第6回 諸外国の栄養政策 (4) 諸外国の栄養政策 第7回 公衆栄養アセスメント (1) 既存の資料 第8回 公衆栄養アセスメント (2) 社会調査法 第9回 公衆栄養アセスメント (3) 食事調査法 第10回 公衆栄養プログラムの計画 (1) 目標設定 第11回 公衆栄養プログラムの計画 (2) 計画策定・実施 第12回 公衆栄養プログラムの評価 第13回 公衆栄養プログラムの展開 (1) ライフステージ 第14回 公衆栄養プログラムの展開 (2) 災害時の栄養政策 第15回 公衆栄養学I, IIのまとめと試験  (ゲストスピーカー招へい予定)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の該当部分を確認し, 教科書欄に提示した「ワークノート」に取り組み, わからない用語などを整理してから授業に臨む。(学習時間90分) 授業後学習: 授業で取り上げた重要箇所について確認・整理する。manabaでの小テストに向けて暗記する。提示された課題について, 調べまとめる。(学習時間90分)						
授業方法	【講義】基本項目について説明し, 要点をまとめる。疑問点や難しい点について, 質疑応答の時間を作り, 繰り返し説明する。 【反転授業】事前に提示し, manabaレポートに提出した課題のまとめについて, 内容を確認し, 公衆栄養プログラムのアセスメント・計画・実施・評価について理解を深める。 【プレゼンテーション】教科書の図や表について解説する。						
評価基準と評価方法	レポート10%(締め切り厳守): 提示された課題について, 実践例を調べ, まとめる。 小テスト40%: 授業の開始当初, 前回授業の内容について松蔭manabaで小テストを行う。 期末試験50%: 第1回目から14回目の内容の内容の筆記試験を行う。到達目標(1)(2)(3)(4)(5)に関する到達度の確認  授業内容についてのフィードバック 授業時に質疑・応答・意見を松蔭manabaで集め, 次回授業時に紹介, 解説する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には, 原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は, その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2020年版 医歯薬出版株式会社(最新版) ISBN978-4-263-70717-3 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版(社会・環境と健康で使用のため新たに購入の必要なし) ISBN-10: 4789524337						

参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版 2020年3月発行予定
-----	---------------------------------

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学II						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N03480
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域住民・集団の栄養問題, 公衆栄養活動計画の作成, 実施, モニタリング・評価						
授業の概要	公衆栄養学Iで習得した知識を基に, 保健, 医療, 福祉, 介護システムの中で, 栄養上ハイリスク集団の特定とともに, あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的な公衆栄養マネジメントに必要な理論と方法を習得することを目的に, 対象集団の状況を的確に把握, 適切な公衆栄養プログラムの計画作成・実施・評価に必要な理論や方法の習得と, 各種サービスやプログラムの調整, 人的資源など社会的資源の活用, コミュニケーションの管理などの仕組みについて学ぶ。						
到達目標	(1)先進国, 開発途上国の主な栄養問題について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (2)多国籍援助機関の栄養に関する主な活動について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (3)公衆栄養アセスメントに用いる主な既存の資料の調査名, 調査内容, 担当省庁を理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (4)食事摂取基準2015の各指標, 集団の栄養アセスメント・改善計画への活用について, 理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】 (5)公衆栄養活動計画の目標設定, 計画作成, 評価の方法の基本的事項について理解し, 暗記し, 説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 日本の栄養政策 (1) 公衆栄養学Iの復習, 公衆栄養実施機関 第2回 日本の栄養政策 (2) 食事バランスガイド, 特定健診・特定保健指導 第3回 諸外国の栄養問題 (1) 先進国 第4回 諸外国の栄養政策 (2) 開発途上国 第5回 諸外国の栄養政策 (3) 国際協力機関の栄養政策 第6回 諸外国の栄養政策 (4) 諸外国の栄養政策 第7回 公衆栄養アセスメント (1) 既存の資料 第8回 公衆栄養アセスメント (2) 社会調査法 第9回 公衆栄養アセスメント (3) 食事調査法 第10回 公衆栄養プログラムの計画 (1) 目標設定 第11回 公衆栄養プログラムの計画 (2) 計画策定・実施 第12回 公衆栄養プログラムの評価 第13回 公衆栄養プログラムの展開 (1) ライフステージ 第14回 公衆栄養プログラムの展開 (2) 災害時の栄養政策 第15回 公衆栄養学I, IIのまとめと試験  (ゲストスピーカー招へい予定)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の該当部分を確認し, 教科書欄に提示した「ワークノート」に取り組み, わからない用語などを整理してから授業に臨む。(学習時間90分) 授業後学習: 授業で取り上げた重要箇所について確認・整理する。manabaでの小テストに向けて暗記する。提示された課題について, 調べまとめる。(学習時間90分)						
授業方法	【講義】基本項目について説明し, 要点をまとめる。疑問点や難しい点について, 質疑応答の時間を作り, 繰り返し説明する。 【反転授業】事前に提示し, manabaレポートに提出した課題のまとめについて, 内容を確認し, 公衆栄養プログラムのアセスメント・計画・実施・評価について理解を深める。 【プレゼンテーション】教科書の図や表について解説する。						
評価基準と評価方法	レポート10%(締め切り厳守): 提示された課題について, 実践例を調べ, まとめる。 小テスト40%: 前回の授業内容について松蔭manabaで小テストを行う。 期末試験50%: 達成目標(1)(2)(3)(4)(5)の到達度についての試験を行う。  授業内容についてのフィードバック 授業時に質疑・応答・意見を松蔭manabaで集め, 次回授業時に紹介, 解説する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には, 原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は, その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	『ウエルネス公衆栄養学』 2020年版 医歯薬出版株式会社(最新版) ISBN978-4-263-70717-3 『管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日第7版ワークノート』 女子栄養大学出版(社会・環境と健康で使用のため新たに購入の必要なし) ISBN-10: 4789524337						

参考書	日本人の食事摂取基準2020 第一出版 2020年3月発行予定
-----	---------------------------------

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学実習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N03490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆栄養マネジメントの実践						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態のものに対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解できるように実習、演習を行う。						
到達目標	(1) 食事摂取基準を用いて、集団の栄養アセスメントを行うことができる。【汎用的技能】 (2) 集団の栄養アセスメントを行い、課題を選択し、公衆栄養計画を作成することができる。【汎用的技能】 (3) 秤量法食事記録法、24時間思い出し法の食事調査を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 食環境の整備について理解し、整備の推進について考察することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 公衆栄養アセスメントの実践(1) 演習1 食事記録法(秤量法)の説明、演習2食物摂取頻度調査(FIQ <sub>g</sub> )実施 第2回 公衆栄養アセスメントの実践(2) 演習3 24時間思い出し法 第3回 公衆栄養アセスメントの実践(3) 演習1 食事記録法 栄養価計算 第4回 公衆栄養アセスメントの実践(4) 演習4 食事記録法データ分析(基本統計量) 第5回 公衆栄養アセスメントの実践(5) 演習4 栄養素摂取量の分析(基本統計量) 第6回 公衆栄養アセスメントの実践(6) 演習5 食事摂取基準を用いた集団の評価、食品群別摂取量分析 第7回 公衆栄養アセスメントの実践(7) 演習5 問題分析(アンケート分析)プレゼンテーション 第8回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(1) 演習6 課題の選択 第9回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(2) 演習6 公衆栄養活動計画Ⅰ、Ⅱの作成 第10回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(3) 演習6 事業実施計画書の作成 第11回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(4) 演習6 公衆栄養活動計画のプレゼンテーション 第12回 公衆栄養プログラムの計画書の修正、質疑応答等への対応 第13回 公衆栄養マネジメントに関するまとめ 第14回 食環境整備演習まとめ 第15回 食環境整備演習の発表、小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実習科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成などを行う。授業時間で完成できなかった人は、次の回までに完成させる。 ただし、秤量法食事調査法の実施、食環境整備についての課題は、授業外・学外で情報収集を行う。						
授業方法	【グループワーク】食事調査法(記録法、24時間思い出し法、国民健康栄養調査)の演習はペアで、調査者と対象者に分かれて行う。 【ディスカッション】【グループワーク】公衆栄養アセスメント、公衆栄養活動計画、食環境の整備はグループでまとめる。 【ディスカッション】公衆栄養アセスメント、公衆栄養活動計画、食環境の整備は、グループ毎に発表を行う。 【反転授業】公衆栄養活動計画についての発表内容について、松蔭manabaのアンケートでグループ相互に評価、コメントする。各グループのまとめを配信し、改善方法をディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	松蔭manabaで小テスト:30% 達成目標(1)(2)(3)(4)について、基本的項目、実践方法の理解度の確認する。 レポート40%:食事調査(15)、講習栄養アセスメント・計画(20)、食環境の整備(5)についてグループもしくは個人で作成したレポートについて達成目標の達成度を評価する。 プレゼンテーション20%:公衆栄養活動計画、アセスメント 受講態度(実習への取り組み)10%:グループワークへの取り組み、グループ討議への参加度を総合的に評価する。  授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院(2015年3月) ISBN-13: 978-4810314335						

参考書	日本人の食事摂取基準2020 (発行所) 第一出版
-----	---------------------------

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	公衆栄養学実習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N03490
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	公衆栄養マネジメントの実践						
授業の概要	公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで学んだことを基に栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態のものに対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法、さらに各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解できるように実習、演習を行う。						
到達目標	(1) 食事摂取基準を用いて、集団の栄養アセスメントを行うことができる。【汎用的技能】 (2) 集団の栄養アセスメントを行い、課題を選択し、公衆栄養計画を作成することができる。【汎用的技能】 (3) 秤量法食事記録法、24時間思い出し法の食事調査を行うことができる。【汎用的技能】 (4) 食環境の整備について理解し、整備の推進について考察することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 公衆栄養アセスメントの実践(1) 演習1 食事記録法(秤量法)の説明、演習2食物摂取頻度調査(FIQ <sub>g</sub> )実施 第2回 公衆栄養アセスメントの実践(2) 演習3 24時間思い出し法 第3回 公衆栄養アセスメントの実践(3) 演習1 食事記録法 栄養価計算 第4回 公衆栄養アセスメントの実践(4) 演習4 食事記録法データ分析(基本統計量) 第5回 公衆栄養アセスメントの実践(5) 演習4 栄養素摂取量の分析(基本統計量) 第6回 公衆栄養アセスメントの実践(6) 演習5 食事摂取基準を用いた集団の評価、食品群別摂取量分析 第7回 公衆栄養アセスメントの実践(7) 演習5 問題分析(アンケート分析)プレゼンテーション 第8回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(1) 演習6 課題の選択 第9回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(2) 演習6 公衆栄養活動計画Ⅰ、Ⅱの作成 第10回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(3) 演習6 事業実施計画書の作成 第11回 公衆栄養プログラムの計画・目標設定(4) 演習6 公衆栄養活動計画のプレゼンテーション 第12回 公衆栄養プログラムの計画書の修正、質疑応答等への対応 第13回 公衆栄養マネジメントに関するまとめ 第14回 食環境整備演習まとめ 第15回 食環境整備演習の発表、小テスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	実習科目のため、原則として授業時間内でデータ整理・レポート作成などを行う。授業時間で完成できなかった人は、次の回までに完成させる。 ただし、秤量法食事調査法の実施、食環境整備についての課題は、授業外・学外で情報収集を行う。						
授業方法	【グループワーク】食事調査法(記録法、24時間思い出し法、国民健康栄養調査)の演習はペアで、調査者と対象者に分かれて行う。 【ディスカッション】【グループワーク】公衆栄養アセスメント、公衆栄養活動計画、食環境の整備はグループでまとめる。 【ディスカッション】公衆栄養アセスメント、公衆栄養活動計画、食環境の整備は、グループ毎に発表を行う。 【反転授業】公衆栄養活動計画についての発表内容について、松蔭manabaのアンケートでグループ相互に評価、コメントする。各グループのまとめを配信し、改善方法をディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	松蔭manabaで小テスト:30% 達成目標(1)(2)(3)(4)について、基本的項目、実践方法の理解度の確認する。 レポート40%:食事調査(15)、講習栄養アセスメント・計画(20)、食環境の整備(5)についてグループもしくは個人で作成したレポートについて達成目標の達成度を評価する。 プレゼンテーション20%:公衆栄養活動計画、アセスメント 受講態度(実習への取り組み)10%:グループワークへの取り組み、グループ討議への参加度を総合的に評価する。  授業内容についてのフィードバックの方法 提出物について、添削してフィードバックを行う						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院(2015年3月) ISBN-13: 978-4810314335						

参考書	日本人の食事摂取基準2020 (発行所) 第一出版
-----	---------------------------



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	社会と健康						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る制度・法規の理解						
授業の概要	公衆衛生とは、集団を対象とした命を衛る学問である。すなわち、疾病頻度、健康障害を減少させることを目的としている。地域社会の組織的な取組みによって疾病を予防し、寿命の延伸を図り、身体的ならびに精神的能力を増進するための科学であり技術であることを学ぶ。さらに社会的制度を背景とした実践活動を伴うため、健康を守る社会システムである保健・医療・福祉の制度と関連法規を理解する。						
到達目標	公衆衛生学を概説できる。【知識・理解】 保健・医療・福祉・介護の制度と法規を理解する。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度</li> <li>2. 医療制度 - 医療保険制度</li> <li>3. 医療制度 - 医療費、医療計画</li> <li>4. 福祉制度</li> <li>5. 地域保健</li> <li>6. 母子保健</li> <li>7. 成人保健</li> <li>8. 高齢者保健</li> <li>9. 地域保健の実際 (ゲスト・スピーカー招聘予定)</li> <li>10. 介護保険制度</li> <li>11. 産業保健</li> <li>12. 学校保健</li> <li>13. 国際保健</li> <li>14. 公衆衛生関連法規</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行い、松陰manabaのレポート課題を行う。 授業後は配布プリントを必ず復習する。 予習・復習各90分。						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テストを行う。 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄(理解・暗記が必要な箇所)を埋め資料を完成させる。 反転授業(事前学習にて収集した情報の知識確認を行う)、松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	課題10%、小テスト40%、期末試験50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2020年版 ISBN: 978-4263707463 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第8版女子栄養大学出版社 ISBN: 978-4789524452						
参考書	公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN: 978-4896326871 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN: 978-4-87511-804-6 公衆衛生マニュアル 2019 南山堂 ISBN: 978-4-525-18737-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	社会と健康						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N01020
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	公衆衛生に係る制度・法規の理解						
授業の概要	公衆衛生とは、集団を対象とした命を衛る学問である。すなわち、疾病頻度、健康障害を減少させることを目的としている。地域社会の組織的な取組みによって疾病を予防し、寿命の延伸を図り、身体的ならびに精神的能力を増進するための科学であり技術であることを学ぶ。さらに社会的制度を背景とした実践活動を伴うため、健康を守る社会システムである保健・医療・福祉の制度と関連法規を理解する。						
到達目標	公衆衛生学を概説できる。【知識・理解】 保健・医療・福祉・介護の制度と法規を理解する。【知識・理解】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度</li> <li>2. 医療制度 - 医療保険制度</li> <li>3. 医療制度 - 医療費、医療計画</li> <li>4. 福祉制度</li> <li>5. 地域保健</li> <li>6. 母子保健</li> <li>7. 成人保健</li> <li>8. 高齢者保健</li> <li>9. 地域保健の実際 (ゲスト・スピーカー招聘予定)</li> <li>10. 介護保険制度</li> <li>11. 産業保健</li> <li>12. 学校保健</li> <li>13. 国際保健</li> <li>14. 公衆衛生関連法規</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前に教科書の該当範囲を読むとともに、マスメディア等から関連する話題について情報収集を行い、松陰manabaのレポート課題を行う。 授業後は配布プリントを必ず復習する。 予習・復習各90分。						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テストを行う。 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄(理解・暗記が必要な箇所)を埋め資料を完成させる。 反転授業(事前学習にて収集した情報の知識確認を行う)、松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	課題10%、小テスト40%、期末試験50% ※ 再試験は実施しない。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	社会・環境と健康 公衆衛生学 2020年版 ISBN: 978-4263707463 管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日 第8版女子栄養大学出版社 ISBN: 978-4789524452						
参考書	公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN: 978-4896326871 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN: 978-4-87511-804-6 公衆衛生マニュアル 2019 南山堂 ISBN: 978-4-525-18737-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	社会と健康基礎演習						
担当教員	田中 あゆ子・千歳 万里					科目ナンバ-	N01010
学期	前期 前半	曜日・時限	火曜3~4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学びの基礎及び管理栄養士・栄養士への導入教育						
授業の概要	<p>大学教育の基礎を理解し学生生活を含む総合的な初期演習を行う。 また、管理栄養士の仕事を理解し、社会の多様なニーズに対応できる管理栄養士になるための動機付けを行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>第1回授業は、2名の担当教員が講義の説明およびオリエンテーションを実施する。 (田中あゆ子・千歳万里/1回 共同)</p> <p>高校から大学への学問の転換を理解し、大学生活が円滑に進むよう演習を行う。また、健康と社会の関わりを知り、職務に必要な知識を得る。 (田中あゆ子/7回)</p> <p>管理栄養士の活動分野、業務内容および役割を学び、管理栄養士に必要な知識、技術を学ぶ必要性を理解する。 (千歳万里/7回)</p>						
到達目標	<p>受講ルールを理解する。【知識・理解】 学習支援ICTサービス及び図書館等施設・設備を利用できる。【汎用的技能】 管理栄養士・栄養士の役割と業務を理解するとともに、管理栄養士を目指す強い動機を持つようになる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生生活の初めにあたって(1) 受講ルールとマナー (田中)</li> <li>2. 大学生生活の初めにあたって(2) キャンパス探訪 学内オリエンティング (田中・千歳)</li> <li>3. 大学における学びの基礎(1) 公衆衛生分野のデータ活用(表計算ソフトを用いた計算) (田中)</li> <li>4. 大学における学びの基礎(2) 公衆衛生分野のデータ活用(表計算ソフトを用いたレポート作成) (田中)</li> <li>5. 食生活と健康 (千歳)</li> <li>6. 管理栄養士の役割と業務(1) 事業所 (千歳)</li> <li>7. 図書館の利用と情報収集(1) オリエンテーション (田中)</li> <li>8. 図書館の利用と情報収集(2) 健康に関する社会問題 (田中)</li> <li>9. 学習支援ICTサービスの活用 (田中)</li> <li>10. 学びの基礎まとめ、中間試験 (田中)</li> <li>11. 管理栄養士の役割と業務(2) 病院 (千歳)</li> <li>12. 管理栄養士の役割と業務(3) 福祉施設・行政、食生活・栄養と健康の変化と課題 (千歳)</li> <li>13. 管理栄養士の歴史 (千歳)</li> <li>14. 地球レベルでの栄養の課題と取組 (千歳)</li> <li>15. 管理栄養士・栄養士の仕事と職業倫理 期末試験 (千歳)</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>第3回、第4回のデータ活用の方法を習得するまで繰り返し練習する。 第5回の栄養士・管理栄養士制度について復習し、定義を暗記する。 第6回、第11回、第12回までに、ウェブサイトから管理栄養士の活躍の様子が分かる情報を収集する。 第7回までに、現在社会問題となっている健康問題について、マスメディア等から情報収集を行う。 第9回までに、ICTを用いた課題に取り組めるよう、ICT操作の習得及び日常使用している機器を設定する。 第13回の栄養価計算を習得するまで繰り返し復習する。 予習・復習各90分。</p>						
授業方法	<p>講義・演習 グループワークによるキャンパス探訪およびプレゼンテーションを行う。 松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>担当教員各50%ずつ評価する。 平常点10%、課題40%、中間試験・期末試験50% ※ 再試験は実施しない。</p>						
履修上の注意	<p>出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。</p>						
教科書	<p>図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6 めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第一出版 ISBN: 978-4-8041-1386-9</p>						

参考書	管理栄養士コースで学ぶ！ 同文書院 ISBN: 978-4810313499
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	社会と健康基礎演習						
担当教員	田中 あゆ子・千歳 万里					科目ナンバ-	N01010
学期	前期 前半	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学びの基礎及び管理栄養士・栄養士への導入教育						
授業の概要	<p>大学教育の基礎を理解し学生生活を含む総合的な初期演習を行う。 また、管理栄養士の仕事を理解し、社会の多様なニーズに対応できる管理栄養士になるための動機付けを行う。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>第1回授業は、2名の担当教員が講義の説明およびオリエンテーションを実施する。 (田中あゆ子・千歳万里/1回 共同)</p> <p>高校から大学への学問の転換を理解し、大学生活が円滑に進むよう演習を行う。また、健康と社会の関わりを知り、職務に必要な知識を得る。 (田中あゆ子/7回)</p> <p>管理栄養士の活動分野、業務内容および役割を学び、管理栄養士に必要な知識、技術を学ぶ必要性を理解する。 (千歳万里/7回)</p>						
到達目標	<p>受講ルールを理解する。【知識・理解】 学習支援ICTサービス及び図書館等施設・設備を利用できる。【汎用的技能】 管理栄養士・栄養士の役割と業務を理解するとともに、管理栄養士を目指す強い動機を持つようになる。【態度・志向性】</p>						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大学生生活の初めにあたって(1) 受講ルールとマナー (田中)</li> <li>2. 大学生生活の初めにあたって(2) キャンパス探訪 学内オリエンティング (田中・千歳)</li> <li>3. 大学における学びの基礎(1) 公衆衛生分野のデータ活用(表計算ソフトを用いた計算) (田中)</li> <li>4. 大学における学びの基礎(2) 公衆衛生分野のデータ活用(表計算ソフトを用いたレポート作成) (田中)</li> <li>5. 食生活と健康 (千歳)</li> <li>6. 管理栄養士の役割と業務(1) 事業所 (千歳)</li> <li>7. 図書館の利用と情報収集(1) オリエンテーション (田中)</li> <li>8. 図書館の利用と情報収集(2) 健康に関する社会問題 (田中)</li> <li>9. 学習支援ICTサービスの活用 (田中)</li> <li>10. 学びの基礎まとめ、中間試験 (田中)</li> <li>11. 管理栄養士の役割と業務(2) 病院 (千歳)</li> <li>12. 管理栄養士の役割と業務(3) 福祉施設・行政、食生活・栄養と健康の変化と課題 (千歳)</li> <li>13. 管理栄養士の歴史 (千歳)</li> <li>14. 地球レベルでの栄養の課題と取組 (千歳)</li> <li>15. 管理栄養士・栄養士の仕事と職業倫理 期末試験 (千歳)</li> </ol>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>第3回、第4回のデータ活用の方法を習得するまで繰り返し練習する。 第5回の栄養士・管理栄養士制度について復習し、定義を暗記する。 第6回、第11回、第12回までに、ウェブサイトから管理栄養士の活躍の様子が分かる情報を収集する。 第7回までに、現在社会問題となっている健康問題について、マスメディア等から情報収集を行う。 第9回までに、ICTを用いた課題に取り組めるよう、ICT操作の習得及び日常使用している機器を設定する。 第13回の栄養価計算を習得するまで繰り返し復習する。 予習・復習各90分。</p>						
授業方法	<p>講義・演習 グループワークによるキャンパス探訪およびプレゼンテーションを行う。 松陰manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>担当教員各50%ずつ評価する。 平常点10%、課題40%、中間試験・期末試験50% ※ 再試験は実施しない。</p>						
履修上の注意	<p>出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。</p>						
教科書	<p>図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6 めざせ! 栄養士・管理栄養士 まずはここからナビゲーション 第一出版 ISBN: 978-4-8041-1386-9</p>						

参考書	管理栄養士コースで学ぶ！ 同文書院 ISBN: 978-4810313499
-----	--

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	山中 祥子					科目ナンバ-	N01040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	われわれは、なぜ食べるのか、なぜ食べやめるのか？ 食べるという行動を心理学の理論から考え、理解する。						
授業の概要	われわれが食物を食べるのは単に生命維持の目的だけでない。おいしいものを食べる楽しみであったり、だれかと一緒に食べるといった社会的な目的によって食べている。このように普段、何気なくおこなっている食べるという行動には、認知、価値判断、感情、文化・社会規範など様々な要因が影響している。この授業では食行動を通じ人間の行動特性とその基本なメカニズムを理解することを目的とする。						
到達目標	(1) どのような理由で摂食が開始され、また停止するのか、生理的要因から説明することができる(知識・理解) (2) 生理的要因以外で、私たちがどれだけ食べるかを決定する要因について、具体的に例をあげ説明することができる(知識・理解) (3) 食べるという行動に関する心理的要因や環境的要因について、具体的に意識することができる(態度・志向性)						
授業計画	第1回 管理栄養士になぜ食行動の理解が必要なのか。食べることに関する様々な疑問 第2回 食行動の生理的基礎 ① 末梢要因 第3回 食行動の生理的基礎 ② 摂食のコントロール 第4回 食行動の生理的基礎 ③ 中枢要因 中枢神経による摂食のコントロール 第5回 食行動における学習の影響 ① 古典的条件づけ・おペンランと条件づけ・観察学習の原理 第6回 食行動における学習の影響 ② 食事の開始と停止に関する学習の影響 学習による生理的要因の調整 第7回 好き嫌いに関する学習 第8回 偏食 第9回 食行動と環境要因 ① 食器の大きさ・形状・見え・入手可能性 第10回 食行動と環境要因 ② 食べ物の要因 一食分の量・甘味料 第11回 食行動と認知 第12回 食行動と社会的要因 第13回 食行動と態度・感情要因 第14回 食と消費者行動 第15回 肥満とダイエット						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：専門用語も多くでてくるので、必ず授業前に教科書を読んできておくこと。(学習時間2時間) 授業後学習：必ず教科書を読み返し、ノートを整理すること。また小レポートのコメントは必ず目を通し、どこが理解できていなかったのか、誤解していたのか等を各自確認しておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	講義 テーマごとにレポート作成前にグループまたはペアでディスカッションを行う。 また松蔭manabaを利用し小テストを行う。						
評価基準と評価方法	テーマ毎に授業の最後に講義内容の要点をまとめて、小レポートを提出。 評価は、この小レポート、小テスト等を含む平常点50%、期末レポート50%(締め切り厳守)で評価します。 小レポート、期末レポート共に、いかに自分の言葉で説明できるか(つまり理解できているか)を重視します。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は厳禁。 遅刻は授業開始後20分を限度とする。 授業回数の1/3以上欠席した場合は単位認定試験(期末レポート)の受験資格を失うものとする。 (講義内容は状況により多少変更する可能性があります)						
教科書	心理学からみた食べる行動 基礎から臨床までを科学する 青山謙二郎・武藤崇編著 北大路書房						
参考書	食べることの心理学 今田純雄編 有斐閣選書						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食行動論						
担当教員	山中 祥子					科目ナンバ-	N01040
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	われわれは、なぜ食べるのか、なぜ食べやめるのか？ 食べるという行動を心理学の理論から考え、理解する。						
授業の概要	われわれが食物を食べるのは単に生命維持の目的だけでない。おいしいものを食べる楽しみであったり、だれかと一緒に食べるといった社会的な目的によって食べている。このように普段、何気なくおこなっている食べるという行動には、認知、価値判断、感情、文化・社会規範など様々な要因が影響している。この授業では食行動を通じ人間の行動特性とその基本なメカニズムを理解することを目的とする。						
到達目標	(1) どのような理由で摂食が開始され、また停止するのか、生理的要因から説明することができる(知識・理解) (2) 生理的要因以外で、私たちがどれだけ食べるかを決定する要因について、具体的に例をあげ説明することができる(知識・理解) (3) 食べるという行動に関する心理的要因や環境的要因について、具体的に意識することができる(態度・志向性)						
授業計画	第1回 管理栄養士になぜ食行動の理解が必要なのか。食べることに関する様々な疑問 第2回 食行動の生理的基礎 ① 末梢要因 第3回 食行動の生理的基礎 ② 摂食のコントロール 第4回 食行動の生理的基礎 ③ 中枢要因 中枢神経による摂食のコントロール 第5回 食行動における学習の影響 ① 古典的条件づけ・おペンランと条件づけ・観察学習の原理 第6回 食行動における学習の影響 ② 食事の開始と停止に関する学習の影響 学習による生理的要因の調整 第7回 好き嫌いに関する学習 第8回 偏食 第9回 食行動と環境要因 ① 食器の大きさ・形状・見え・入手可能性 第10回 食行動と環境要因 ② 食べ物の要因 一食分の量・甘味料 第11回 食行動と認知 第12回 食行動と社会的要因 第13回 食行動と態度・感情要因 第14回 食と消費者行動 第15回 肥満とダイエット						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：専門用語も多くでてくるので、必ず授業前に教科書を読んできておくこと。(学習時間2時間) 授業後学習：必ず教科書を読み返し、ノートを整理すること。また小レポートのコメントは必ず目を通し、どこが理解できていなかったのか、誤解していたのか等を各自確認しておくこと。(学習時間2時間)						
授業方法	講義 テーマごとにレポート作成前にグループまたはペアでディスカッションを行う。 また松蔭manabaを利用し小テストを行う。						
評価基準と評価方法	テーマ毎に授業の最後に講義内容の要点をまとめて、小レポートを提出。 評価は、この小レポート、小テスト等を含む平常点50%、期末レポート50%(締め切り厳守)で評価します。 小レポート、期末レポート共に、いかに自分の言葉で説明できるか(つまり理解できているか)を重視します。						
履修上の注意	授業中の携帯電話の使用は厳禁。 遅刻は授業開始後20分を限度とする。 授業回数の1/3以上欠席した場合は単位認定試験(期末レポート)の受験資格を失うものとする。 (講義内容は状況により多少変更する可能性があります)						
教科書	心理学からみた食べる行動 基礎から臨床までを科学する 青山謙二郎・武藤崇編著 北大路書房						
参考書	食べることの心理学 今田純雄編 有斐閣選書						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食事摂取基準理論						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N02350
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「日本人の食事摂取基準2015」 ・各指標の定義や策定の科学的根拠 ・エネルギー・栄養素の摂取基準策定の科学的根拠						
授業の概要	「日本人の食事摂取基準」は、わが国の栄養政策の基本として、国民の健康の保持・増進を図る上で摂取することが望ましいエネルギー及び栄養素の量の基準を示すものである。本科目では、「日本人の食事摂取基準」の意義や定義を理解した上で実務において活用するために、科学的根拠に基づいたエネルギー・栄養素の指標の策定のための基礎理論を学ぶ。食事摂取基準の概念・目的・対象、各指標の定義と意義を説明できるようになることを目的とする。						
到達目標	(1) 食事摂取基準の概念・目的・対象について説明することができる。【知識・理解】 (2) 食事摂取基準の各指標の定義と意義を説明できる。【知識・理解】 (3) 各栄養素の設定指標と根拠について理解し、説明できる。【知識・理解】 (4) 食事摂取基準の活用についての概念・意義を説明することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 食事摂取基準の概要（食事摂取基準の意義・目的と対象） 第2回 科学的根拠に基づいた策定（食事摂取基準の指標） 第3回 食事摂取基準策定の基礎理論①エネルギー・栄養素摂取の過不足からの回避を目的とした指標の特徴 第4回 食事摂取基準策定の基礎理論②生活習慣病の一次予防を目的とした指標の特徴 第5回 食事摂取基準活用の基礎理論①個人の食事改善を目的とした評価・計画と実施 第6回 食事摂取基準活用の基礎理論②集団の食事改善を目的とした評価・計画と実施 第7回 食事摂取基準概論のまとめと中間試験 第8回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準①エネルギー 第9回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準②たんぱく質 第10回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準③脂質・エネルギー産生バランス 第11回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準④脂溶性ビタミン 第12回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑤水溶性ビタミン 第13回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑥多量ミネラル 第14回 エネルギー・栄養素別食事摂取基準⑦微量ミネラル 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の該当部分を確認し、教科書欄に提示した「ワークノート」に取り組み、わからない用語などを整理してから授業に臨む。（学習時間90分） 授業後学習：授業で取り上げた重要箇所について確認・整理する。小テストに向けて暗記する。提示された課題について、調べまとめる。（学習時間90分）						
授業方法	【講義】授業で取り上げた内容について説明し、要点をまとめる。疑問点や難しい点について、質疑応答の時間を作り、繰り返し説明する。 【反転授業】事前に提示し、manabaレポートに提出した課題のまとめについて、内容を確認し、食事摂取基準を用いた評価の方法について理解を深める。						
評価基準と評価方法	レポート10%（締め切り厳守）：提示された課題について、調べまとめる。 小テスト40%：①概要、②策定の基礎理論、③活用の基礎理論、④エネルギー・⑤主要栄養素・⑥ビタミン・⑦ミネラルの食事摂取基準の理解度の確認を行う。 期末試験50%：到達目標(1)(2)(3)(4)の総合的な達成度の確認を筆記試験で行う。  授業内容についてのフィードバック 授業時に質疑・応答・意見を松蔭manabaで集め、次回授業時に紹介、解説する。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻・早退は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻・早退の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。（交通機関延着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない） 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	日本人の食事摂取基準（2020年版）第一出版 2020年3月発売予定						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02200
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食餌性病害の原因は予防可能か、また、その方法について学ぶ。						
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べる【知識・理解】</li> <li>・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる【知識・理解】</li> <li>・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける【知識・理解、汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 食品の安全 第2回 食品衛生と法規 第3回 食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回 食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回 食中毒(1) -食中毒の分類 第6回 食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回 食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回 食中毒(4) -ウイルス性食中毒、寄生虫 第9回 食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類、安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。(学習時間1.5時間) 授業後学習:毎回の授業後に必ずノートを整理し、復習するようにすること(学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる)。(学習時間2.5時間)						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験:90% 小テスト・課題:10%						
履修上の注意	学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる。 20分未満の不在(遅刻・早退等)は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修、有蘭幸司 編) ISBN:978-4-524-24532-1						
参考書	『新 食品衛生学要説』医歯薬出版 細貝祐太郎、松本昌雄、廣末トシ子 編						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02200
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	食餌性病害の原因は予防可能か、また、その方法について学ぶ。						
授業の概要	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性の確保および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。 本講義では、食中毒や食品添加物を中心として、食品衛生に関連する最新情報について解説する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品汚染を引き起こす微生物や有害物質について述べる【知識・理解】</li> <li>・食品添加物の有用性と安全性を説明することができる【知識・理解】</li> <li>・食の安全に関する諸問題に適切に対応するための知識と判断力を身につける【知識・理解、汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 食品の安全 第2回 食品衛生と法規 第3回 食品の変質とその防止(1) -微生物による変質 第4回 食品の変質とその防止(2) -化学的変質 第5回 食中毒(1) -食中毒の分類 第6回 食中毒(2) -細菌性食中毒① 第7回 食中毒(3) -細菌性食中毒② 第8回 食中毒(4) -ウイルス性食中毒、寄生虫 第9回 食中毒(5) -自然毒、化学性食中毒 第10回 食中毒(6) -かび毒、寄生虫、衛生動物 第11回 有害物質と食品の安全性 -放射性物質、有害元素、農薬 第12回 食品添加物と安全性(1) -食品添加物の分類、安全性評価 第13回 食品添加物と安全性(2) -食品添加物の有用性と安全性 第14回 食品衛生対策 第15回 食品の器具と容器包装 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所を読んでくること。(学習時間1.5時間) 授業後学習:毎回の授業後に必ずノートを整理し、復習するようにすること(学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる)。(学習時間2.5時間)						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験:90% 小テスト・課題:10%						
履修上の注意	学習した内容は、後期「食品衛生学実験」を履修する上でも必要となる。 20分未満の不在(遅刻・早退等)は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	健康・栄養科学シリーズ 食べ物と健康『食品の安全』改訂第2版(国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 監修、有蘭幸司 編) ISBN:978-4-524-24532-1						
参考書	『新 食品衛生学要説』医歯薬出版 細貝祐太郎、松本昌雄、廣末トシ子 編						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02240
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品の変質に関する微生物の特性および科学的手法による腐敗・変敗の測定を行う。						
授業の概要	微生物の中でも細菌類を中心として、その増殖特性、耐性特性および芽胞と栄養細胞の特性の相違などを取り上げる。それらの知識を通じて、食品の取り扱いに対する注意の喚起を図る。 さらには、食品衛生に関する理化学的検査の対象である、食品の腐敗の特異成分、食品添加物となっている化学物質の検出、洗浄剤の残留度などを化学的分析手法を用いて測定する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食の安全性、有益性、健全性を守る」ための検査・試験方法を理解することができる【知識・理解】</li> <li>・食品衛生学（講義）で得た知識を、実験で活用することができる【汎用的技能】</li> <li>・食品の悪変に関する微生物の特性および科学的手法を説明することができる【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 実験室における一般的な心得および食品衛生学実験の概要説明 空中落下菌 第2回 手指の衛生検査 第3回 食品中の細菌数 第4回 食品中の腸炎ビブリオ菌試験 第5回 食品中のサルモネラ属菌試験 第6回 簡易キットを利用した生菌検査法 第7回 大腸菌群試験 第8回 ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第9回 微生物実験の総括 第10回 魚介類の寄生虫の確認・魚の鮮度判定 第11回 合成洗剤の残留検査 牛乳の鮮度測定 第12回 でんぷん・たんぱく質・油脂の残留試験 第13回 食用油脂の劣化試験（過酸化価および酸価） 第14回 食品添加物（発色剤）の分析 第15回 食品添加物（保存料・着色料）の分析 第16回 まとめと試験 （なお、試料入手の都合で事前連絡のうえ実験順序を入れ替える場合がある）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業開始時までに、当該回で何の実験を行うのか確認しておくこと。 実験終了後は、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10% レポート：50%（実験結果に基づき、自ら考察を行っている点を特に重視する） 期末試験：40%						
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は1/3回の欠席とし、20分以上の不在は欠席として扱う（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、レポートや定期試験の評価にかかわらず、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。  ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	『図解 食品衛生学実験 第3版』一戸正勝・西島基弘・石田裕 編、講談社、ISBN 978-4-06-139836-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品衛生学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02240
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品の変質に関する微生物の特性および科学的手法による腐敗・変敗の測定を行う。						
授業の概要	微生物の中でも細菌類を中心として、その増殖特性、耐性特性および芽胞と栄養細胞の特性の相違などを取り上げる。それらの知識を通じて、食品の取り扱いに対する注意の喚起を図る。 さらには、食品衛生に関する理化学的検査の対象である、食品の腐敗の特異成分、食品添加物となっている化学物質の検出、洗浄剤の残留度などを化学的分析手法を用いて測定する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食の安全性、有益性、健全性を守る」ための検査・試験方法を理解することができる【知識・理解】</li> <li>・食品衛生学（講義）で得た知識を、実験で活用することができる【汎用的技能】</li> <li>・食品の悪変に関する微生物の特性および科学的手法を説明することができる【汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 実験室における一般的な心得および食品衛生学実験の概要説明 空中落下菌 第2回 手指の衛生検査 第3回 食品中の細菌数 第4回 食品中の腸炎ビブリオ菌試験 第5回 食品中のサルモネラ属菌試験 第6回 簡易キットを利用した生菌検査法 第7回 大腸菌群試験 第8回 ヒトの黄色ブドウ球菌試験 第9回 微生物実験の総括 第10回 魚介類の寄生虫の確認・魚の鮮度判定 第11回 合成洗剤の残留検査 牛乳の鮮度測定 第12回 でんぷん・たんぱく質・油脂の残留試験 第13回 食用油脂の劣化試験（過酸化価および酸価） 第14回 食品添加物（発色剤）の分析 第15回 食品添加物（保存料・着色料）の分析 第16回 まとめと試験 （なお、試料入手の都合で事前連絡のうえ実験順序を入れ替える場合がある）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業開始時までに、当該回で何の実験を行うのか確認しておくこと。 実験終了後は、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10% レポート：50%（実験結果に基づき、自ら考察を行っている点を特に重視する） 期末試験：40%						
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は1/3回の欠席とし、20分以上の不在は欠席として扱う（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、レポートや定期試験の評価にかかわらず、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。 ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	『図解 食品衛生学実験 第3版』一戸正勝・西島基弘・石田裕 編、講談社、ISBN 978-4-06-139836-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品加工実習						
担当教員	川窪 淳子					科目ナンバ	N73030
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	身近な食品の加工						
授業の概要	<p>食品加工の原理と実際          食品素材の保存あるいは栄養性や嗜好性の改善などを目的として加工食品は作られてきたものである。糎をつかって味噌を作るというような実際の加工操作を通じて原材料の種類や量などを実感し、それぞれの工程を具体的に把握するとともに、実験に対する観察力と科学的思考力を養う。また、実際に実習で加工したものと市販品との違いから、現在の加工技術の進歩や食品添加物の現状についても考えることを目的とする。以上のことを実践するために、穀類、豆類、イモ類、果実・野菜類、畜産物などの加工品について、それぞれ例をあげ実習・実験を行う。</p>						
到達目標	<p>身近な加工食品が、それぞれどのような工程で作られているのかを知ることができ、その加工原理について説明することができる【知識・理解】また、実際に実習を行うことによって、いろいろな食品加工の技術や原材料、使用されている食品添加物などについての理解を深め、それぞれの加工食品を作ることができる【知識・理解、汎用的技能】。また、各内容について考察ができ、レポートを作成することができる【汎用的技能】。</p>						
授業計画	<p>第1回 実習における諸注意          実習の各内容について          第2回 豆類の加工 味噌の仕込み、きな粉          第3回 味噌などの発酵食品の顕微鏡観察          野菜・果実の加工 ジャムの計画          第4回 穀類の加工 団子、餅など          第5回 野菜・果実の加工 ジャム          瓶詰め、缶詰の実際          第6回 穀類の加工 パン          乳製品の加工 バター          卵類の加工 マヨネーズ          第7回 穀類の加工 グルテンの分離と麩          第8回 穀類の加工 うどん          第9回 野菜類の加工 漬物（ピクルス）          キャラメル          第10回 野菜類の加工 トマトケチャップ          くん煙          第11回 肉類の加工 ポークソーセージ          第12回 イモ類の加工 コンニャク          第13回 乳類の加工 アイスクリーム、チーズ          第14回 豆類の加工 豆腐、味噌          第15回 インスタント食品について 実習のまとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<p>授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書の該当する箇所の加工原理を読んできてください。          授業後学習：実習したことの要点をまとめてください。授業内容の理解を深めることができます。          また、まとめとして課題を出しますので、レポート作成を行ってください。</p>						
授業方法	実習						
評価基準と評価方法	<p>授業態度（実習への取り組み）60% + レポート 40%          実習への取り組み、グループ実習での協力とレポート作成において実習内容について理解を深め、考察ができていないか評価する。到達目標に関する到達度の確認。          レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。</p>						
履修上の注意	<p>開講日数の2/3以上の出席が必要。          レポートの提出期限厳守。          第2回から実習用の白衣、帽子（調理実習用）と上靴が必要。</p>						
教科書	<p>食品加工学実験書 著          森 孝夫編著（化学同人）</p>						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品学各論						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	N03280
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の総理解						
授業の概要	代表的な食品（植物性食品、動物性食品、その他の食品）について、含まれる成分の特徴を把握する。続いて、生育・生産から、加工・貯蔵、流通、調理を経て人に摂取されるまでの過程における、一次機能、二次機能、三次機能の変化を理解する。食品の表示と規格についても学び、表示から得られる情報を知る。これらの学びを通して、「食品学総論」、「食品機能学」、「調理学」の各科目で学んだ内容の相互のつながりを理解し、食品・食物を総合的に理解し安全・有効に利用する力を養う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・種々の食品に含まれる成分の特徴を理解し、説明することができる。【知識・理解】</li> <li>・食品の一次機能、二次機能、三次機能をふまえ、食品の機能性を保つための加工・保存方法、および食品の劣化要因やその防止法を理解することができる。【知識・理解】</li> <li>・食品および容器包装の表示や規格について、根拠となる法律や省令をふまえた上で、その意味や目的を説明することができる。【知識・理解、汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 食品の機能性（一次機能、二次機能、三次機能）、食品加工の意義と目的 第2回 食品の表示と規格基準① 第3回 食品の表示と規格基準② 第4回 食品の生産条件と流通 第5回 保存や環境条件による食品成分の変化① 第6回 保存や環境条件による食品成分の変化② 第7回 食品保存の方法と特徴 第8回 食品加工の方法と成分変化、劣化要因 第9回 植物性食品の栄養成分とその特徴① 第10回 植物性食品の栄養成分とその特徴② 第11回 動物性食品の栄養成分とその特徴① 第12回 動物性食品の栄養成分とその特徴② 第13回 油脂・調味料類等の成分とその特徴 第14回 微生物利用食品等の成分とその特徴 第15回 器具と容器包装、食品の安全 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習:当該回の教科書を予習し、「食品学総論」「食品機能学」「調理学」等で学んだ関連事項を思い出ししておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習:授業で扱った範囲を教科書に沿って復習し、要点を自分でノートにまとめる。さらに、クエスチョンバンク2021を参照し、授業で取り上げた内容が、過去の国家試験ではどのような形式で出題されているか確かめ、解答する。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：80% 小テスト・課題：20%						
履修上の注意	20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 国家試験では「食べ物と健康」の分野の配点割合は低くない。 本授業および授業後学習を通じて、自分が理解できていない箇所、覚えていない箇所を洗い出し、3年生のうちに国家試験の過去問に対応できる基礎力を身につける気概で臨むこと。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北島直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25607-5 この他に、1～2年時に使用した教科書、および食品成分表を適宜使用する（これらの持参が必要な場合、授業やポータルで事前に指示する）。						

参考書	・クエスチョンバンク2021（夏休み頃に購入予定のもの）
-----	------------------------------



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N01220
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜1~2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験の基礎 食品成分の理解						
授業の概要	食品学総論で身につけた食品学の知識を背景に、身近な食品中に含まれる炭水化物、タンパク質・アミノ酸、脂質に関する種々の定性試験を行う。また、水分と灰分については定量実験と演習を行う。これらの実験から食品の一般成分の化学的な特徴を理解する。大学における最初の理化学実験に位置づけられるので、実験を行う上での注意、実験器具・試薬の取り扱い方、結果のまとめ方、実験レポートの構成と作成方法などの基本を学ぶ。精密な実験や機器の操作にも慣れ、2年次以降の本格的な実験につなげる。						
到達目標	(1) 実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な実験技術が身につけ、テキストに書かれている実験をグループ員と協力して完遂することができる。【汎用的技能】 (3) 実験レポートの構成を理解し、各実験で確認したことを科学的に説明するレポートを作成できる。【汎用的技能】 (4) 三大栄養素の化学構造と性質を説明する事ができる。【知識・理解】 (5) 食品成分表の構成を説明する事ができる。【知識・理解】						
授業計画	1. 実験概要の説明、実験の基礎 1（器具の使い方） 2. 実験の基礎 2（pH測定） 3. 炭水化物 1（糖の定性試験） 4. 炭水化物 2（食品からの糖抽出） 5. 炭水化物 3（糖の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出） 6. 炭水化物 4（デンプンの糊化と加水分解） 7. 実験の基礎、炭水化物のまとめと試験 8. 水分（赤外線水分計による食品の水分測定） 9. 灰分（直接灰化法による食品の灰分測定演習、食品成分表の理解） 10. タンパク質 1（タンパク質の定性試験） 11. タンパク質 2（アミノ酸の定性試験） 12. 水分、灰分、たんぱく質のまとめと試験 13. 脂質 1（脂質の定性試験） 14. 脂質 2（脂質の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出、脂質の物理的变化） 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作の流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに取り組み、基礎知識の復習をします。学習時間1時間 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習：実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。グループ学習のまとめをmanabaにアップする課題は期限を厳守して取り組みます。学習時間2時間 * 食品学実験では、「食品学総論」「食品機能学」で学ぶ内容の理解を実験により深めることを目的としています。実験内容の関連箇所を講義で使用した教科書で確認し、理解して暗記します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	レポート点 50%（到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認） 試験 50%（到達目標(3)～(5)に関する到達度の確認） なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席回数が開講回数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
教科書	基礎から学ぶ 食品化学実験テキスト 谷口亜樹子、古庄律、松本憲一 編著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0500-6 C3077						
参考書	食品学総論、食品機能学、調理学の教科書 食品成分表						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品学実験						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N01220
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験の基礎 食品成分の理解						
授業の概要	食品学総論で身につけた食品学の知識を背景に、身近な食品中に含まれる炭水化物、タンパク質・アミノ酸、脂質に関する種々の定性試験を行う。また、水分と灰分については定量実験と演習を行う。これらの実験から食品の一般成分の化学的な特徴を理解する。大学における最初の理化学実験に位置づけられるので、実験を行う上での注意、実験器具・試薬の取り扱い方、結果のまとめ方、実験レポートの構成と作成方法などの基本を学ぶ。精密な実験や機器の操作にも慣れ、2年次以降の本格的な実験につなげる。						
到達目標	(1) 実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明する事ができる。【汎用的技能】 (2) 基本的な実験技術が身につけ、テキストに書かれている実験をグループ員と協力して完遂することができる。【汎用的技能】 (3) 実験レポートの構成を理解し、各実験で確認したことを科学的に説明するレポートを作成できる。【汎用的技能】 (4) 三大栄養素の化学構造と性質を説明する事ができる。【知識・理解】 (5) 食品成分表の構成を説明する事ができる。【知識・理解】						
授業計画	1. 実験概要の説明、実験の基礎 1（器具の使い方） 2. 実験の基礎 2（pH測定） 3. 炭水化物 1（糖の定性試験） 4. 炭水化物 2（食品からの糖抽出） 5. 炭水化物 3（糖の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出） 6. 炭水化物 4（デンプンの糊化と加水分解） 7. 実験の基礎、炭水化物のまとめと試験 8. 水分（赤外線水分計による食品の水分測定） 9. 灰分（直接灰化法による食品の灰分測定演習、食品成分表の理解） 10. タンパク質 1（タンパク質の定性試験） 11. タンパク質 2（アミノ酸の定性試験） 12. 水分、灰分、たんぱく質のまとめと試験 13. 脂質 1（脂質の定性試験） 14. 脂質 2（脂質の薄層クロマトグラフィーによる分離・検出、脂質の物理的变化） 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：事前に配布されているテキストプリントを読み、実験の目的を理解し、実験ノートに実験操作の流れ図にまとめ、測定項目を記録するための表を作成し、実験結果を予想します。事前学習課題が出されている場合には、授業までに取り組み、基礎知識の復習をします。学習時間1時間 限られた時間内に手際よく実験を行い、授業から多くを学ぶためには予習が欠かせません。 授業後学習：実験の目的に沿って、授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。グループ学習のまとめをmanabaにアップする課題は期限を厳守して取り組みます。学習時間2時間 * 食品学実験では、「食品学総論」「食品機能学」で学ぶ内容の理解を実験により深めることを目的としています。実験内容の関連箇所を講義で使用した教科書で確認し、理解して暗記します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	レポート点 50%（到達目標(1)~(3)に関する到達度の確認） 試験 50%（到達目標(3)~(5)に関する到達度の確認） なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席回数が開講回数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。						
教科書	基礎から学ぶ 食品化学実験テキスト 谷口亜樹子、古庄律、松本憲一 編著 建帛社 ISBN 978-4-7679-0500-6 C3077						
参考書	食品学総論、食品機能学、調理学の教科書 食品成分表						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品学総論						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	N01180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の成分を理解すること。						
授業の概要	食品は、非常に身近なものでありながら、その形態および成分組成は多種多様である。食品学総論では、食品とは何かを理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの化学的な特徴を理解し、食品成分に関する基礎知識を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と食品（食べ物）の関わりについて説明することができる【知識・理解】</li> <li>・食品に含まれる主要成分の化学構造に関する基礎知識を述べる【知識・理解】</li> <li>・食品成分の変化と栄養について理解することができる【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回 人間と食品（食べ物） 第2回 食品成分の化学構造1 - 食品と水 第3回 食品成分の化学構造2 - たんぱく質I 第4回 食品成分の化学構造3 - たんぱく質II 第5回 食品成分の化学構造4 - 炭水化物 第6回 食品成分の化学構造5 - 脂質I 第7回 食品成分の化学構造6 - 脂質II 第8回 食品成分の化学構造7 - ビタミン 第9回 食品成分の化学構造8 - ミネラル 第10回 食品成分の変化と栄養1 - 色素成分 第11回 食品成分の変化と栄養2 - 呈味成分 第12回 食品成分の変化と栄養3 - 香気成分 第13回 食品成分の変化と栄養4 - 食品の物性 第14回 食品成分の変化と栄養5 - 官能評価 第15回 食品成分の変化と栄養6 - 食品表示 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前日に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習：授業で扱った範囲を教科書に沿って復習し、要点を自分でまとめておくこと。食品学総論で取り扱う内容は、1年次後期以降において開講される専門基礎科目および専門科目を理解する上で必須である。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：90% 小テスト・課題：10%						
履修上の注意	食品成分の特性を知ること、食品素材を活かした加工や調理を行う上で必要不可欠である。疑問点や不明点が生じた場合は、放置せずに早めに解決すること。 20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。出席回数が開講回数2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」（改訂第2版）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論(第3版) 食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25607-5						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品学総論						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N01180
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食品の成分を理解すること。						
授業の概要	食品は、非常に身近なものでありながら、その形態および成分組成は多種多様である。食品学総論では、食品とは何かを理解するために、食品中に含まれている主要成分のそれぞれの化学的な特徴を理解し、食品成分に関する基礎知識を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間と食品（食べ物）の関わりについて説明することができる【知識・理解】</li> <li>・食品に含まれる主要成分の化学構造に関する基礎知識を述べる【知識・理解】</li> <li>・食品成分の変化と栄養について理解することができる【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回 人間と食品（食べ物） 第2回 食品成分の化学構造1 - 食品と水 第3回 食品成分の化学構造2 - たんぱく質I 第4回 食品成分の化学構造3 - たんぱく質II 第5回 食品成分の化学構造4 - 炭水化物 第6回 食品成分の化学構造5 - 脂質I 第7回 食品成分の化学構造6 - 脂質II 第8回 食品成分の化学構造7 - ビタミン 第9回 食品成分の化学構造8 - ミネラル 第10回 食品成分の変化と栄養1 - 色素成分 第11回 食品成分の変化と栄養2 - 呈味成分 第12回 食品成分の変化と栄養3 - 香気成分 第13回 食品成分の変化と栄養4 - 食品の物性 第14回 食品成分の変化と栄養5 - 官能評価 第15回 食品成分の変化と栄養6 - 食品表示 第16回 期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前日に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。（標準学習時間1.5時間） 授業後学習：授業で扱った範囲を教科書に沿って復習し、要点を自分でまとめておくこと。食品学総論で取り扱う内容は、1年次後期以降において開講される専門基礎科目および専門科目を理解する上で必須である。（標準学習時間2.5時間）						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験：90% 小テスト・課題：10%						
履修上の注意	食品成分の特性を知ること、食品素材を活かした加工や調理を行う上で必要不可欠である。疑問点や不明点が生じた場合は、放置せずに早めに解決すること。 20分未満の不在（遅刻・早退等）は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする（交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する）。出席回数が開講回数2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」（改訂第2版）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新 食品・栄養科学シリーズ「食品学総論(第3版) 食べ物と健康①」森田準司・成田宏史編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1640-2 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」（増補）太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25607-5						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品機能学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N01190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	各種食品の特徴と機能について解説する。						
授業の概要	食品機能学は、食品成分を機能成分として捉え、その生体への効果および作用機序、ならびに成分間相互作用に関する科学である。 各種食品の特性および食品中に含まれる機能性成分について述べる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の一次機能(栄養機能)、二次機能(感覚応答機能・嗜好性)、三次機能(生体調節機能)を具体的に述べることができる【知識・理解】</li> <li>・食品成分の働きならびに食品成分の変化や相互作用について説明することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>・三次機能を中心に、食品が生体に及ぼす影響について列挙することができる【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回 食品成分の変化と栄養1-植物性食品① 第2回 食品成分の変化と栄養2-植物性食品② 第3回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分1-植物性食品③ 第4回 食品成分の変化と栄養3-動物性食品① 第5回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分2-動物性食品② 第6回 食品成分間相互作用-油脂 第7回 食品の機能性-調味料および香辛料類 第8回 食品成分の変化と栄養4-微生物利用食品① 第9回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分3-微生物利用食品② 第10回 食品成分の変化と栄養5-食品加工と栄養 第11回 食品の三次機能1-食品の表示に関する法規 第12回 食品の三次機能2-健康や栄養に関する表示の制度 第13回 食品の三次機能3-食品の三次機能を担う成分① 第14回 食品の三次機能4-食品の三次機能を担う成分② 第15回 食品の三次機能5-特別用途食品・保健機能食品の規格基準と表示 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:前回到学したことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間) 授業後学習:教科書に沿って復習し、自分専用の参考書を作成するつもりでノートを整理すること。 食品機能学で取り扱う内容が理解できていないと、2年次「食品機能学実験」を履修する際に、実験の目的や原理の理解が困難となる。(標準学習時間2.5時間)						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験:90% 小テストや課題:10%						
履修上の注意	各回の授業の復習を特に重視すること。 20分未満の不在(遅刻・早退等)は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」(改訂第2版)太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版)食べ物と健康②」瀬口正晴・八田一編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1641-9 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」(増補)太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25607-5						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品機能学						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバー	N01190
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	各種食品の特徴と機能について解説する。						
授業の概要	食品機能学は、食品成分を機能成分として捉え、その生体への効果および作用機序、ならびに成分間相互作用に関する科学である。 各種食品の特性および食品中に含まれる機能性成分について述べる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品の一次機能(栄養機能)、二次機能(感覚応答機能・嗜好性)、三次機能(生体調節機能)を具体的に述べることができる【知識・理解】</li> <li>・食品成分の働きならびに食品成分の変化や相互作用について説明することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>・三次機能を中心に、食品が生体に及ぼす影響について列挙することができる【知識・理解】</li> </ul>						
授業計画	第1回 食品成分の変化と栄養1 -植物性食品① 第2回 食品成分の変化と栄養2 -植物性食品② 第3回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分1 -植物性食品③ 第4回 食品成分の変化と栄養3 -動物性食品① 第5回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分2 -動物性食品② 第6回 食品成分間相互作用 -油脂 第7回 食品の機能性 -調味料および香辛料類 第8回 食品成分の変化と栄養4 -微生物利用食品① 第9回 食品中に含まれる健康増進・疾病予防に寄与する成分3 -微生物利用食品② 第10回 食品成分の変化と栄養5 -食品加工と栄養 第11回 食品の三次機能1 -食品の表示に関する法規 第12回 食品の三次機能2 -健康や栄養に関する表示の制度 第13回 食品の三次機能3 -食品の三次機能を担う成分① 第14回 食品の三次機能4 -食品の三次機能を担う成分② 第15回 食品の三次機能5 -特別用途食品・保健機能食品の規格基準と表示 第16回 期末試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:前日に学んだことを再度確かめ、理解できているか確認しておくこと。(標準学習時間1.5時間) 授業後学習:教科書に沿って復習し、自分専用の参考書を作成するつもりでノートを整理すること。 食品機能学で取り扱う内容が理解できていないと、2年次「食品機能学実験」を履修する際に、実験の目的や原理の理解が困難となる。(標準学習時間2.5時間)						
授業方法	講義 授業中に疑問点があれば質問することを推奨する。ディスカッションを行い疑問点を解決する。						
評価基準と評価方法	期末試験:90% 小テストや課題:10%						
履修上の注意	各回の授業の復習を特に重視すること。 20分未満の不在(遅刻・早退等)は、1/3回の欠席とみなす。また20分以上不在の場合は、欠席扱いとする(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。						
教科書	・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の科学」(改訂第2版)太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25158-2						
参考書	・新食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版)食べ物と健康②」瀬口正晴・八田一編、化学同人、ISBN 978-4-7598-1641-9 ・健康・栄養科学シリーズ「食べ物と健康 食品の加工」(増補)太田英明・北畠直文・白土英樹編、南江堂、ISBN 978-4-524-25607-5						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品機能学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02230
学期	後期隔週A	曜日・時限	月曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品成分の機能性や化学変化、相互作用について、実験を通して理解する。						
授業の概要	定性・定量実験や酵素実験を通じて、食品成分の諸性質を学ぶ。 食品成分を分離・抽出し、それが目的物であるかどうかを確認する。 次いで、特徴的な機能成分について、調製法や機能測定法を学ぶ。 身近な食品を取り上げ、そこに含まれている成分の諸性質を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品機能学(講義)で学んだ内容を、実験を通して利用することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>・食品成分の測定原理を理解することができる【知識・理解】</li> <li>・機能性・化学変化・相互作用に関する理論的背景を説明することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 はじめに(実験の心得, 試薬調製) 食品成分の分離(牛乳から乳脂肪, カゼイン, 乳清たんぱく質, 乳糖の分離) 第2回 成分の確認(たんぱく質の確認) 第3回 食品成分の確認(たんぱく質の確認その2:電気泳動法) 第4回 食品中の色素 第5回 食品中の機能成分(食物繊維) 第6回 食品中の機能成分について(抗酸化成分) 食品の主要成分の化学変化(酸価) 第7回 食品成分間相互作用(酵素的褐変, 非酵素的褐変) 第8回 まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業開始時までに、当該回で何の実験を行うのか確認しておくこと。 実験終了後は、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10% レポート：50% (実験結果に基づき、自ら考察を行っている点を特に重視する) 期末試験：40%						
履修上の注意	20分未満の不在(遅刻・早退等)は1/3回の欠席とし、20分以上の不在は欠席として扱う(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、レポートや期末試験の評価にかかわらず、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。  ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	「食品学実験書 第3版」藤田修三・山田和彦 編著、医歯薬出版、ISBN 978-4-263-70720-3 「新版改訂 食品学実験書」青柳康夫 編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0596-9						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食品機能学実験						
担当教員	小林 利寛					科目ナンバ-	N02230
学期	後期隔週B	曜日・時限	月曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	食品成分の機能性や化学変化、相互作用について、実験を通して理解する。						
授業の概要	定性・定量実験や酵素実験を通じて、食品成分の諸性質を学ぶ。 食品成分を分離・抽出し、それが目的物であるかどうかを確認する。 次いで、特徴的な機能成分について、調製法や機能測定法を学ぶ。 身近な食品を取り上げ、そこに含まれている成分の諸性質を検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品機能学(講義)で学んだ内容を、実験を通して利用することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> <li>・食品成分の測定原理を理解することができる【知識・理解】</li> <li>・機能性・化学変化・相互作用に関する理論的背景を説明することができる【知識・理解、汎用的技能】</li> </ul>						
授業計画	第1回 はじめに(実験の心得, 試薬調製) 食品成分の分離(牛乳から乳脂肪, カゼイン, 乳清たんぱく質, 乳糖の分離) 第2回 成分の確認(たんぱく質の確認) 第3回 食品成分の確認(たんぱく質の確認その2:電気泳動法) 第4回 食品中の色素 第5回 食品中の機能成分(食物繊維) 第6回 食品中の機能成分について(抗酸化成分) 食品の主要成分の化学変化(酸価) 第7回 食品成分間相互作用(酵素的褐変, 非酵素的褐変) 第8回 まとめとテスト						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業開始時までに、当該回で何の実験を行うのか確認しておくこと。 実験終了後は、実験データをまとめ、レポートを提出する。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	授業への取り組み：10% レポート：50% (実験結果に基づき、自ら考察を行っている点を特に重視する) 期末試験：40%						
履修上の注意	20分未満の不在(遅刻・早退等)は1/3回の欠席とし、20分以上の不在は欠席として扱う(交通機関遅延などの事情がある場合は考慮する)。 出席回数が開講回数の2/3に満たない者は、レポートや期末試験の評価にかかわらず、原則として単位認定を行わない。 期末試験の再試験は実施しない。  ただし、実験授業は出席していれば良いというものではない。 自ら手を動かし、観察を行い、結果をレポートにまとめ考察を行うという一連の過程を経て、初めて意義があるものとなる。						
教科書	プリント配布						
参考書	「食品学実験書 第3版」藤田修三・山田和彦 編著、医歯薬出版、ISBN 978-4-263-70720-3 「新版改訂 食品学実験書」青柳康夫 編著、建帛社、ISBN 978-4-7679-0596-9						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食物栄養学演習I						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N74010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士に必要なとする専門分野の総まとめを行う。本演習を通して、卒業後の職務に適應できる力を身につける。						
授業の概要	<p>管理栄養士に必要な専門9分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）に関する新しいテーマに関して演習を行う。本演習を通して、卒業後の職務に適應できる力を身につける。</p> <p>オムニバス方式/全15回  （田中あゆ子/1回）※社会・環境と健康  集団を対象とした健康の維持・増進プログラムの実施方法について学ぶ。また、集団を対象とした健康管理に不可欠な、疫学について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（佐藤友亮/1回）（竹中康之/1回）※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  管理栄養士に必要な、人体の正常構造および疾患に関する最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（片平理子/1回）（小林利寛/1回）※食べ物と健康  食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理に関する最新の知見を学ぶ。また、現代生活における、食事設計及び調理の役割を再確認する。食品の表示と規格基準についての最新の知識を学ぶ。  食べ物と環境問題に関する最新の知見を学ぶ。また、食中毒と食品衛生対策、さらに、食の安全性に関わる法律の最新知識を学ぶ。</p> <p>（竹中康之/1回）※基礎栄養学  栄養素の代謝、疾病の予防・治療における栄養の役割について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（橋本沙幸/1回）※応用栄養学  管理栄養士の基本技能である食事摂取基準について学ぶ。また、成長・発達・加齢によるライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（橘ゆかり/2回）※栄養教育論  栄養教育に必要な、行動変容の理論やモデルについての最新の知見を学ぶ。また、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育マネジメントについて、最新の知見を学ぶ。</p> <p>（林直哉/2回）※臨床栄養学  傷病者の栄養マネジメントおよび、傷病者の栄養マネジメントに必要な、チーム医療の現状、医療制度の変化について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（千歳万里/2回）※公衆栄養学  現代の社会生活に適應した公衆栄養プログラムを計画・実施するために必要な最新知識を学ぶ。また、地域社会の公衆栄養に関する最新のトピックスについて学ぶ。</p> <p>（作田はるみ/2回）※給食経営管理論  現代社会で、安全で安心な給食提供を行うために身につけておくべき最新の知見を学ぶ。また、特定給食施設の関連法規について、最新トピックスを学ぶ。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な分野ごとの基礎的事項を説明でき、分野ごとの専門知識を関連付けることができる。【知識・理解】						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 1回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 2回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 1回 栄養教育論 2回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 2回 給食経営管理論 2回  授業時間外に、期末試験を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						

授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と 評価方法	試験（200点満点、60%以上） ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	1. 業者の模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。 2. 試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。 3. 「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 4. 「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 5. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 6. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 7. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。 8. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食物栄養学演習I						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N74010
学期	前期/1st semester	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士に必要なとする専門分野の総まとめを行う。本演習を通して、卒業後の職務に適應できる力を身につける。						
授業の概要	<p>管理栄養士に必要な専門9分野（社会・環境と健康、人体の構造と機能および疾病の成り立ち、食べ物と健康、基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論）に関する新しいテーマに関して演習を行う。本演習を通して、卒業後の職務に適應できる力を身につける。</p> <p>オムニバス方式/全15回  （田中あゆ子/1回）※社会・環境と健康  集団を対象とした健康の維持・増進プログラムの実施方法について学ぶ。また、集団を対象とした健康管理に不可欠な、疫学について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（佐藤友亮/1回）（竹中康之/1回）※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  管理栄養士に必要な、人体の正常構造および疾患に関する最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（片平理子/1回）（小林利寛/1回）※食べ物と健康  食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理に関する最新の知見を学ぶ。また、現代生活における、食事設計及び調理の役割を再確認する。食品の表示と規格基準についての最新の知識を学ぶ。  食べ物と環境問題に関する最新の知見を学ぶ。また、食中毒と食品衛生対策、さらに、食の安全性に関わる法律の最新知識を学ぶ。</p> <p>（竹中康之/1回）※基礎栄養学  栄養素の代謝、疾病の予防・治療における栄養の役割について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（橋本沙幸/1回）※応用栄養学  管理栄養士の基本技能である食事摂取基準について学ぶ。また、成長・発達・加齢によるライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて最新のトピックスを学ぶ。</p> <p>（橘ゆかり/2回）※栄養教育論  栄養教育に必要な、行動変容の理論やモデルについての最新の知見を学ぶ。また、ライフステージ・ライフスタイルに応じた栄養教育マネジメントについて、最新の知見を学ぶ。</p> <p>（林直哉/2回）※臨床栄養学  傷病者の栄養マネジメントおよび、傷病者の栄養マネジメントに必要な、チーム医療の現状、医療制度の変化について最新の知見を学ぶ。</p> <p>（千歳万里/2回）※公衆栄養学  現代の社会生活に適應した公衆栄養プログラムを計画・実施するために必要な最新知識を学ぶ。また、地域社会の公衆栄養に関する最新のトピックスについて学ぶ。</p> <p>（作田はるみ/2回）※給食経営管理論  現代社会で、安全で安心な給食提供を行うために身につけておくべき最新の知見を学ぶ。また、特定給食施設の関連法規について、最新トピックスを学ぶ。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な分野ごとの基礎的事項を説明でき、分野ごとの専門知識を関連付けることができる。【知識・理解】						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 1回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 2回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 1回 栄養教育論 2回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 2回 給食経営管理論 2回  授業時間外に、期末試験を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						

授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と 評価方法	試験（200点満点、60%以上） ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	1. 業者の模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。 2. 試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。 3. 「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。 4. 「国家試験対策講座」は必ず受講すること。 5. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 6. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 7. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。 8. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食物栄養学演習II						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N74020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。						
授業の概要	<p>管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。さらに、国家試験練習問題を用いて演習を行う。なお、各分野担当教員がオムニバス方式で行う。</p> <p>オムニバス方式/全15回  (田中あゆ子/2回) ※社会・環境と健康  「健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会・環境」、「人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方とその取組」、「保健・医療・福祉制度や関係法規の概要」について整理する。</p> <p>(佐藤友亮/2回) (竹中康之/1回) ※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  「人体の構造や機能についての系統的な理解」、「主要疾患の成因、病態、診断及び治療」について整理する。</p> <p>(片平理子/1回) (小林利寛/1回) ※食べ物と健康  「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における栄養や嗜好性の変化」、「食べ物の特性をふまえた食事設計及び調理の役割」について整理する。  「食品素材の成り立ちの理解」、「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保」、「食品の分類及び成分を理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識」について整理する。</p> <p>(竹中康之/1回) ※基礎栄養学  「栄養の基本的概念及びその意義」、「エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義」について整理する。</p> <p>(橋本沙幸/2回) ※応用栄養学  「栄養状態や心身機能に応じた栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠」、「各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理」について整理する。</p> <p>(橘ゆかり/1回) ※栄養教育論  「栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法」、「社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の展開」について整理する。</p> <p>(林直哉/2回) ※臨床栄養学  「傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「疾病の治療・増悪防止や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の方法」について整理する。</p> <p>(千歳万里/1回) ※公衆栄養学  「わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策」、「集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動」について整理する。</p> <p>(作田はるみ/1回) ※給食経営管理論  「給食の意義及び給食経営管理の概要についての理解」、「特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状態、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理」、「給食の運営方法とそのマネジメント」について整理する。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な分野ごとの基礎的事項を説明でき、分野ごとの専門知識を関連付けることができる。【知識・理解】						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 2回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 3回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 2回 栄養教育論 1回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 1回 給食経営管理論 1回  授業時間外に、期末試験を行う。						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業中に解答した練習問題を見直す。理解や知識の定着が不十分な項目は、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って、理解し直して暗記する。manabaに出される課題に取り組む。
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と評価方法	小テスト 20%、期末試験 80% ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業者の模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。</li> <li>2. 試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。</li> <li>3. 「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。</li> <li>4. 「国家試験対策講座」は必ず受講すること。</li> <li>5. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。</li> <li>6. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。</li> <li>7. 後期の「国家試験対策講座」の出席が1/2に満たない場合は、再試験の受験資格を失う。</li> <li>8. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。</li> <li>9. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。</li> </ol>
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	食物栄養学演習II						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N74020
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。						
授業の概要	<p>管理栄養士国家試験の合格を目標にして、最近の出題傾向とそのポイントを把握、理解する。また、それらの要点について、いくつかの角度から理解、応用できるように知識の充実をはかる。さらに、国家試験練習問題を用いて演習を行う。なお、各分野担当教員がオムニバス方式で行う。</p> <p>オムニバス方式/全15回  (田中あゆ子/2回) ※社会・環境と健康  「健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因としての社会・環境」、「人々の健康状態とその規定要因を測定・評価し、健康の維持・増進や疾病予防に役立てる基本的な考え方とその取組」、「保健・医療・福祉制度や関係法規の概要」について整理する。</p> <p>(佐藤友亮/2回) (竹中康之/1回) ※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  「人体の構造や機能についての系統的な理解」、「主要疾患の成因、病態、診断及び治療」について整理する。</p> <p>(片平理子/1回) (小林利寛/1回) ※食べ物と健康  「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における栄養や嗜好性の変化」、「食べ物の特性をふまえた食事設計及び調理の役割」について整理する。  「食品素材の成り立ちの理解」、「食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保」、「食品の分類及び成分を理解し、人体や健康への影響に関する基礎的知識」について整理する。</p> <p>(竹中康之/1回) ※基礎栄養学  「栄養の基本的概念及びその意義」、「エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義」について整理する。</p> <p>(橋本沙幸/2回) ※応用栄養学  「栄養状態や心身機能に応じた栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「食事摂取基準策定の考え方や科学的根拠」、「各ライフステージにおける栄養状態や心身機能の特徴に基づいた栄養管理」について整理する。</p> <p>(橘ゆかり/1回) ※栄養教育論  「栄養教育の意義及び目的に応じた理論と技法」、「社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の展開」について整理する。</p> <p>(林直哉/2回) ※臨床栄養学  「傷病者や要支援者・要介護者の栄養管理(栄養ケア・マネジメント)」、「疾病の治療・増悪防止や栄養・食事支援を目的として、個別の疾患・病態や栄養状態、心身機能の特徴に応じた適切な栄養管理(栄養ケア・マネジメント)の方法」について整理する。</p> <p>(千歳万里/1回) ※公衆栄養学  「わが国や諸外国の健康・栄養問題に関する動向とそれらに対応した主要な栄養政策」、「集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動」について整理する。</p> <p>(作田はるみ/1回) ※給食経営管理論  「給食の意義及び給食経営管理の概要についての理解」、「特定多数人に食事を提供する給食施設における利用者の身体の状態、栄養状態、生活習慣などに基づいた食事の提供に関わる栄養・食事管理」、「給食の運営方法とそのマネジメント」について整理する。</p>						
到達目標	管理栄養士国家試験合格に必要な分野ごとの基礎的事項を説明でき、分野ごとの専門知識を関連付けることができる。【知識・理解】						
授業計画	オムニバス方式/全 15回 社会・環境と健康 2回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 3回 食べ物と健康 2回 基礎栄養学 1回 応用栄養学 2回 栄養教育論 1回 臨床栄養学 2回 公衆栄養学 1回 給食経営管理論 1回  授業時間外に、期末試験を行う。						

授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業中に解答した練習問題を見直す。理解や知識の定着が不十分な項目は、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って、理解し直して暗記する。manabaに出される課題に取り組む。
授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と評価方法	小テスト 20%、期末試験 80% ※評価方法について在学生ガイダンスで説明を行うので、必ず出席すること。
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 業者の模擬試験を必ず受験すること。※交通費は自己負担とする。</li> <li>2. 試験の出題範囲は管理栄養士国家試験の出題範囲である。詳細は在学生ガイダンス及び授業で説明する。</li> <li>3. 「国家試験対策講座」の内容も出題範囲とする。</li> <li>4. 「国家試験対策講座」は必ず受講すること。</li> <li>5. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。</li> <li>6. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。</li> <li>7. 後期の「国家試験対策講座」の出席が1/2に満たない場合は、再試験の受験資格を失う。</li> <li>8. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。</li> <li>9. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。</li> </ol>
教科書	3年生までに使用した全科目の教科書 適宜プリントを配布する。
参考書	授業中に紹介する。



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学I						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかにか効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 化学の復習、生化学と栄養学 第2回 糖質の構造と機能(単糖類) 第3回 糖質の構造と機能(多糖類) 第4回 脂質の構造と機能(構造) 第5回 脂質の構造と機能(分類) 第6回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(アミノ酸) 第7回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(タンパク質) 第8回 まとめと試験 第9回 核酸の構造と機能(構造) 第10回 核酸の構造と機能(タンパク質発現) 第11回 細胞 第12回 酵素(一般的性質) 第13回 酵素(活性の調節) 第14回 生体でのエネルギーの生成と利用 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書を予習しておくこと。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容を復習し、練習問題を解きなおす。また、課題がある場合は行う。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 松蔭manabaを利用して課題を課す場合がある。						
評価基準と評価方法	試験により評価する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。 授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。)						
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために (化学同人) 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422  管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第7版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学I						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02110
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生命を支える物質と化学反応の役割について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1) 生命現象の土台となる分子の把握 2) 代謝の理解 3) 遺伝子発現の理解 が可能となる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 化学の復習、生化学と栄養学 第2回 糖質の構造と機能(単糖類) 第3回 糖質の構造と機能(多糖類) 第4回 脂質の構造と機能(構造) 第5回 脂質の構造と機能(分類) 第6回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(アミノ酸) 第7回 アミノ酸、タンパク質の構造と機能(タンパク質) 第8回 まとめと試験 第9回 核酸の構造と機能(構造) 第10回 核酸の構造と機能(タンパク質発現) 第11回 細胞 第12回 酵素(一般的性質) 第13回 酵素(活性の調節) 第14回 生体でのエネルギーの生成と利用 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：授業計画に従って、授業までに教科書を予習しておくこと。(学習時間：2時間) 授業後学習：授業内容を復習し、練習問題を解きなおす。また、課題がある場合は行う。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義 松蔭manabaを利用して課題を課す場合がある。						
評価基準と評価方法	試験により評価する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に限り再配布する。)						
教科書	生化学：ヒトのからだの構成と働きを学ぶために (化学同人) 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN：9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第7版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN：9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学II						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバ-	N02120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生化学Iで学んだ事を基にして生命を支える物質と化学反応の役割について、三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)・核酸の異化(分解)と同化(合成)および個体の恒常性の維持について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1)三大栄養素の代謝(糖質・脂質・タンパク質の異化と同化)の理解 2)核酸代謝の理解 3)三大栄養素および核酸代謝の関連性の理解 4)個体の恒常性維持の理解 ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 代謝の概要 第2回 糖質代謝(解糖系、TCA回路) 第3回 糖質代謝(ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路) 第4回 糖質代謝(糖質の貯蔵と血糖値の維持) 第5回 脂質代謝(余分なエネルギーの貯蔵) 第6回 脂質代謝(貯蔵したエネルギーの使い方) 第7回 脂質代謝(脂質の運搬、コレステロールの合成) 第8回 まとめと試験 第9回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の生合成) 第10回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の異化) 第11回 アミノ酸・タンパク質代謝(特殊生成物への変換) 第12回 核酸代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの生合成、分解) 第13回 個体の恒常性とその調節機構(情報伝達の機構) 第14回 個体の恒常性とその調節機構(恒常性) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画に従って、授業までに教科書を予習しておくこと。(学習時間1時間) 授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、課題やレポートを作成する。(学習時間3時間)						
授業方法	講義: 授業の理解度を高めるために、授業中に授業内容や課題について質疑応答やディスカッションを行い、重要事項についての確認や復習を行う。						
評価基準と評価方法	試験60%、課題・レポート40%として評価する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に再配布する)						
教科書	生化学: ヒトのからだの構成と働きを学ぶために (化学同人) 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN: 9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第7版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN: 9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学II						
担当教員	織田 小枝					科目ナンバ-	N02120
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	生化学は生命現象や栄養の仕組みを理解する上で必要な科目であり、栄養学や食品学等の専門科目の基礎となるものである。人体がいかに効率よくエネルギーや生体構成成分を産生しているかを学び、生化学の基本的な考えを身につける。						
授業の概要	生体は多種多様な有機化学物質の集合体であり、それらが起こす化学反応によって生命現象が成立している。本来は命を有していないはずの物質がどのようにして生命を成立させているのか。本授業では、生化学Iで学んだ事を基にして生命を支える物質と化学反応の役割について、三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)・核酸の異化(分解)と同化(合成)および個体の恒常性の維持について学ぶ。						
到達目標	受講者は、この授業を履修することによって、 1)三大栄養素の代謝(糖質・脂質・タンパク質の異化と同化)の理解 2)核酸代謝の理解 3)三大栄養素および核酸代謝の関連性の理解 4)個体の恒常性維持の理解 ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 代謝の概要 第2回 糖質代謝(解糖系、TCA回路) 第3回 糖質代謝(ペントースリン酸回路、グルクロン酸経路) 第4回 糖質代謝(糖質の貯蔵と血糖値の維持) 第5回 脂質代謝(余分なエネルギーの貯蔵) 第6回 脂質代謝(貯蔵したエネルギーの使い方) 第7回 脂質代謝(脂質の運搬、コレステロールの合成) 第8回 まとめと試験 第9回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の生合成) 第10回 アミノ酸・タンパク質代謝(アミノ酸の異化) 第11回 アミノ酸・タンパク質代謝(特殊生成物への変換) 第12回 核酸代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの生合成、分解) 第13回 個体の恒常性とその調節機構(情報伝達の機構) 第14回 個体の恒常性とその調節機構(恒常性) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習: 授業計画に従って、授業までに教科書を予習しておくこと。(学習時間1時間) 授業後学習: 授業で取り上げた内容の要点についてまとめ、課題やレポートを作成する。(学習時間3時間)						
授業方法	講義: 授業の理解度を高めるために、授業中に授業内容や課題について質疑応答やディスカッションを行い、重要事項についての確認や復習を行う。						
評価基準と評価方法	試験60%、課題・レポート40%として評価する。						
履修上の注意	出席日数が講義日数の2/3に満たない者は、原則単位認定を行いません。20分以上の遅刻の場合は、欠席とする。授業内で配布するプリントは、各回出席者のみ配布する。(欠席の時は、翌週授業時に再配布する)						
教科書	生化学: ヒトのからだの構成と働きを学ぶために (化学同人) 小野 廣紀・千 裕美・日比野 久美子・吉澤 みな子 著 ISBN: 9784759814422 管理栄養士国家試験 合格のためのワークノート150日 (第7版) 女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会/編 ISBN: 9784789524452						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学実験Ⅰ						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02160
学期	前期隔週B	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	微生物を用い、実験を通して生命現象を理解する。						
授業の概要	人間は食品を摂取・消化した後、栄養素を細胞内に取り込む。微生物も、私たち人間の細胞と同様に、栄養素を取り込んだ後に代謝する。本実験では、細胞レベルでの生命現象を理解することを目的とし、主として微生物を用いる。そして、動物由来の試料を用いる生化学実験Ⅱに繋げる。具体的には、①微生物を扱うための基本操作・観察、②微生物の代謝、③微生物と抗菌物質について学ぶ。						
到達目標	(1) 微生物に関する基礎知識と取り扱いの技術を身につける。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 本実験で学んだ内容（特に代謝）を、ヒトの生命現象の理解に繋げることができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 実験で得られた結果に対し、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	【微生物取扱いの基本操作】 第1回 培地の調製と無菌操作 第2回 各種微生物の観察、菌体数測定 【微生物の代謝】 第3回 酵母によるグルコース代謝試験 第4回 乳酸菌による乳酸発酵試験 【微生物と抗菌物質】 第5回 卵白からリゾチームの単離・精製 第6回 単離したリゾチームの溶菌活性の確認 第7回 電気泳動によるリゾチームの分子量・純度の確認 第8回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	レポート（課題を含む）で評価する。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、結果の書き方、考察を重視する。到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学実験Ⅰ						
担当教員	竹中 康之					科目ナンバ-	N02160
学期	前期隔週A	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	微生物を用い、実験を通して生命現象を理解する。						
授業の概要	人間は食品を摂取・消化した後、栄養素を細胞内に取り込む。微生物も、私たち人間の細胞と同様に、栄養素を取り込んだ後に代謝する。本実験では、細胞レベルでの生命現象を理解することを目的とし、主として微生物を用いる。そして、動物由来の試料を用いる生化学実験Ⅱに繋げる。具体的には、①微生物を扱うための基本操作・観察、②微生物の代謝、③微生物と抗菌物質について学ぶ。						
到達目標	(1) 微生物に関する基礎知識と取り扱いの技術を身につける。【知識・理解、汎用的技能】 (2) 本実験で学んだ内容（特に代謝）を、ヒトの生命現象の理解に繋げることができる。【知識・理解、汎用的技能】 (3) 実験で得られた結果に対し、自身で解析、考察ができ、レポートを作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	【微生物取扱いの基本操作】 第1回 培地の調製と無菌操作 第2回 各種微生物の観察、菌体数測定 【微生物の代謝】 第3回 酵母によるグルコース代謝試験 第4回 乳酸菌による乳酸発酵試験 【微生物と抗菌物質】 第5回 卵白からリゾチームの単離・精製 第6回 単離したリゾチームの溶菌活性の確認 第7回 電気泳動によるリゾチームの分子量・純度の確認 第8回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成する。また、関連する内容の課題について調べる。これらは基本的に授業時間内で完結させるが、授業時間内でできなかったところは、授業時間外で完成させておくこと。						
授業方法	実験：グループ毎に所定の実験を行い、グループ内でデータ整理、結果についてのディスカッションを行う。そして、各自でレポートを作成する。						
評価基準と評価方法	レポート（課題を含む）で評価する。 レポート：実験結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。その際、結果の書き方、考察を重視する。到達目標(1)～(3)に関する到達度の確認。 なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解した上で取り組むこと。 実験室への携帯電話の持ち込みを禁止する。 出席回数が開講日数の2/3に満たないものには、原則単位認定を行わない。 20分以上遅刻の場合は欠席とする。 最終回のみ、授業時間は135分である。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学実験Ⅱ						
担当教員	澤田 夏美					科目ナンバ-	N02170
学期	後期隔週B	曜日・時限	金曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生体成分や栄養素の生化学的分析						
授業の概要	摂取した食物（栄養物）が生体の構造と機能の発現に関わるためには、様々な酵素の働きが必要です。そこで、酵素の性質と働きについて実験を行います。さらに生体組織を材料にして、生体成分の分離・分析（主としてタンパク質、核酸）を行います。						
到達目標	生化学および関連分野で学んだ知識をもとに、生体内での物質代謝のしくみを把握します。最近の分析手法や技術を取り入れながら、生命現象を理解し、説明することができる。【知識・理解】 また、実験で使用する器具や試薬について正しく使うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：タンパク質の分離（溶解性の違いを利用する） 第2回：酵素実験①（反応時間、反応温度） 第3回：酵素実験②（pH依存性） 第4回：ゲルろ過およびイオン交換カラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離精製 第5回：細胞分画 第6回：遺伝子に関する基礎実験①（核酸の分離抽出と定量） 第7回：遺伝子に関する基礎実験②（DNAの調製と観察および定量実験） 第8回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）20%、レポート60%、テスト20%						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解したうえで取り組んで下さい。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行いません。 20分以上遅刻の場合は欠席とします。 最終回のみ、授業時間は135分です。 * 質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	生化学実験Ⅱ						
担当教員	澤田 夏美					科目ナンバー	N02170
学期	後期隔週A	曜日・時限	金曜3~5	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	生体成分や栄養素の生化学的分析						
授業の概要	摂取した食物（栄養物）が生体の構造と機能の発現に関わるためには、様々な酵素の働きが必要です。そこで、酵素の性質と働きについて実験を行います。さらに生体組織を材料にして、生体成分の分離・分析（主として授業の概要 タンパク質、核酸）を行います。						
到達目標	生化学および関連分野で学んだ知識をもとに、生体内での物質代謝のしくみを把握します。最近の分析手法や技術を取り入れながら、生命現象を理解し、説明することができる。【知識・理解】 また、実験で使用する器具や試薬について正しく使うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：タンパク質の分離（溶解性の違いを利用する） 第2回：酵素実験①（反応時間、反応温度） 第3回：酵素実験②（pH依存性） 第4回：ゲルろ過およびイオン交換カラムクロマトグラフィーによるタンパク質の分離精製 第5回：細胞分画 第6回：遺伝子に関する基礎実験①（核酸の分離抽出と定量） 第7回：遺伝子に関する基礎実験②（DNAの調製と観察および定量実験） 第8回：まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実験終了後、実験データをまとめ、レポートを作成します。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、受講態度）20%、レポート60%、テスト20%						
履修上の注意	実験内容をしっかり理解したうえで取り組んで下さい。 出席回数が開講日数の2/3に満たない者には、原則単位認定を行いません。 20分以上遅刻の場合は欠席とします。 最終回のみ、授業時間は135分です。 * 質問は授業の前後で受け付けます。						
教科書	「生化学実験」田代 操 編著（化学同人） ISBN: 978-4-7598-0969-5 なお、適宜プリントを配布する。						
参考書							



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	総合演習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N04550
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学内および臨地実習での学びの総まとめ						
授業の概要	管理栄養士として知識、技能の総合能力の養成を目指して、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うためには、専門分野の各教育内容ごとに習得した知識・技能を統合する能力が必要なため、専門分野の各教育ごとに習得した知識・技能を統合する能力が新たに必要のため、専門分野の各教育内容を包含する演習を行う。また、臨地・校外実習のために、必要な演習等を演習前に行い、実習効果をより高める。さらに、実習が終了した後に、実習課題の報告会などを実施し、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、演習等を通して実習内容の充実させる。						
到達目標	(1)臨地実習(臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理)で実践する、栄養アセスメント、計画、実施、評価について理解し、暗記し、説明することができる。【態度・指向性】【汎用的技能】 (2)臨地実習(臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理)での学びと関連のある管理栄養士国家試験問題を理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：総合演習の授業の目的、授業概要、課題の説明(発表のスケジュール、発表方法、スライドの作成)</p> <p>第2回：課題資料の作成</p> <p>第3回：演習1 実習施設について(病院)</p> <p>第4回：演習1 実習施設について(福祉施設、保健所)</p> <p>第5回：演習2 栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告①糖尿病</p> <p>第6回：演習2 栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告②褥瘡</p> <p>第7回：演習2 公衆栄養アセスメント、活動計画(食環境の整備)</p> <p>第8回：小テスト、臨地実習(臨床栄養学)のまとめ</p> <p>第9回：臨地実習(臨床栄養学)の報告会</p> <p>第10回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(公衆栄養学・地域保健法・保健所・保健センターの業務)</p> <p>第11回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(公衆栄養学・行政栄養士の業務)</p> <p>第12回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(給食経営管理・大量調理マニュアル)</p> <p>第13回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(給食経営管理・給食の組織、栄養士の配置)</p> <p>第14回：小テスト、臨地実習のまとめ(公衆栄養学・給食経営管理)</p> <p>第15回：臨地実習の報告会(公衆栄養学・給食経営管理)</p> <p>・事前に提示した課題についてまとめ、発表する。 ・臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。 ・臨地実習の学びについて、グループ毎にまとめ発表の準備を行い、発表する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	<p>授業前学習：提示された課題について調べ、要点を整理し、発表のための準備を行う。(学習時間90分)</p> <p>授業後学習：提示された課題に該当する国家試験問題を解説し、manabaレポートに提出する。(学習時間90分)</p>						
授業方法	<p>【プレゼンテーション】実習施設の設置根拠、事業内容、管理栄養士の業務内容等についてまとめ、発表する。 【反転授業】臨地実習に関連した国家試験問題について、解答に導くための知識についてまとめ、発表する。発表内容について確認し、理解度を確保するための小テストを行う。</p>						
評価基準と評価方法	<p>小テスト：40%</p> <p>プレゼンテーション：10%</p> <p>レポート40%</p> <p>課題への取り組み：10%</p> <p>達成目標(1)(2)に関する達成度の確認を行う。</p>						
履修上の注意	<p>1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。</p> <p>2. 小テストへの欠席者には追試はしない。</p> <p>3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関閉着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない)</p> <p>4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。</p> <p>5. 私語・居眠り厳禁。</p>						
教科書	クエスチョン・バンク2020 管理栄養士国家試験問題解説2020 発行所(株)メディックメディア(3年次にすでに購入しているため、新たに購入する必要はない。) ISBN-13: 978-4896327687						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	総合演習						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N04550
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	学内および臨地実習での学びの総まとめ						
授業の概要	管理栄養士として知識、技能の総合能力の養成を目指して、栄養評価・判定に基づいた適正な栄養管理を行うためには、専門分野の各教育内容ごとに習得した知識・技能を統合する能力が必要なため、専門分野の各教育ごとに習得した知識・技能を統合する能力が新たに必要のため、専門分野の各教育内容を包含する演習を行う。また、臨地・校外実習のために、必要な演習等を演習前に行い、実習効果をより高める。さらに、実習が終了した後に、実習課題の報告会などを実施し、それぞれの学生が経験したことを持ち寄り、演習等を通して実習内容の充実させる。						
到達目標	(1)臨地実習(臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理)で実践する、栄養アセスメント、計画、実施、評価について理解し、暗記し、説明することができる。【態度・指向性】【汎用的技能】 (2)臨地実習(臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理)での学びと関連のある管理栄養士国家試験問題を理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回：総合演習の授業の目的、授業概要、課題の説明(発表のスケジュール、発表方法、スライドの作成)</p> <p>第2回：課題資料の作成</p> <p>第3回：演習1 実習施設について(病院)</p> <p>第4回：演習1 実習施設について(福祉施設、保健所)</p> <p>第5回：演習2 栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告①糖尿病</p> <p>第6回：演習2 栄養アセスメント、栄養ケア計画の実践報告②褥瘡</p> <p>第7回：演習2 公衆栄養アセスメント、活動計画(食環境の整備)</p> <p>第8回：小テスト、臨地実習(臨床栄養学)のまとめ</p> <p>第9回：臨地実習(臨床栄養学)の報告会</p> <p>第10回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(公衆栄養学・地域保健法・保健所・保健センターの業務)</p> <p>第11回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(公衆栄養学・行政栄養士の業務)</p> <p>第12回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(給食経営管理・大量調理マニュアル)</p> <p>第13回：演習3 関連項目の解説・練習問題の解説(給食経営管理・給食の組織、栄養士の配置)</p> <p>第14回：小テスト、臨地実習のまとめ(公衆栄養学・給食経営管理)</p> <p>第15回：臨地実習の報告会(公衆栄養学・給食経営管理)</p> <p>・事前に提示した課題についてまとめ、発表する。 ・臨地実習での学びと関連のある国家試験問題の解説を行う。 ・臨地実習の学びについて、グループ毎にまとめ発表の準備を行い、発表する。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：提示された課題について調べ、要点を整理し、発表のための準備を行う。(学習時間90分) 授業後学習：提示された課題に該当する国家試験問題を解説し、manabaレポートに提出する。(学習時間90分)						
授業方法	【プレゼンテーション】実習施設の設置根拠、事業内容、管理栄養士の業務内容等についてまとめ、発表する。 【反転授業】臨地実習に関連した国家試験問題について、解答に導くための知識についてまとめ、発表する。発表内容について確認し、理解度を確認するための小テストを行う。						
評価基準と評価方法	小テスト：40% プレゼンテーション：10% レポート40% 課題への取り組み：10% 達成目標(1)(2)に関する達成度の確認を行う。						
履修上の注意	1. 出席回数が開講日数の3分の2に満たない者には、原則単位認定を行わない。 2. 小テストへの欠席者には追試はしない。 3. 遅刻は1回の出席とは換算しない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。遅刻3回で欠席1回となる。(交通機関閉着による遅刻は、その証明提示によって遅刻とはしない) 4. 授業中は携帯電話・スマートフォンの電源を切っておくこと。 5. 私語・居眠り厳禁。						
教科書	クエスチョン・バンク2020 管理栄養士国家試験問題解説2020 発行所(株)メディックメディア(3年次にすでに購入しているため、新たに購入する必要はない。) ISBN-13: 978-4896327687						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	卒業演習						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N04560
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜1	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。						
授業の概要	<p>全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。</p> <p>オムニバス方式／全30回  (田中あゆ子／3回) ※社会・環境と健康  健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を理解し、主として集団を対象とした健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な知識や技能について復習し、再確認する。</p> <p>(佐藤友亮／3回) (竹中康之／1回) ※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  人体の構造について器官別に、形態・機能、そして主要疾患の成因・病態・診断・治療の概要の理解を確認する。また、個体の調節機能と恒常性などについて、その機構と関連疾患とを系統的に復習する。</p> <p>(片平理子／2回) (小林利寛／2回) ※食べ物と健康  食品学各論及び調理学：食品素材の成り立ちを理解し、食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における栄養や嗜好性の変化を、生産様式による分類に基づき総復習する。  人間と食べ物について、環境問題との関係から始まり、食品の主要成分および微量成分の化学的性質とその化学変化、次いで食品の機能性に関する事項を総復習する。</p> <p>(竹中康之／3回) ※基礎栄養学  栄養の基本的概念およびその意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、エネルギーおよび栄養素の代謝とその生理的意義を復習する。</p> <p>(橋本沙幸／3回) ※応用栄養学  個々人に最適な栄養ケアを行うためのシステムである栄養ケア・マネジメントの各構成要素、また成長・発達・加齢によるライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。</p> <p>(橘ゆかり／3回) ※栄養教育論  行動科学やカウンセリングの理論などの栄養教育関連の理論や概念を復習する。その理論や概念を理解したうえで、対象者（個人または集団）への栄養教育マネジメントについて全体像をより深く理解する。</p> <p>(林直哉／4回) ※臨床栄養学  傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養マネジメントができる実践能力を系統的に復習を通じて強固なものにする。またチーム医療に参画する者としての心構えや医療制度等、習得したものを確認する。</p> <p>(千歳万里／3回) ※公衆栄養学  地域社会における集団の栄養状態あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能について復習する。</p> <p>(作田はるみ／3回) ※給食経営管理論  安心で安全な給食提供を行うためのトータルシステムや各種サブシステムについて、特定給食施設の関連法規と様々な給食施設の特徴について復習する。</p>						
到達目標	管理栄養士養成課程に必要な分野ごとの知識について議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	オムニバス方式/全 30回 社会・環境と健康 3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 4回 食べ物と健康 4回 基礎栄養学 3回 応用栄養学 3回 栄養教育論 3回 臨床栄養学 4回 公衆栄養学 3回 給食経営管理論 3回  授業時間外に、中間試験および期末試験を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						

授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と 評価方法	試験（245点満点、60%以上） 内訳：確認試験45点満点 + 中間試験（栄養士実力認定試験）85点満点 + 期末試験115点満点
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 期末テストの出題範囲は、「クエスチョンバンク2020」の範囲とする。</li> <li>2. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。</li> <li>3. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。</li> <li>4. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。</li> <li>5. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。</li> </ol> <p>再履修者 ※本代、中間試験（栄養士実力認定試験）の試験費用は自己負担とする。 ※国家試験対策講座への出席は可能。</p>
教科書	クエスチョンバンク2020（メディックメディア）※購入不要 適宜プリントを配布する。
参考書	2020年度版 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） （社）全国栄養士養成施設協会編 授業中に紹介する。

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	卒業演習						
担当教員	田中 あゆ子ほか					科目ナンバ-	N04560
学期	通年／Full Year	曜日・時限	土曜2	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。						
授業の概要	<p>全分野を学び終えた時点で、分野ごとに学んだことを再確認させ、栄養指導の専門家として、さまざまな視点から得た知識を活用できる力の養成を目指す。</p> <p>オムニバス方式／全30回  (田中あゆ子／3回) ※社会・環境と健康  健康とは何か、そして人間の健康を規定する要因として幅広く社会・環境を理解し、主として集団を対象とした健康の維持・増進プログラムを実践するために必要な知識や技能について復習し、再確認する。</p> <p>(佐藤友亮／3回) (竹中康之／1回) ※人体の構造と機能および疾病の成り立ち  人体の構造について器官別に、形態・機能、そして主要疾患の成因・病態・診断・治療の概要の理解を確認する。また、個体の調節機能と恒常性などについて、その機構と関連疾患とを系統的に復習する。</p> <p>(片平理子／2回) (小林利寛／2回) ※食べ物と健康  食品学各論及び調理学：食品素材の成り立ちを理解し、食品の生産から加工、流通、貯蔵、調理を経て人に摂取されるまでの過程における栄養や嗜好性の変化を、生産様式による分類に基づき総復習する。  人間と食べ物について、環境問題との関係から始まり、食品の主要成分および微量成分の化学的性質とその化学変化、次いで食品の機能性に関する事項を総復習する。</p> <p>(竹中康之／3回) ※基礎栄養学  栄養の基本的概念およびその意義を理解するとともに、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割、エネルギーおよび栄養素の代謝とその生理的意義を復習する。</p> <p>(橋本沙幸／3回) ※応用栄養学  個々人に最適な栄養ケアを行うためのシステムである栄養ケア・マネジメントの各構成要素、また成長・発達・加齢によるライフステージ別の栄養ケア・マネジメントについて学ぶ。</p> <p>(橘ゆかり／3回) ※栄養教育論  行動科学やカウンセリングの理論などの栄養教育関連の理論や概念を復習する。その理論や概念を理解したうえで、対象者（個人または集団）への栄養教育マネジメントについて全体像をより深く理解する。</p> <p>(林直哉／4回) ※臨床栄養学  傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養マネジメントができる実践能力を系統的に復習を通じて強固なものにする。またチーム医療に参画する者としての心構えや医療制度等、習得したものを確認する。</p> <p>(千歳万里／3回) ※公衆栄養学  地域社会における集団の栄養状態あるいはニーズを把握し、適切な公衆栄養プログラムを計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックするための知識と技能について復習する。</p> <p>(作田はるみ／3回) ※給食経営管理論  安心で安全な給食提供を行うためのトータルシステムや各種サブシステムについて、特定給食施設の関連法規と様々な給食施設の特徴について復習する。</p>						
到達目標	管理栄養士養成課程に必要な分野ごとの知識について議論できる。【態度・志向性】						
授業計画	オムニバス方式/全 30回 社会・環境と健康 3回 人体の構造と機能及び疾病の成り立ち 4回 食べ物と健康 4回 基礎栄養学 3回 応用栄養学 3回 栄養教育論 3回 臨床栄養学 4回 公衆栄養学 3回 給食経営管理論 3回  授業時間外に、中間試験および期末試験を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間2時間）：各回授業で扱う内容について、クエスチョンバンクや3年次までの授業で使用した教科書を使って予習する。 授業後学習（学習時間2時間）：授業内容を復習し、関連する国家試験過去問を解く。manabaに出される課題に取り組む。						

授業方法	講義（オムニバス） 授業で取り扱う問題について、ディスカッションの時間を設ける。
評価基準と 評価方法	試験（245点満点、60%以上） 内訳：確認試験45点満点 + 中間試験（栄養士実力認定試験）85点満点 + 期末試験115点満点
履修上の注意	1. 期末テストの出題範囲は、「クエスチョンバンク2020」の範囲とする。 2. 出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 3. 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 4. 臨地・校外実習で欠席する場合は、事前に担当教員に欠席届を提出すること。 5. 臨地・校外実習で欠席した場合は、必ず補講を受けること。  再履修者 ※本代、中間試験（栄養士実力認定試験）の試験費用は自己負担とする。 ※国家試験対策講座への出席は可能。
教科書	クエスチョンバンク2020（メディックメディア）※購入不要 適宜プリントを配布する。
参考書	2020年度版 栄養士実力認定試験過去問題集（建帛社） （社）全国栄養士養成施設協会編 授業中に紹介する。

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	卒業論文						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N74060
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜4	配当学年	4	単位数	4.0
授業のテーマ	研究テーマについて、調査法、プレゼンテーション技法、解析法、論文作成法など総合的に習得						
授業の概要	専門基礎分野、専門分野で学んだことをもとに、個人テーマ毎の研究を行う。テーマに基づいて実験や調査を行い、コンピュータ等で解析して、それらの結果を卒業論文としてまとめる。同時に実験・調査の方法、コンピュータによる解析方法、論文のまとめ方について学ぶ。さらには研究成果について、各種学会・研究会で積極的に発表することで、プレゼンテーションの技法を身につける。また、研究内容についての討論に参加することで、発表内容を適切に要約する力、質問する力を身につける。						
到達目標	(1) 研究テーマについて、研究の手法を説明できる。(知識・理解) (2) エクセルを用いてデータ整理ができ、結果を図表で表すことができる。(汎用的技能) (3) 研究で得られた結果に対し、自分で解析、考察でき、論文を作成することができる。(汎用的技能) (4) グループのメンバーと協力して実施することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 研究テーマ 第2回 論文検索方法(図書館) 第3回 研究目的 第4回 研究目的および考察 第5回 研究方法 第6回 研究方法 第7回 法律について 第8回 論文検索 第9回 論文検索 第10回 調査・症例検討 第11回 調査・症例検討 第12回 調査・症例検討 第13回 統計方法 第14回 卒業論文のまとめ方 第15回 中間まとめ 第16回 調査内容の検証 第17回 調査内容の検証 第18回 研究内容の検証 第19回 研究内容の検証 第20回 研究内容の検証 第21回 中間まとめ 第22回 中間発表 第23回 課題の検証 第24回 課題の検証 第25回 学会発表(予定) 第26回 データ解析 第27回 データ解析 第28回 卒業論文まとめ 第29回 卒業論文まとめ 第30回 卒論発表						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	研究前学習:研究テーマに沿って、論文の検索、テーマの要点を整理していく。(学習時間:2時間) 研究後学習:研究テーマをまとめ、学内で発表すると共に卒業論文を作成する。(学習時間:2時間)						
授業方法	研究テーマに沿って、調査し研究をしていく。調査の進捗状況について、グループディスカッションを行う。各自で卒業論文を作成する。研究結果について、学内で発表をする。						
評価基準と評価方法	研究態度(研究への取り組み):50%、卒業論文:50% 研究態度:研究への取り組み、グループ討議への参加、卒業論文も含め総合的に評価する。到達目標(1)(4)に関する到達度の確認。 卒業論文:研究テーマに沿って卒業論文ができてきているか評価する。到達目標(2)(3)に関する到達度の確認。 なお、卒業論文は、各自にフィードバックする。						

履修上の注意	研究テーマをしっかり理解した上で取り組むこと。 研究テーマに沿って、個別指導する。 グループディスカッションに参加すること。
教科書	研究テーマに沿って、適宜紹介する。
参考書	味嗅覚の科学、齊藤幸子・小早川達編、朝倉書店 SBN978-4-254-10668-8



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	調査・データ処理実習						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N73040
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜3~4	配当学年	3~4	単位数	1.0
授業のテーマ	疫学研究に必要な統計学の基礎及び調査・データ処理の実践力の習得						
授業の概要	公衆衛生活動や公衆栄養活動を効果的に実施するためには、地域の実態を把握するだけでなく、信頼性が高く根拠の明らかな健康情報を収集・分析する力が必要とされる。本実習では、コンピュータを用いて、調査データや健康情報データの検索方法、情報の基本的な取り扱い、表計算ソフトを用いたデータの分析および処理の方法について理解する。さらにコンピュータの応用的な利用方法として解析ツールを用いた分析方法を学習する。						
到達目標	データ尺度及び統計的仮説検定について概説できる。【知識・理解】 基本統計量の算出及び主な統計的仮説検定ができる。【知識・理解】 調査計画の策定、アンケート用紙の作成、調査の実施、データの収集・分析・要約・視覚化、ポスター作成、発表ができる。【汎用的技能】【態度・志向性】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データ尺度、量的データの記述 - 度数分布</li> <li>2. 量的データの記述 - 基本統計量</li> <li>3. 先行研究の検索、データ収集</li> <li>4. 収集データの集計、集計結果の発表</li> <li>5. グラフ作成の基礎、独立（説明）変数と従属（目的）変数</li> <li>6. 統計的仮説検定 - t検定、相関分析</li> <li>7. 統計的仮説検定 - <math>\chi^2</math>検定</li> <li>8. 調査計画の策定（課題、背景、仮説、方法）</li> <li>9. 調査計画の発表、調査計画の修正</li> <li>10. アンケート作成の基礎、アンケートの修正</li> <li>11. 研究倫理、調査計画の最終確認（予備調査、調査票の最終化）</li> <li>12. データ入力・分析、解釈、プレゼンテーション作成</li> <li>13. プレゼンテーション</li> <li>14. ポスター作成</li> <li>15. ポスター・プレゼンテーション</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習課題を行う。 調査を実施する。						
授業方法	演習 グループワークによる演習およびプレゼンテーションを行う。 松蔭manabaによるレポート、ドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	平常点（グループワークにおける積極性、協働性等）20%、課題40%、小テスト40%						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。						
教科書	適宜資料を配布する。						
参考書	はじめて学ぶやさしい疫学 日本疫学会・南江堂疫学マニュアルマニュアル 南山堂 ISBN:978-4-524-26086-7						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	森井 沙衣子					科目ナンバ-	N01210
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食事作りの理解						
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。調理には、食品に含まれる栄養素の利用効率を高め、衛生的・安全に摂取できる状態に整え、嗜好性の高い食べ物にする役割がある。これらの役割を理解し、調理の実践に結びつけるための理論を学ぶ。おいしさの構成要素、非加熱操作・加熱操作・調味操作の原理と要点、伝熱方法と加熱条件の設定について理解する。植物性食品、動物性食品、成分抽出素材の調理過程における化学的・物理的変化、嗜好性の変化などの諸現象を科学的に把握する。また、日常食の献立作成の基本を理解する。						
到達目標	4つの食事の役割と3つの調理の目的を説明する事ができる。【知識・理解】 食事設計の考え方やプロセスを説明する事ができる。【知識・理解】 個々の調理操作が食品に与える影響を科学的に説明する事ができる。【知識・理解】 代表的な食品の調理特性を科学的に説明する事ができる。【知識・理解】						
授業計画	1. 調理学の意義 2. 食事設計の基礎（食事設計の意義、嗜好性） 3. 食事設計の実際 4. 調理操作と調理器具 5. 1~4回までのまとめと小テスト 6. 調理操作と栄養 植物性食品 穀類（米） 7. " 穀類（小麦） 8. " いも類・豆類 9. " 野菜類 10. " 動物性食品 食肉類 11. " 魚介類 12. " 卵類・乳類 13. " 成分抽出素材 でんぷん・油脂 14. " ゲル化素材 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 2時間）：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読みます。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席します。 授業後学習（学習時間 2時間）：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しながら覚えるべき事項を暗記します。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題を早めに解決することが大切です。自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。						
授業方法	講義 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間・期末テスト90%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	1. 『調理の科学 ―基礎から実践まで―』 監修者：吉田勉 編集者：高崎禎子・小林理恵 学文社 ISBN 978-4-7620-2968-4 C3043 2. 日本食品標準成分表（調理実習の指示に従うこと）						
参考書	1. NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	調理学						
担当教員	森井 沙衣子					科目ナンバ-	N01210
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	食事作りの理解						
授業の概要	栄養素を含む食材を、安全で消化吸収しやすく、おいしい食物の形に変える過程を調理という。調理には、食品に含まれる栄養素の利用効率を高め、衛生的・安全に摂取できる状態に整え、嗜好性の高い食べ物にする役割がある。これらの役割を理解し、調理の実践に結びつけるための理論を学ぶ。おいしさの構成要素、非加熱操作・加熱操作・調味操作の原理と要点、伝熱方法と加熱条件の設定について理解する。植物性食品、動物性食品、成分抽出素材の調理過程における化学的・物理的変化、嗜好性の変化などの諸現象を科学的に把握する。また、日常食の献立作成の基本を理解する。						
到達目標	4つの食事の役割と3つの調理の目的を説明する事ができる。【知識・理解】 食事設計の考え方やプロセスを説明する事ができる。【知識・理解】 個々の調理操作が食品に与える影響を科学的に説明する事ができる。【知識・理解】 代表的な食品の調理特性を科学的に説明する事ができる。【知識・理解】						
授業計画	1. 調理学の意義 2. 食事設計の基礎（食事設計の意義、嗜好性） 3. 食事設計の実際 4. 調理操作と調理器具 5. 1~4回までのまとめと小テスト 6. 調理操作と栄養 植物性食品 穀類（米） 7. " " 穀類（小麦） 8. " " いも類・豆類 9. " " 野菜類 10. " " 動物性食品 食肉類 11. " " 魚介類 12. " " 卵類・乳類 13. " " 成分抽出素材 でんぷん・油脂 14. " " ゲル化素材 15. まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習（学習時間 2時間）：授業計画に従って、授業前に教科書の該当する箇所を読みます。その際、わからない語句や理解できない箇所をチェックし、自分で調べられる範囲で調べた上で授業に出席します。 授業後学習（学習時間 2時間）：授業で学んだ内容をもう一度簡単に整理し、理解しながら覚えるべき事項を暗記します。復習のために教科書を読み直し、授業内に理解できなかったことを抽出し、次の授業で質問して問題を早めに解決することが大切です。自分が何を理解できていて、何が理解できていないのか、毎授業後に確認する習慣をつけましょう。						
授業方法	講義 教科書の図や表についてペアでディスカッションし発表する。						
評価基準と評価方法	平常点10%、中間・期末テスト90%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	1. 『調理の科学 ―基礎から実践まで―』 監修者：吉田勉 編集者：高崎禎子・小林理恵 学文社 ISBN 978-4-7620-2968-4 C3043 2. 日本食品標準成分表（調理実習の指示に従うこと）						
参考書	1. NEW 調理と理論 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1395-6						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	調理学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバ-	N01250
学期	後期隔週B	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験による調理理論の確認						
授業の概要	調理の基本技術、ならびに献立作成の基本知識を理解するために必要な実験を行う。特に短時間に調理の“こつ”をつかむ方法を知ることが目的とする。 材料配合、調理操作、調理器具などの調理条件を変えることによる料理への影響を、食物の化学的・物理的性質の測定、組織の観察、官能評価により総合的に評価する。結果から法則性を見出し、最適な調理法の解明を試みる。 これらを通して、合理的に調理を進めるための根拠となる調理理論の理解を深める。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明することができる。【知識・理解】 実験の目的に沿って設定された実験条件の設定理由を説明することができる。【知識・理解】 基本的な実験操作を正確に行うことができる。【汎用的技能】 代表的な食品の調理特性と調理操作の科学的裏付けを、実験により確認することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 1. 実験概要の説明、計量（調味料） 2. 温度に関する実験（汁物の温度降下、汁物の適温）</p> <p>第2回 3. 野菜に関する実験 1（食塩添加による放水・生野菜の吸水） 4. 野菜に関する実験 2（加熱条件による色とテクスチャーの変化）</p> <p>第3回 5. 切る操作に関する実験（切碎方法とテクスチャー、咀嚼・えん下のしやすさへの影響） 6. 官能評価法 1（2点比較法、3点比較法） 7. 項目1~5のまとめ（発表、全体ディスカッション）</p> <p>第4回 8. ゲル化剤に関する実験（寒天・カラギーナン・ゼラチンゲルの性状、3種ゲルに及ぼす砂糖添加の影響） 実験9.~11.の準備・計画</p> <p>第5回 9. 官能評価法 2（ゲル化剤と配合の異なるコーヒーゼリー・ミルクゼリーの順位法による評価） 10. 調理と酵素 1（さつまいもの加熱方法と甘味度）</p> <p>第6回 12. 小麦粉に関する実験 1（薄力粉及び強力粉のグルテン含量、調理操作に伴うドウの性状変化） 13. 小麦粉に関する実験 2（クッキー材料配合による品質の違い）</p> <p>第7回 11. 調理と酵素 2（ゼリーの凝固に及ぼすパイナップル果肉添加の影響） 14. 小麦粉に関する実験 3（スポンジケーキの膨化原理） 項目6~13のまとめ（発表、全体ディスカッション）</p> <p>第8回 15. まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：実験内容に関する「調理学（講義）」教科書の該当部分を読み理解します。 事前学習課題が出されている場合には、授業までに必ず課題に取り組みます。 授業後学習：実験の目的に沿って授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート30%、期末テスト40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	調理学、食品学総論、食品機能学（講義）で使う教科書 調理実習、食品学実実験で使う教科書 授業中に紹介します。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	調理学実験						
担当教員	片平 理子					科目ナンバ-	N01250
学期	後期隔週A	曜日・時限	水曜3~5	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	実験による調理理論の確認						
授業の概要	調理の基本技術、ならびに献立作成の基本知識を理解するために必要な実験を行う。特に短時間に調理の“こつ”をつかむ方法を知ることが目的とする。 材料配合、調理操作、調理器具などの調理条件を変えることによる料理への影響を、食物の化学的・物理的性質の測定、組織の観察、官能評価により総合的に評価する。結果から法則性を見出し、最適な調理法の解明を試みる。 これらを通して、合理的に調理を進めるための根拠となる調理理論の理解を深める。						
到達目標	実験の流れ（目的設定、準備、実施、結果の考察とまとめ）を説明することができる。【知識・理解】 実験の目的に沿って設定された実験条件の設定理由を説明することができる。【知識・理解】 基本的な実験操作を正確に行うことができる。【汎用的技能】 代表的な食品の調理特性と調理操作の科学的裏付けを、実験により確認することができる。【汎用的技能】						
授業計画	<p>第1回 1. 実験概要の説明、計量（調味料） 2. 温度に関する実験（汁物の温度降下、汁物の適温）</p> <p>第2回 3. 野菜に関する実験 1（食塩添加による放水・生野菜の吸水） 4. 野菜に関する実験 2（加熱条件による色とテクスチャーの変化）</p> <p>第3回 5. 切る操作に関する実験（切碎方法とテクスチャー、咀嚼・えん下のしやすさへの影響） 6. 官能評価法 1（2点比較法、3点比較法） 7. 項目1~5のまとめ（発表、全体ディスカッション）</p> <p>第4回 8. ゲル化剤に関する実験（寒天・カラギーナン・ゼラチンゲルの性状、3種ゲルに及ぼす砂糖添加の影響） 実験9.~11.の準備・計画</p> <p>第5回 9. 官能評価法 2（ゲル化剤と配合の異なるコーヒーゼリー・ミルクゼリーの順位法による評価） 10. 調理と酵素 1（さつまいもの加熱方法と甘味度）</p> <p>第6回 12. 小麦粉に関する実験 1（薄力粉及び強力粉のグルテン含量、調理操作に伴うドウの性状変化） 13. 小麦粉に関する実験 2（クッキー材料配合による品質の違い）</p> <p>第7回 11. 調理と酵素 2（ゼリーの凝固に及ぼすパイナップル果肉添加の影響） 14. 小麦粉に関する実験 3（スポンジケーキの膨化原理） 項目6~13のまとめ（発表、全体ディスカッション）</p> <p>第8回 15. まとめと試験</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：実験内容に関する「調理学（講義）」教科書の該当部分を読み理解します。 事前学習課題が出されている場合には、授業までに必ず課題に取り組みます。 授業後学習：実験の目的に沿って授業時間内に得られた実験結果をまとめ、考察と発展学習を加えてレポートをまとめます。						
授業方法	実験						
評価基準と評価方法	平常点30%、レポート30%、期末テスト40%						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	調理学、食品学総論、食品機能学（講義）で使う教科書 調理実習、食品学実実験で使う教科書 授業中に紹介します。						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目								
科目名	調理実習								
担当教員	片平 理子					科目ナンバ-	N01260		
学期	前期/1st semester	曜日・時限	火曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0		
授業のテーマ	調理理論の理解に基づいた食事作りに関する実践力の育成								
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を行う。実習にはHACCP概念を導入し、食品の安全性を考えながら調理できるようにする。計量、洗浄、切断、調味、加熱操作、盛り付けといった基礎的な調理技能の習得に加え、栄養・嗜好面においてバランスのとれた理想的な献立を作成する能力を身につける。調理学で学んだ知識を、この実習で確認しながら調理の基礎を学んでいく。基本知識を幅広く活用する応用力を身につけるようにしたい。実習はグループで行うが、基礎技術は各自が徹底的に習得することを目標とする。								
到達目標	食事作りの流れを説明することができる。 各調理操作の目的を説明することができる。 基本的な調理操作を一人で正確に行うことができる。 日常食として食卓に上がる料理について、材料の種類と分量、調理手順を説明する事ができる。 日常食として食卓に上がる料理をレシピを見ないで手際よく作ることができる。 一汁二菜とデザートから構成される日常食の献立を立てることができる。					【知識・理解】	【知識・理解】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、ご飯の炊き方、混合出汁のとり方（師範）、調味料の計量</li> <li>2. 日本料理：白飯、吸い物（麩）、だし巻き卵、キャベツ織切り</li> <li>3. 日本料理：青まめご飯、潮汁、煮魚、なます</li> <li>4. 日本料理：かやくご飯、味噌汁、肉じゃが、ほうれん草お浸し</li> <li>5. 日本料理：しそご飯、茶碗蒸し、天ぷら、即席漬け</li> <li>6. 中間試験：1~5回のまとめと試験（筆記試験、実技試験）</li> <li>7. 日本料理：玄米飯、のっぺい汁、焼き魚、かぼちゃの含め煮、フルーツ大福</li> <li>8. 日本料理：赤飯、三州みそ汁、筑前煮、酢の物、水ようかん</li> <li>9. 西洋料理：ピラフ、コーンスープ、ハンバーグステーキ、人参グラッセ、サヤいんげんソテー、ブランチ</li> <li>10. 西洋料理：グラタン、ラタトゥイユ、プディング</li> <li>11. 西洋料理：ビーフシチュー、コールスローサラダ、シュークリーム</li> <li>12. 中国料理：什錦炒飯、魚丸子湯、青椒牛肉スウ、棒棒鶏、ナイ豆腐</li> <li>13. 中国料理：什錦炒麺、蛋花湯、涼伴茄子、芝麻元宵</li> <li>14. 中国料理：鍋貼餃子、豆腐丸子湯、乾炸鶏塊、涼伴海ジャ、マンゴープリン</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>							【知識・理解】	【知識・理解】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めノートにまとめます。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながらノートを完成させます。 レポート課題に取り組み、レポートを完成させます。								
授業方法	実習								
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート・ノート30%、テスト30%（中間及び期末）								
履修上の注意	昼休みに食材の計量を行うために、各班の担当者は指定時刻に調理実習室に集合します。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。								
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 新カラーチャート食品成分表（増補） 教育図書（「調理学」でも教科書指定） ISBN 978-4-87730-388-4 C3077（2019年3月10日 第7版） *2020年3月中に第8版が発行される予定								
参考書	「NEW 調理と理論」 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1396-5 映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 松崎政三他編著 学際企画 ISBN 978-4-906514-86-1								

科目区分	食物栄養学科専門教育科目								
科目名	調理実習								
担当教員	片平 理子					科目ナンバ-	N01260		
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜4~5	配当学年	1	単位数	1.0		
授業のテーマ	調理理論の理解に基づいた食事作りに関する実践力の育成								
授業の概要	日常の日本料理を中心とした調理実習を行う。実習にはHACCP概念を導入し、食品の安全性を考えながら調理できるようにする。計量、洗浄、切断、調味、加熱操作、盛り付けといった基礎的な調理技能の習得に加え、栄養・嗜好面においてバランスのとれた理想的な献立を作成する能力を身につける。調理学で学んだ知識を、この実習で確認しながら調理の基礎を学んでいく。基本知識を幅広く活用する応用力を身につけるようにしたい。実習はグループで行うが、基礎技術は各自が徹底的に習得することを目標とする。								
到達目標	食事作りの流れを説明することができる。 各調理操作の目的を説明することができる。 基本的な調理操作を一人で正確に行うことができる。 日常食として食卓に上がる料理について、材料の種類と分量、調理手順を説明する事ができる。 日常食として食卓に上がる料理をレシピを見ないで手際よく作ることができる。 一汁二菜とデザートから構成される日常食の献立を立てることができる。					【知識・理解】	【知識・理解】		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、ご飯の炊き方、混合出汁のとり方（師範）、調味料の計量</li> <li>2. 日本料理：白飯、吸い物（麩）、だし巻き卵、キャベツ織切り</li> <li>3. 日本料理：青まめご飯、潮汁、煮魚、なます</li> <li>4. 日本料理：かやくご飯、味噌汁、肉じゃが、ほうれん草お浸し</li> <li>5. 日本料理：しそご飯、茶碗蒸し、天ぷら、即席漬け</li> <li>6. 中間試験：1~5回のまとめと試験（筆記試験、実技試験）</li> <li>7. 日本料理：玄米飯、のっぺい汁、焼き魚、かぼちゃの含め煮、フルーツ大福</li> <li>8. 日本料理：赤飯、三州みそ汁、筑前煮、酢の物、水ようかん</li> <li>9. 西洋料理：ピラフ、コーンスープ、ハンバーグステーキ、人参グラッセ、サヤいんげんソテー、ブランチ</li> <li>10. 西洋料理：グラタン、ラタトゥイユ、プディング</li> <li>11. 西洋料理：ビーフシチュー、コールスローサラダ、シュークリーム</li> <li>12. 中国料理：什錦炒飯、魚丸子湯、青椒牛肉スウ、棒棒鶏、ナイ豆腐</li> <li>13. 中国料理：什錦炒麺、蛋花湯、涼伴茄子、芝麻元宵</li> <li>14. 中国料理：鍋貼餃子、豆腐丸子湯、乾炸鶏塊、涼伴海ジャ、マンゴープリン</li> <li>15. まとめと試験</li> </ol>							【知識・理解】	【知識・理解】
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：1回目の授業で指示する様式で、授業計画に従って実習内容を予めノートにまとめます。 授業後学習：授業で学んだ内容をもう一度確認しながらノートを完成させます。 レポート課題に取り組み、レポートを完成させます。								
授業方法	実習								
評価基準と評価方法	平常点40%、レポート・ノート30%、テスト30%（中間及び期末）								
履修上の注意	昼休みに食材の計量を行うために、各班の担当者は指定時刻に調理実習室に集合します。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 開始直後に重要な説明をするため、遅刻をしないように注意してください。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。								
教科書	改訂新版「あすの健康と調理 食を通じて豊かなLife Styleを」 三輪里子監修 アイ・ケイコーポレーション ISBN 978-4-87492-315-3 新カラーチャート食品成分表（増補） 教育図書（「調理学」でも教科書指定） ISBN 978-4-87730-388-4 C3077（2019年3月10日 第7版） * 2020年3月中に第8版が発行される予定								
参考書	「NEW 調理と理論」 山崎清子・島田キミエ・洪川祥子・下村道子 共著 同文書院 ISBN 978-4-8103-1396-5 映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス 松崎政三他編著 学際企画 ISBN 978-4-906514-86-1								

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	人と生活						
担当教員	井上 博子					科目ナンバ-	N71070
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜5	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	自身と他者の生活の理解 生活を想像する力の育成						
授業の概要	健康で健全な豊かな生活を創り上げていくためには、生活に関わる事象を多面的に理解し、生活の場で選択・実践していく必要がある。衣・食・住生活、生活と健康の管理、生活の中の人間関係、ライフステージによる生活の変化について理解する。また、暮らしの場である社会の構造、生活を支える保障制度や法律、人間の生活と自然環境の関係についても学ぶ。自分や周りの人にとって、さらには社会にとってQOL(quality of life)の高い生活とは何かを考え、管理栄養士に必要な「人の生活」を総合的に捉える姿勢を養う。						
到達目標	生活を構成する要素について説明できる。(知識・理解) 個人のライフコースにおける諸課題を述べるができる。(知識・理解) 社会の一員として、生活の諸課題に対する自分なりの解決策を考えて適用できる。(知識・理解)						
授業計画	第1回 導入：人の生活を構成する要素 第2回 生活と健康の管理ーライフステージ別ー 第3回 人間の生活と自然環境 第4回 地球温暖化の現状と国際的取り組み 第5回 大気汚染、水環境と生態系 第6回 保健・化学物質 第7回 循環型社会の廃棄物問題（フードロス・海洋プラスチック） 第8回 エシカル消費とSDGsなくらし 第9回 ゲストスピーカーによる講義（テーマ：兵庫県の伝統行事と食） 第10回 社会人になること 第11回 家計からみた現代のくらし 第12回 生活のリスクとマネジメント 第13回 生活を守る法 第14回 労働と法 第15回 生活の安全と安心  ※最新の情報や法改正を取り入れるため、テーマの順番や内容が若干変わることがあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習： 教科書の該当箇所を予習し、事前に指定するキーワードについて下調べをする。また、担当する発表の準備（パワーポイントのスライドや配付資料の作成）をする。（学習時間2時間） 授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理し、配布するミニテストやレポートをまとめる。詳細は授業内で指示（学習時間2時間）						
授業方法	講義を基本とするが、学生による発表やディスカッションを取り入れ、知識の確認や応用に小テストを実施する また、理解を深めるために視聴覚教材の活用や新聞記事・白書などの最新情報を解説する。						
評価基準と評価方法	授業内での発表30%、小テスト20%、各回提出のリアクションペーパー20%（講義内容についてのコメント・質問・事例提案など）の内容・記述の的確さなどを評価する。期末テスト（レポート）30% 学生の発表、リアクションペーパーのコメント・質問などについて、翌週授業で紹介・解説する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。 出席2/3以上の履修者が単位取得可能。 授業外における学習に各自確実に取り組み、授業に出席する。						
教科書	人と生活 「生活する力を育てる」ための研究会編 建帛社 ISBN978-4-7679-1446-6						
参考書	「社会と健康」「健康・環境論」で使用する教科書 高等学校で使用していた家庭科の教科書（及び資料集）						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	病態生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02130
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士の業務に必要な医学知識（臨床検査、がん、免疫）について学ぶ。						
授業の概要	病理学に引き続き、管理栄養士としての業務に必要な、主要疾患の成り立ちについて学ぶ。腫瘍性疾患については、腫瘍の成り立ち（内因および外因）から、全身の腫瘍について特徴、診断、治療を含めて学ぶ。また、免疫系の正常構造を、自然免疫、獲得免疫の違いを中心に学ぶ。さらにはこれらの知識に基づいて、自己免疫疾患やアレルギー疾患について理解を深める。						
到達目標	臨床検査の主要項目について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】 主要臓器の悪性腫瘍（がん）について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】 免疫学の基本事項について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】						
授業計画	1オリエンテーション、免疫学の基礎と病理1 2免疫学1のつづき（自然免疫、獲得免疫） 3免疫学の基礎と病理2（アレルギー） 4免疫学の基礎と病理3（自己免疫疾患） 5悪性腫瘍1 6悪性腫瘍2 7感染症1 8まとめと中間テスト（第6回までの内容） 9感染症（日和見感染、院内感染など） 10ゲストスピーカーによる感染管理の講義 11女性の正常性周期（月経周期）と婦人科疾患 12内分泌疾患（正常から） 13内分泌疾患（疾患の概要と問題演習） 14臨床検査 15まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、授業で扱うテーマの下調べをすること（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイントを、一回ずつノートにまとめること。授業で扱った国試問題の解説を作成する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。ゲストスピーカーを招く回では、手指衛生スキル（手洗い）について体験型の授業を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加態度10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	以下の、「解剖生理学」「臨床医学概論」「病理学」「臨床栄養学Ⅰ」で使用する教科書を用いる。 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） 「はじめの一步の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	病態生理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02130
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	管理栄養士の業務に必要な医学知識（臨床検査、がん、免疫）について学ぶ。						
授業の概要	病理学に引き続き、管理栄養士としての業務に必要な、主要疾患の成り立ちについて学ぶ。腫瘍性疾患については、腫瘍の成り立ち（内因および外因）から、全身の腫瘍について特徴、診断、治療を含めて学ぶ。また、免疫系の正常構造を、自然免疫、獲得免疫の違いを中心に学ぶ。さらにはこれらの知識に基づいて、自己免疫疾患やアレルギー疾患について理解を深める。						
到達目標	臨床検査の主要項目について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】 主要臓器の悪性腫瘍（がん）について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】 免疫学の基本事項について、説明ができる。関連国家試験問題の解説ができる。【知識・理解】						
授業計画	1オリエンテーション、免疫学の基礎と病理1 2免疫学1のつづき（自然免疫、獲得免疫） 3免疫学の基礎と病理2（アレルギー） 4免疫学の基礎と病理3（自己免疫疾患） 5悪性腫瘍1 6悪性腫瘍2 7感染症1 8まとめと中間テスト（第6回までの内容） 9感染症（日和見感染、院内感染など） 10ゲストスピーカーによる感染管理の講義 11女性の正常性周期（月経周期）と婦人科疾患 12内分泌疾患（正常から） 13内分泌疾患（疾患の概要と問題演習） 14臨床検査 15まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、授業で扱うテーマの下調べをすること（学習時間：2時間）。 復習：教科書と、配布資料のポイントを、一回ずつノートにまとめること。授業で扱った国試問題の解説を作成する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、発表やレポート作成を課す場合もある。ゲストスピーカーを招く回では、手指衛生スキル（手洗い）について体験型の授業を行う。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加態度10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で、欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	以下の、「解剖生理学」「臨床医学概論」「病理学」「臨床栄養学Ⅰ」で使用する教科書を用いる。 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） 「はじめの一步の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	病理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	病理学は疾病の本態を理解する学問である。この授業を通して疾患の原因と成り立ちを学ぶ。						
授業の概要	総論では、炎症（急性炎症・慢性炎症）の成り立ち、加齢に伴う個体の変化、疾患に伴う細胞組織の変化、個体の死などについて学ぶ。各論では総論の内容を踏まえて、血液疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、婦人科疾患といった、理解が難しい疾患群について深く理解する。総論の個体の死と関連して、終末期医療の現状や問題点を、医学的側面、さらには栄養学的側面から理解・考察する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】 「炎症」「骨粗鬆症」「月経周期」「炎症性腸疾患」「慢性閉塞性肺疾患」などの重要項目について、文章で説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 オリエンテーション、変性 2 加齢に伴う変化 3 炎症 4 腫瘍 5 呼吸器（正常構造と機能） 6 呼吸器疾患 7 ゲストスピーカーによる終末期医療に関する講義 8 まとめと中間テスト 9 運動器疾患（正常機能から） 10 運動器疾患（骨粗鬆症など） 11 皮膚疾患、神経疾患（神経正常含む） 12 神経疾患 13 血液疾患（正常機能から） 14 血液疾患（貧血その他） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説を作成する。図表を積極的に加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、授業の後半において、タブレット端末やスマートフォンを活用した課題設定を行う（松蔭マナビを利用）。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加姿勢（課題の提出状況を評価に含む）10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「はじめの一歩の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社）						
参考書	「ロビンス基礎病理学 原書8版」（Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Nelson Fausto, Richard N. Mitchell; 丸善出版, 2011年）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	病理学						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N02100
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	病理学は疾病の本態を理解する学問である。この授業を通して疾患の原因と成り立ちを学ぶ。						
授業の概要	総論では、炎症（急性炎症・慢性炎症）の成り立ち、加齢に伴う個体の変化、疾患に伴う細胞組織の変化、個体の死などについて学ぶ。各論では総論の内容を踏まえて、血液疾患、神経疾患、呼吸器疾患、運動器疾患、婦人科疾患といった、理解が難しい疾患群について深く理解する。総論の個体の死と関連して、終末期医療の現状や問題点を、医学的側面、さらには栄養学的側面から理解・考察する。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】 「炎症」「骨粗鬆症」「月経周期」「炎症性腸疾患」「慢性閉塞性肺疾患」などの重要項目について、文章で説明できるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 オリエンテーション、変性 2 加齢に伴う変化 3 炎症 4 腫瘍 5 呼吸器（正常構造と機能） 6 呼吸器疾患 7 ゲストスピーカーによる終末期医療に関する講義 8 まとめと中間テスト 9 運動器疾患（正常機能から） 10 運動器疾患（骨粗鬆症など） 11 皮膚疾患、神経疾患（神経正常含む） 12 神経疾患 13 血液疾患（正常機能から） 14 血液疾患（貧血その他） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、その日のテーマについて教科書などで下調べをする（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説を作成する。図表を積極的に加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義が中心だが、授業の後半において、タブレット端末やスマートフォンを活用した課題設定を行う（松蔭マナビを利用）。						
評価基準と評価方法	試験90%（レポートを課す場合は、この中に含める）。授業への参加姿勢（課題の提出状況を評価に含む）10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「はじめの一步の病理学 第2版」（深山正久編、羊土社、2012） 「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社）						
参考書	「ロビンス基礎病理学 原書8版」（Vinay Kumar, Abul K. Abbas, Nelson Fausto, Richard N. Mitchell; 丸善出版, 2011年）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	保健統計・疫学						
担当教員	田中 あゆ子					科目ナンバ-	N02060
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	保健統計及び疫学研究の理解						
授業の概要	健康被害を予防し、健康の増進を図るには、現状を把握し、解析を行い、問題解決を目的とする実践行動に移す根拠を得る力が必要である。保健統計では、国が行う統計調査の概要や健康に関わる情報を知り、健康指標や健康水準を理解する。 また、人間集団の健康状態を把握するための疫学の方法を学び、健康な地域づくりのための公衆衛生活動を、データに裏付けられた科学的根拠によって導く方法論を身につける。						
到達目標	保健統計（人口統計、傷病統計）及びその調査法を概説できる。【知識・理解】 疫学研究の用語、概念、方法論及び研究倫理を理解する。【知識・理解】 疫学研究に係る主な指標等を算出し正しく解釈できる。【汎用的技能】						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保健統計の概要</li> <li>2. 人口静態統計</li> <li>3. 人口動態統計</li> <li>4. 年齢調整死亡率</li> <li>5. 傷病統計（患者調査、国民生活基礎調査）</li> <li>6. 死因別死亡</li> <li>7. 疫学の概念、疫学の方法</li> <li>8. 疾病頻度 - 指標の解釈</li> <li>9. 疾病頻度 - 指標の算出</li> <li>10. 曝露効果の測定 - 指標の解釈</li> <li>11. 曝露効果の測定 - 指標の算出</li> <li>12. 疫学研究と倫理</li> <li>13. スクリーニング - 指標の算出</li> <li>14. スクリーニング - 指標の解釈</li> <li>15. まとめ 期末試験</li> </ol>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前に教科書の該当範囲を読む。 授業後は配布プリントを必ず復習する。 統計指標・疫学指標を算出できるまで繰り返し練習する。 予習・復習各90分。						
授業方法	講義 授業開始時に前回の講義内容の確認テストを行う。 講義ポイントをまとめた配布資料の空欄（理解・暗記が必要な箇所）を埋め資料を完成させる。 松陰manabaによるドリル、小テストを行う。						
評価基準と評価方法	小テスト50%、期末試験50%						
履修上の注意	出席回数が開講日数の2/3に満たない者は原則単位認定を行わない。 20分以上の遅刻は欠席、遅刻・早退3回で欠席1回とする。 交通機関の延着証明は学籍番号・氏名を記入して提出すること。 私語、携帯電話・スマートフォンの使用厳禁。 指定教科書を準備する。						
教科書	1年次の「社会と健康」、「健康・環境論」で使用した教科書、管理栄養士国家試験合格のためのワークノート150日						
参考書	国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 図説 国民衛生の動向 2019/2020 厚生労働統計協会 ISBN:978-4-87511-804-6 公衆衛生が見える 2018-2019 メディックメディア ISBN: 978-4-89632-687-1 はじめて学ぶやさしい疫学 改訂第2版 日本疫学会 南江堂 ISBN : 978-4-524-26086-7 疫学マニュアル改訂第7版 南山堂 ISBN:SBN978-4-525-18357-8						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床医学概論						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N01090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	解剖生理学で学ぶ人体の正常構造と機能に対応する形で、疾患の基本を学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士が医療チームに加わって傷病者に適切な栄養管理を行うには傷病者の病態や栄養状態の把握が必要である。解剖生理学で学ぶ「人体の構造と機能」と連携して、おもに疾患の原因と病態、診断と臨床検査、最新の診断・治療についての知識を習得する。国家試験問題を通して、管理栄養士に必要な臨床医学の知識体系を理解し、身につける。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 オリエンテーション、疾患診断の概要 2 疾患診断の概要1（症候） 3 疾患診断の概要2（検査） 4 疾患診断の概要3（治療法の分類など） 5 疾患診断の概要3（特殊療法、終末期医療など） 6 消化器疾患1（消化管） 7 消化器疾患2（肝胆臓） 8 まとめと中間テスト 9 循環器疾患1（動脈硬化） 10 循環器疾患2（心臓疾患など） 11 腎臓疾患1（糸球体腎炎） 12 腎臓疾患2（腎不全） 13 代謝疾患1（糖尿病） 14 代謝疾患2（その他の代謝疾患） 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習：授業計画に従って、該当するテーマの下調べを教科書などを用いて行うこと（学習時間：2時間）。 復習：授業で取り扱った国家試験問題の解説をノートに作成する。適宜、図なども加えること（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式で行う。動画コンテンツを積極的に利用し、医学知識の理解を深める。						
評価基準と評価方法	試験90% 授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。（交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない） 遅刻3回で欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」（原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社） 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」（竹中 優、医歯薬出版株式会社） * 「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 （坂井 建雄（編集）、河原 克雅（編集）、日本医事新報社；改訂第2版） 管理栄養士国家試験出題基準（ガイドライン） <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> （各科目の出題のねらい、大・中・小項目（p.7-33））						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床医学概論						
担当教員	佐藤 友亮					科目ナンバ-	N01090
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	解剖生理学で学ぶ人体の正常構造と機能に対応する形で、疾患の基本を学ぶ。						
授業の概要	管理栄養士が医療チームに加わって傷病者に適切な栄養管理を行うには傷病者の病態や栄養状態の把握が必要である。解剖生理学で学ぶ「人体の構造と機能」と連携して、おもに疾患の原因と病態、診断と臨床検査、最新の診断・治療についての知識を習得する。国家試験問題を通して、管理栄養士に必要な臨床医学の知識体系を理解し、身につける。						
到達目標	授業のテーマに関する管理栄養士国家試験の問題を解けるようになる。【知識・理解】 さらに、上記の問題について、解説の作成と説明ができるようになる。【知識・理解】						
授業計画	1 オリエンテーション、疾患診断の概要 2 疾患診断の概要1 (症候) 3 疾患診断の概要2 (検査) 4 疾患診断の概要3 (治療法の分類など) 5 疾患診断の概要3 (特殊療法、終末期医療など) 6 消化器疾患1 (消化管) 7 消化器疾患2 (肝胆臓) 8 まとめと中間テスト 9 循環器疾患1 (動脈硬化) 10 循環器疾患2 (心臓疾患など) 11 腎臓疾患1 (糸球体腎炎) 12 腎臓疾患2 (腎不全) 13 代謝疾患1 (糖尿病) 14 代謝疾患2 (その他の代謝疾患) 15 まとめと期末テスト						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	予習: 授業計画に従って、該当するテーマの下調べを教科書などを用いて行うこと (学習時間: 2時間)。 復習: 授業で取り扱った国家試験問題の解説をノートに作成する。適宜、図なども加えること (学習時間: 2時間)。						
授業方法	講義形式で行う。動画コンテンツを積極的に利用し、医学知識の理解を深める。						
評価基準と評価方法	試験90% 授業への参加姿勢10%。中間テストと期末テストを同じ比率で評価する。						
履修上の注意	20分以上の遅刻は欠席扱いとする。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 遅刻3回で欠席1回とみなす。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます。 ・授業中の無断退出は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						
教科書	「人体の構造と生理機能」(原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社) 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」(竹中 優、医歯薬出版株式会社) * 「人体の構造と生理機能」は、前期・基礎生物で使用した教科書と同一。						
参考書	「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 (坂井 建雄 (編集)、河原 克雅 (編集)、日本医事新報社; 改訂第2版) 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> (各科目の出題のねらい、大・中・小項目 (p. 7-33 ))						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学Ⅰ						
担当教員	佐藤 友亮・溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N02410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。 1. 臨床栄養学に必要な医学的概念を学習する。 2. 臨床栄養学の目的や意義、栄養アセスメントについて学ぶ。						
授業の概要	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。管理栄養士として傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や、栄養状態の特徴を理解するために臨床検査値の評価・判定の方法を学ぶ。また医療制度や介護制度を理解し、チーム医療に従事する者として働く時の心構えや役割を理解する。1-1. 病態の正確な理解に基づく栄養状態の評価、栄養管理の基礎を学ぶ。1-2. 協同学習を通して、医療現場で重要となる臨床的コミュニケーション能力の基礎を育成する。2. 傷病者の病態を理解し、栄養評価と栄養療法について学ぶ。						
到達目標	(1) レポート作成を通して、学習テーマの疾患について説明できるようになる。(知識・理解) (2) レポートについて、授業内容に基づいて、考察を含め記述することができる。(汎用的技能) (3) グループのメンバーと協力して実施することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回オリエンテーション(佐藤・溝畑) 第2回協同学習について(導入)、循環器・代謝について(佐藤) 第3回心臓疾患 協同学習(佐藤) 第4回心臓疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第5回内分泌・運動器疾患 協同学習(佐藤) 第6回内分泌・運動器疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第7回腎臓疾患 協同学習(佐藤) 第8回腎臓疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第9回臨床栄養学の目的(溝畑) 第10回阪神・淡路大震災(避難所の栄養含む)から学ぶ(溝畑) 第11回エネルギー摂取量について(溝畑) 第12回チーム医療(スポーツ栄養含む)について(溝畑) 第13回胃腸疾患の栄養管理(溝畑) 第14回がん化学療法における栄養管理(溝畑) 第15回栄養アセスメントと臨床検査(溝畑)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 授業前準備学習: 協同学習のテーマとなる疾患について、教科書などで下調べをする(学習時間: 2時間)。 授業後学習: 協同学習を行ったテーマについて、レポートの作成(学習時間: 2時間)。						
授業方法	【佐藤友亮】 協同学習(ジグソー法)を用いたグループワーク、講義 【溝畑秀隆】 講義、グループ学習						
評価基準と評価方法	二人の授業担当者による成績評価を、それぞれ50%ずつで計算し、最終評価とする。 【佐藤友亮・評価基準】 レポート80% 授業への参加姿勢20% 【溝畑秀隆・評価基準】 レポート80% : 講義をもとにしたレポートが作成できている。レポート評価後は、添削し各自に返却をする。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業への参加姿勢20%						
履修上の注意	【欠席回数について、十分に注意すること】二人の教員によるオムニバス講義であり、第2回から8回までを佐藤、第9回から15回を溝畑が担当する。第2回から第8回まで、および第9回から第15回までの、それぞれ7回のうちで、欠席が3回以上になった場合、原則単位取得を認めないので注意すること。  【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 グループ学習を用いた授業を行うので、協調性を持って、積極的に参加すること。グループ学習の進行に支障を来すので、遅刻しないこと。教科書を忘れずに持参すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 授業内容についての質問を歓迎します。 (佐藤) ysatoh[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 (溝畑) mizohata[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます(調べ物などで、携帯電話の使用を認める場合があります)。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						



教科書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「エッセンシャル臨床栄養学」第8版医歯薬出版株式会社 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社 「解剖生理学」などで使用した下記の教科書も用いる。 「人体の構造と生理機能」(原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社) 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」(竹中 優、医歯薬出版株式会社)
参考書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 (坂井 建雄 (編集)、河原 克雅 (編集)、日本医事新報社; 改訂第2版) 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> (各科目の出題のねらい、大・中・小項目 (p.7-33 ))

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学Ⅰ						
担当教員	佐藤 友亮・溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N02410
学期	前期/1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。 1. 臨床栄養学に必要な医学的概念を学習する。 2. 臨床栄養学の目的や意義、栄養アセスメントについて学ぶ。						
授業の概要	臨床栄養の目的と具体的な方法の基礎を総合的に修得する。管理栄養士として傷病者の身体状況（口腔状態を含む）や、栄養状態の特徴を理解するために臨床検査値の評価・判定の方法を学ぶ。また医療制度や介護制度を理解し、チーム医療に従事する者として働く時の心構えや役割を理解する。1-1. 病態の正確な理解に基づく栄養状態の評価、栄養管理の基礎を学ぶ。1-2. 協同学習を通して、医療現場で重要となる臨床的コミュニケーション能力の基礎を育成する。2. 傷病者の病態を理解し、栄養評価と栄養療法について学ぶ。						
到達目標	(1) レポート作成を通して、学習テーマの疾患について説明できるようになる。(知識・理解) (2) レポートについて、授業内容に基づいて、考察を含め記述することができる。(汎用的技能) (3) グループのメンバーと協力して実施することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回オリエンテーション(佐藤・溝畑) 第2回協同学習について(導入)、循環器・代謝について(佐藤) 第3回心臓疾患 協同学習(佐藤) 第4回心臓疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第5回内分泌・運動器疾患 協同学習(佐藤) 第6回内分泌・運動器疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第7回腎臓疾患 協同学習(佐藤) 第8回腎臓疾患についてのフォローアップ講義(佐藤) 第9回臨床栄養学の目的(溝畑) 第10回阪神・淡路大震災(避難所の栄養含む)から学ぶ(溝畑) 第11回エネルギー摂取量について(溝畑) 第12回チーム医療(スポーツ栄養含む)について(溝畑) 第13回胃腸疾患の栄養管理(溝畑) 第14回がん化学療法における栄養管理(溝畑) 第15回栄養アセスメントと臨床検査(溝畑)						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 授業前準備学習: 協同学習のテーマとなる疾患について、教科書などで下調べをする(学習時間: 2時間)。 授業後学習: 協同学習を行ったテーマについて、レポートの作成(学習時間: 2時間)。						
授業方法	【佐藤友亮】 協同学習(ジグソー法)を用いたグループワーク、講義 【溝畑秀隆】 講義、グループ学習						
評価基準と評価方法	二人の授業担当者による成績評価を、それぞれ50%ずつで計算し、最終評価とする。 【佐藤友亮・評価基準】 レポート80% 授業への参加姿勢20% 【溝畑秀隆・評価基準】 レポート80% : 講義をもとにしたレポートが作成できている。レポート評価後は、添削し各自に返却をする。到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。 授業への参加姿勢20%						
履修上の注意	【欠席回数について、十分に注意すること】二人の教員によるオムニバス講義であり、第2回から8回までを佐藤、第9回から15回を溝畑が担当する。第2回から第8回まで、および第9回から第15回までの、それぞれ7回のうちで、欠席が3回以上になった場合、原則単位取得を認めないので注意すること。  【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 グループ学習を用いた授業を行うので、協調性を持って、積極的に参加すること。グループ学習の進行に支障を来すので、遅刻しないこと。教科書を忘れずに持参すること。 20分以上の遅刻は欠席扱いとする。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない) 授業内容についての質問を歓迎します。 (佐藤) ysatoh[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 (溝畑) mizohata[at]shoin.ac.jp [at]を@に変えて下さい。 ・授業中は、携帯電話の電源を切るかマナーモードにすること。授業中に携帯電話使用を指摘された場合は、平常点から減点されます(調べ物などで、携帯電話の使用を認める場合があります)。 ・授業中の無断退席は認めません。退出の必要がある場合は、教員に申し出ること。						

教科書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「エッセンシャル臨床栄養学」第8版医歯薬出版株式会社 「看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック 第5版」医歯薬出版株式会社 「解剖生理学」などで使用した下記の教科書も用いる。 「人体の構造と生理機能」(原田玲子、原田彰宏、小林直人、医歯薬出版株式会社) 「疾病の成因・病態・診断・治療 第2版」(竹中 優、医歯薬出版株式会社)
参考書	【佐藤友亮】【溝畑秀隆】 「カラー図解 人体の正常構造と機能 全10巻縮刷版」 (坂井 建雄 (編集)、河原 克雅 (編集)、日本医事新報社; 改訂第2版) 管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン) <a href="http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html">http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000000zm40.html</a> (各科目の出題のねらい、大・中・小項目 (p.7-33))

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学II						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N02420
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況(口腔状態を含む)や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を修得する。具体的な栄養スクリーニング、身体計測、食事調査の方法、栄養必要量の算定法などを学び、総合的な栄養の評価・判定(栄養アセスメント)に必要な知識を得る。次いでそれらを用いて個々に応じた栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価する方法も学ぶ。						
到達目標	(1)各疾患別の病態について、適切な栄養管理(栄養マネジメント)が説明できる。【知識・理解】 (2)栄養指導をするにあたり、疾患別の臨床検査値を記述することが出来る。【汎用的技能】 (3)個々に応じた栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価を実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 臨床栄養学の目的 第2回 栄養障害 第3回 胃・腸疾患 第4回 消化器疾患 第5回 炎症性腸疾患 第6回 肥満と代謝疾患 第7回 各疾患におけるまとめ 第8回 糖尿病 第9回 肝臓疾患 第10回 脂肪肝 第11回 胆石・胆嚢炎 第12回 膵臓疾患他 第13回 脂質異常症 第14回 高尿酸血症 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末テスト60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度を確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学 吉田勉監修、飯嶋正広・今本美幸編 (学文社)						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』(医歯薬出版)						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学II						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N02420
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の身体状況(口腔状態を含む)や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理(栄養マネジメント)を行うために栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を修得する。具体的な栄養スクリーニング、身体計測、食事調査の方法、栄養必要量の算定法などを学び、総合的な栄養の評価・判定(栄養アセスメント)に必要な知識を得る。次いでそれらを用いて個々に応じた栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価する方法も学ぶ。						
到達目標	(1)各疾患別の病態について、適切な栄養管理(栄養マネジメント)が説明できる。【知識・理解】 (2)栄養指導をするにあたり、疾患別の臨床検査値を記述することが出来る。【汎用的技能】 (3)個々に応じた栄養ケア計画を作成し、それを評価、再評価を実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 臨床栄養学の目的 第2回 栄養障害 第3回 胃・腸疾患 第4回 消化器疾患 第5回 炎症性腸疾患 第6回 肥満と代謝疾患 第7回 各疾患におけるまとめ 第8回 糖尿病 第9回 肝臓疾患 第10回 脂肪肝 第11回 胆石・胆嚢炎 第12回 膵臓疾患他 第13回 脂質異常症 第14回 高尿酸血症 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末テスト60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度を確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学 吉田勉監修、飯嶋正広・今本美幸編(学文社)						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』(医歯薬出版)						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学III						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03430
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	傷病者の栄養アセスメントについて理解する						
授業の概要	傷病者の病態や栄養状態、身体状況(口腔状態を含む)の特徴に基づいて、適切な栄養管理を(栄養マネジメント)を行うために、具体的な栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)、ベットサイドでの栄養補給の方法について、食事療法及び栄養補給方法、栄養教育、栄養剤の種類と成分、投与ルート(経腸栄養補給・経静脈栄養補給など)、栄養ケアの記録方法などを修得する。さらに栄養補給に際して用いた食品と医薬品の相互作用についての基礎知識を修得する。						
到達目標	(1)適切な栄養管理を(栄養マネジメント)を説明できる。【知識・理解】 (2)食事療法及び栄養補給方法、栄養教育が実施できる。【汎用的技能の観点】 (3)栄養ケアの記録方法などを実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 臨床栄養の意義 第2回 傷病者の栄養アセスメント 第3回 傷病者・要介護者への栄養教育など 第4回 医療・介護保険制度 第5回 栄養ケア計画と実施 第6回 チーム医療(クリニカルパス) 第7回 チーム医療(糖尿病など症例) 第8回 栄養状態の評価法 第9回 血液・生化学検査(臨床検査値) 第10回 まとめ 第11回 経口栄養補給法 第12回 静脈栄養補給法 第13回 薬と栄養・食事の相互作用 第14回 栄養ケアの記録 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容を簡単に整理し、要点を確認・整理する。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末試験60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に到達度を確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	・食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学(学文社)を使用する。(新規購入は不要)						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学III						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03430
学期	前期/1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	傷病者の栄養アセスメントについて理解する						
授業の概要	傷病者の病態や栄養状態、身体状況(口腔状態を含む)の特徴に基づいて、適切な栄養管理を(栄養マネジメント)を行うために、具体的な栄養状態の評価・判定(栄養アセスメント)、ベットサイドでの栄養補給の方法について、食事療法及び栄養補給方法、栄養教育、栄養剤の種類と成分、投与ルート(経腸栄養補給・経静脈栄養補給など)、栄養ケアの記録方法などを修得する。さらに栄養補給に際して用いた食品と医薬品の相互作用についての基礎知識を修得する。						
到達目標	(1)適切な栄養管理を(栄養マネジメント)を説明できる。【知識・理解】 (2)食事療法及び栄養補給方法、栄養教育が実施できる。【汎用的技能の観点】 (3)栄養ケアの記録方法などを実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 臨床栄養の意義 第2回 傷病者の栄養アセスメント 第3回 傷病者・要介護者への栄養教育など 第4回 医療・介護保険制度 第5回 栄養ケア計画と実施 第6回 チーム医療(クリニカルパス) 第7回 チーム医療(糖尿病など症例) 第8回 栄養状態の評価法 第9回 血液・生化学検査(臨床検査値) 第10回 まとめ 第11回 経口栄養補給法 第12回 静脈栄養補給法 第13回 薬と栄養・食事の相互作用 第14回 栄養ケアの記録 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習:授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。(学習時間:2時間) 授業後学習:授業内容を簡単に整理し、要点を確認・整理する。(学習時間:2時間)						
授業方法	講義:各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末試験60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に到達度を確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない)教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	・食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学(学文社)を使用する。(新規購入は不要)						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学Ⅳ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03440
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の疾患・病態別、ライフステージ別に生理的特徴や栄養状態、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた適切な食事療法・栄養補給などの栄養ケア計画・実施・評価・フィードバックの方法を修得する。疾患としては代謝疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患、貧血などの血液系を、ライフステージとしては乳幼児・小児・妊産婦・授乳婦・更年期・高齢期を対象など、個々に応じた栄養ケアプランについて具体的に修得する。						
到達目標	(1)各疾患、病態に対して適切な栄養管理(栄養マネジメント)を理解することができる。【知識・理解】 (2)医療機関などにおいて、疾患の治療や予防に必要な栄養管理を理解することができる【知識・理解】 (3)個々に応じた栄養ケアプランについて具体的に実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 糖尿病・肥満 第2回 脂質異常症 第3回 高尿酸血症 第4回 循環器疾患（高血圧） 第5回 循環器疾患（動脈硬化） 第6回 各疾患まとめ 第7回 腎・尿路疾患 第8回 内分泌疾患（甲状腺機能亢進症） 第9回 摂食障害 第10回 呼吸器疾患・血液疾患（貧血） 第11回 骨粗鬆症疾患（ゲストスピーカー） 第12回 アレルギー疾患 第13回 手術・周術期患者の管理（術前・術後） 第14回 摂食機能障害 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末試験60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）（新規購入は不要）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学Ⅳ						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03440
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	各疾患別における病態の理解と栄養療法						
授業の概要	傷病者の疾患・病態別、ライフステージ別に生理的特徴や栄養状態、身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた適切な食事療法・栄養補給などの栄養ケア計画・実施・評価・フィードバックの方法を修得する。疾患としては代謝疾患、循環器疾患、腎・尿路疾患、貧血などの血液系を、ライフステージとしては乳幼児・小児・妊産婦・授乳婦・更年期・高齢期を対象など、個々に応じた栄養ケアプランについて具体的に修得する。						
到達目標	(1)各疾患、病態に対して適切な栄養管理(栄養マネジメント)を理解することができる。【知識・理解】 (2)医療機関などにおいて、疾患の治療や予防に必要な栄養管理を理解することができる【知識・理解】 (3)個々に応じた栄養ケアプランについて具体的に実施できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 糖尿病・肥満 第2回 脂質異常症 第3回 高尿酸血症 第4回 循環器疾患（高血圧） 第5回 循環器疾患（動脈硬化） 第6回 各疾患まとめ 第7回 腎・尿路疾患 第8回 内分泌疾患（甲状腺機能亢進症） 第9回 摂食障害 第10回 呼吸器疾患・血液疾患（貧血） 第11回 骨粗鬆症疾患（ゲストスピーカー） 第12回 アレルギー疾患 第13回 手術・周術期患者の管理（術前・術後） 第14回 摂食機能障害 第15回 臨床栄養学のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。（学習時間：2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間：2時間）						
授業方法	講義：各会のテーマ導入に基づき、グループ等によるディスカッションを行う。その結果発表をふまえて、各回設定のテーマについて解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、小テスト40%、期末試験60%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に講義形式で行うが、関連領域の教科書も見るようにしてください。						
教科書	食物と栄養学基礎シリーズ10 臨床栄養学（学文社）（新規購入は不要）						
参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学実習I						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03450
学期	前期/1st semester	曜日・時限	水曜3~4	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理解						
授業の概要	この授業では、栄養スクリーニング、臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査の方法、栄養所要量算定など、ケアプランに必要な知識・技術を実習を通じて修得し、それらを使い栄養ケアの作成、実施、疾病者の栄養教育実習などを行う。さらに傷病者の状況に対応した食事の形態の適用やカウンセリングの方法など具体的手法についても学ぶ。ベッドサイドの栄養指導については、チーム医療に基づいて実習し、病院での臨床実習において実際に学ぶための基礎学力をつける。						
到達目標	(1) 糖尿病交換表、腎臓病交換表を用いて、栄養指導ができる。【汎用的技能】 (2) 臨床検査値に基づいて、栄養マネジメントができる。【汎用的技能】 (3) チーム医療に基づいて実習し、病院実習でのコミュニケーションができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養アセスメント（身体測定） 第2回 ベッドサイド栄養指導法 第3回 糖尿病交換表の説明 第4回 糖尿病交換表を用いた栄養アセスメント 第5回 糖尿病交換表を用いた栄養指導 第6回 糖尿病交換表を用いた献立作成 第7回 カーボカウントの説明 第8回 腎臓病交換表説明 第9回 腎臓病交換表を用いた栄養アセスメント 第10回 疾患別の栄養指導（検査値） 第11回 疾患別の栄養指導（検査値） 第12回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第13回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第14回 疾患別の栄養指導のまとめ 第15回 栄養マネジメントのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習、グループ発表、模擬栄養指導を行う。						
評価基準と評価方法	課題・レポート50%、平常点50%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に進めるが、実践に即した実習を行う。						
教科書	・糖尿病食事療法指導のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編（日本糖尿病協会・文光堂） ・腎臓病食品交換表 第9版 黒川清監修・中尾俊之他編（医歯薬出版）						
参考書	・看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版 医歯薬出版（株）新規購入不要						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学実習I						
担当教員	林 直哉					科目ナンバ-	N03450
学期	前期/1st semester	曜日・時限	金曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	栄養マネジメントの理解						
授業の概要	この授業では、栄養スクリーニング、臨床診査、臨床検査、身体計測、食事調査の方法、栄養所要量算定など、ケアプランに必要な知識・技術を実習を通じて修得し、それらを使い栄養ケアの作成、実施、疾病者の栄養教育実習などを行う。さらに傷病者の状況に対応した食事の形態の適用やカウンセリングの方法など具体的手法についても学ぶ。ベッドサイドの栄養指導については、チーム医療に基づいて実習し、病院での臨床実習において実際に学ぶための基礎学力をつける。						
到達目標	(1) 糖尿病交換表、腎臓病交換表を用いて、栄養指導ができる。【汎用的技能】 (2) 臨床検査値に基づいて、栄養マネジメントができる。【汎用的技能】 (3) チーム医療に基づいて実習し、病院実習でのコミュニケーションができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 栄養アセスメント（身体測定） 第2回 ベッドサイド栄養指導法 第3回 糖尿病交換表の説明 第4回 糖尿病交換表を用いた栄養アセスメント 第5回 糖尿病交換表を用いた栄養指導 第6回 糖尿病交換表を用いた献立作成 第7回 カーボカウントの説明 第8回 腎臓病交換表説明 第9回 腎臓病交換表を用いた栄養アセスメント 第10回 疾患別の栄養指導（検査値） 第11回 疾患別の栄養指導（検査値） 第12回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第13回 疾患別の栄養指導（グループ発表） 第14回 疾患別の栄養指導のまとめ 第15回 栄養マネジメントのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：授業計画に沿って授業までに教科書の該当する箇所を予習し、下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：授業内容の要点と重要箇所を確認・整理する。（学習時間2時間）						
授業方法	演習、グループ発表、模擬栄養指導を行う。						
評価基準と評価方法	課題・レポート50%、平常点50%で総合評価する。 到達目標(1)(2)(3)に関する到達度の確認。						
履修上の注意	出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。（交通機関延着による遅刻は延着証明書がある場合には遅刻としない）教科書を中心に進めるが、実践に即した実習を行う。						
教科書	・糖尿病食事療法指導のための食品交換表 第7版 日本糖尿病学会編（日本糖尿病協会・文光堂） ・腎臓病食品交換表 第9版 黒川清監修・中尾俊之他編（医歯薬出版）						
参考書	・看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版 医歯薬出版（株）新規購入不要						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学実習II						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N03460
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	火曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	疾患別における栄養アセスメントを理解する。						
授業の概要	治療食を作成するために必要な知識と技術を実習することにより修得する。傷病者の治療において治療食が重要な位置を占める疾患(肥満症、糖尿病、脂質異常症、胃腸疾患、肝疾患、すい臓疾患、腎疾患、アレルギー疾患)などを取り上げ治療食の実習をする。また治療食を傷病者の身体的状況(身体障害者含む)に応じて食事の形態をかえるといった具体的な栄養管理方法などについて学ぶ。この実習では自分で実際に作成、試食することにより、より深く理解が出来るようにする。						
到達目標	(1) 治療食について、予備知識がない人がわかるように栄養管理の目的を説明することができる。(知識・理解) (2) 治療食について、実習に沿ってレポートを明快な文書で記述することができる。(汎用的技能) (3) 治療食の栄養管理について、具体的なものとして理解することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 摂食・嚥下障害の栄養療法、栄養指導法 第2回 実習(トロミ食・嚥下困難食) 第3回 胃腸疾患の栄養療法、栄養指導法 第4回 実習(流動食・軟菜食) 第5回 高血圧症の栄養療法、栄養指導法 第6回 実習(塩分制限食) 第7回 糖尿病の栄養療法、栄養指導法 第8回 実習(エネルギーコントロール食) 第9回 その他の栄養療法、栄養指導法 第10回 実習(貧血食など) 第11回 腎臓病の栄養療法、栄養指導法 第12回 実習(たんぱく質制限食) 第13回 肝疾患、胆・膵疾患の栄養療法、栄養指導法 第14回 実習(脂質コントロール食) 第15回 治療食のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、下調べをすること。(学習時間:2時間)。 授業後学習: 授業、実習で指示したことについて、考察も含めレポートを作成すること。(学習時間:2時間)。						
授業方法	講義: 各回の内容に沿った授業を行う。またテーマに沿ったディスカッションを行う。 実習: グループごとに所定の実習を行い、実習後グループ内でディスカッションを行う。実習内容・結果について、各自でレポートを作成をする。						
評価基準と評価方法	授業態度(実習への取り組み):70%、レポート30% 授業態度:実習への取り組み、グループディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。到達目標:(1)(3)に関する到達度の確認。 レポート:講義、実習結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。到達目標:(2)に関する到達度の確認。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実習のため、毎回出席することが原則である。実習内容を理解した上で取り組むこと。レポートは、提出期限までに提出をすること。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない)						
教科書	プリントを配布する。 『実践 臨床栄養学実習Ⅰ-栄養食事療法と献立の展開Ⅰ』(第一出版) 編著者長浜幸子, 西村一弘, 宮本佳世子, ISBN 978-4-8041-1337-1						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨床栄養学実習II						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N03460
学期	後期/2nd semester	曜日・時限	木曜1~2	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	疾患別における栄養アセスメントを理解する。						
授業の概要	治療食を作成するために必要な知識と技術を実習することにより修得する。傷病者の治療において治療食が重要な位置を占める疾患(肥満症、糖尿病、脂質異常症、胃腸疾患、肝疾患、すい臓疾患、腎疾患、アレルギー疾患)などを取り上げ治療食の実習をする。また治療食を傷病者の身体的状況(身体障害者含む)に応じて食事の形態をかえるといった具体的な栄養管理方法などについて学ぶ。この実習では自分で実際に作成、試食することにより、より深く理解が出来るようにする。						
到達目標	(1) 治療食について、予備知識がない人がわかるように栄養管理の目的を説明することができる。(知識・理解) (2) 治療食について、実習に沿ってレポートを明快な文書で記述することができる。(汎用的技能) (3) 治療食の栄養管理について、具体的なものとして理解することができる。(態度・志向性)						
授業計画	第1回 摂食・嚥下障害の栄養療法、栄養指導法 第2回 実習(トロミ食・嚥下困難食) 第3回 胃腸疾患の栄養療法、栄養指導法 第4回 実習(流動食・軟菜食) 第5回 高血圧症の栄養療法、栄養指導法 第6回 実習(塩分制限食) 第7回 糖尿病の栄養療法、栄養指導法 第8回 実習(エネルギーコントロール食) 第9回 その他の栄養療法、栄養指導法 第10回 実習(貧血食など) 第11回 腎臓病の栄養療法、栄養指導法 第12回 実習(たんぱく質制限食) 第13回 肝疾患、胆・膵疾患の栄養療法、栄養指導法 第14回 実習(脂質コントロール食) 第15回 治療食のまとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習: 各回授業で扱う教科書の当該箇所を予習し、下調べをすること。(学習時間:2時間)。 授業後学習: 授業、実習で指示したことについて、考察も含めレポートを作成すること。(学習時間:2時間)。						
授業方法	講義: 各回の内容に沿った授業を行う。またテーマに沿ったディスカッションを行う。 実習: グループごとに所定の実習を行い、実習後グループ内でディスカッションを行う。実習内容・結果について、各自でレポートを作成をする。						
評価基準と評価方法	授業態度(実習への取り組み):70%、レポート30% 授業態度:実習への取り組み、グループディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。到達目標:(1)(3)に関する到達度の確認。 レポート:講義、実習結果をもとにしたレポートが作成できているか評価する。到達目標:(2)に関する到達度の確認。なお、レポートの評価後は、添削したレポートを返却して各自にフィードバックする。						
履修上の注意	実習のため、毎回出席することが原則である。実習内容を理解した上で取り組むこと。レポートは、提出期限までに提出をすること。 出席回数が開講日数の3分の2に満たない場合は、原則単位認定を行わない。20分以上遅刻の場合は欠席とする。(交通機関延着による遅刻は、延着証明書がある場合は遅刻としない)						
教科書	プリントを配布する。 『実践 臨床栄養学実習Ⅰ-栄養食事療法と献立の展開Ⅰ』(第一出版) 編著者長浜幸子, 西村一弘, 宮本佳世子, ISBN 978-4-8041-1337-1						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨地・校外実習課外科目						
担当教員	橘・溝畑・千歳・作田					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	0.0
授業のテーマ	臨地・校外実習の事前・事後指導						
授業の概要	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習の実践的経験を通して定着化し、レベルアップが図れるよう一人ひとり学生に支援することを目的とする。本実習受け入れ施設の社会における機能（使命）、特徴を学び臨地・校外実習課題を考え実習計画を個々に作成し検討する。						
到達目標	臨地・校外実習の目的が理解できる。（知識・理解） 授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習で応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	○公衆栄養学コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は18回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。  ○給食経営管理論コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（給食経営管理論）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は16回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・時間外指導やグループ作業が必要になることがあります。 ・臨地・校外実習の実習課題（臨床栄養学分野も含む）のまとめは「総合演習」で行います。						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	・「臨地・校外実習課外科目」の理由のない欠席やレポート未提出の場合には、「校外実習」および「臨地実習」の履修資格要件を満たさないものとする。 なお、それぞれの実習の履修要件となる授業は別に指定し、プリントで配布します。 ・「臨地・校外実習課外科目」は単位化されないため、課外科目中に提出したレポート等の評価は「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」および「臨地実習（給食経営管理論）」として評価を行う。						
履修上の注意	・臨地・校外実習課外科目は、卒業単位には算入されないが、臨地・校外実習の履修資格要件となる。 ・3年次に校外実習を履修せずに臨地実習を履修する人は、ガイダンスおよび別に指定する授業を受けることが望ましい。 ・コースは3年前期に選択します。3年後期の指定した授業から「公衆栄養学」選択クラスと「給食経営管理論」選択クラスに分かれて授業を行います。 ・PCを使用することがあります。						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨地・校外実習課外科目						
担当教員	橘・溝畑・千歳・作田					科目ナンバ-	
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	0.0
授業のテーマ	臨地・校外実習の事前・事後指導						
授業の概要	授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習の実践的経験を通して定着化し、レベルアップが図れるよう一人ひとり学生に支援することを目的とする。本実習受け入れ施設の社会における機能（使命）、特徴を学び臨地・校外実習課題を考え実習計画を個々に作成し検討する。						
到達目標	臨地・校外実習の目的が理解できる。（知識・理解） 授業で修得した知識や技術を臨地・校外実習で応用できる。【態度・志向性】						
授業計画	<p>○公衆栄養学コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は18回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。</p> <p>○給食経営管理論コース 「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（給食経営管理論）」を履修するコースです。 「臨地・校外実習課外科目」は16回行います。授業は3年次および実習直前（3、4年生次）に実施します。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外指導やグループ作業が必要になることがあります。</li> <li>・臨地・校外実習の実習課題（臨床栄養学分野も含む）のまとめは「総合演習」で行います。</li> </ul>						
授業方法	集中講義						
評価基準と評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「臨地・校外実習課外科目」の理由のない欠席やレポート未提出の場合には、「校外実習」および「臨地実習」の履修資格要件を満たさないものとする。 なお、それぞれの実習の履修要件となる授業は別に指定し、プリントで配布します。</li> <li>・「臨地・校外実習課外科目」は単位化されないため、課外科目中に提出したレポート等の評価は「校外実習」、「臨地実習（臨床栄養学）」、「臨地実習（公衆栄養学）」および「臨地実習（給食経営管理論）」として評価を行う。</li> </ul>						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨地・校外実習課外科目は、卒業単位には算入されないが、臨地・校外実習の履修資格要件となる。</li> <li>・3年次に校外実習を履修せずに臨地実習を履修する人は、ガイダンスおよび別に指定する授業を受けることが望ましい。</li> <li>・コースは3年前期に選択します。3年後期の指定した授業から「公衆栄養学」選択クラスと「給食経営管理論」選択クラスに分かれて授業を行います。</li> <li>・PCを使用することがあります。</li> </ul>						
教科書	プリントを配布します。						
参考書							

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨地実習（給食経営管理論）						
担当教員	作田 はるみ					科目ナンバー	N04600
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	給食全般のマネジメントができるように視野を広げ、特定の業務を深く探求する実習。						
授業の概要	実践活動の場での課題発見、解決を通して栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。						
到達目標	各種の給食施設のシステムについて課題を挙げ、課題について調査した内容を発表することができる。【態度・志向性】						
授業計画	臨地実習（5日間） 1日目 給食システムの概要 2日目 研究課題の計画 3日目 給食施設の衛生管理 4日目 研究課題の整理と検討 5日目 研究課題の発表と意見交換						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実習期間外に実習施設との打ち合わせおよび研究課題の準備が必要になります。						
授業方法	実習（学外） 講義と演習						
評価基準と評価方法	実習施設の評価50% 研究課題（実習ノートの記録）25% 報告会（配布資料の作成・プレゼンテーション）25%						
履修上の注意	連絡や報告には、manabaを使用する。 実習施設ならびに教員、実習メンバー間の連絡・報告・相談を徹底すること。 「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「臨地実習（給食経営管理論）」の履修要件となっている授業への出席が必要です。 35～45時間の臨地実習（給食経営管理論）および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 実習期間および打ち合わせ時の交通費は自己負担となる。 実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。						
教科書	実習ノートを配布する。 以下全て購入済み 給食経営管理論 片山直美ほか（みらい） 給食経営管理実習ワークブック 藤原政嘉ほか（みらい） 改訂新版 大量調理－品質管理と調理の実際－、殿塚婦美子（学建書院）						
参考書	新版 トータルクッキング 大喜多祥子（講談社） イラストでみる はじめての大量調理 殿塚婦美子（学建書院） 調理場における衛生管理&調理技術マニュアル 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課（学建書院）						



科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨地実習（公衆栄養学）						
担当教員	千歳 万里					科目ナンバ-	N04590
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	1.0
授業のテーマ	保健所および保健センターの管理栄養士業務						
授業の概要	実践活動の場で課題の発見、解決を通して、根拠に基づく適切な栄養マネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技術を習得させることを目的とする。そのために「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」の実習目的に資するよう、医療施設、特定給食施設、保健所・保健センターで実習し、学内で習得した知識・技術を、理論と実践を結びつけて理解する。						
到達目標	都道府県における行政栄養士の業務、責務・役割を理解し、公衆栄養活動が実践できる。【態度・指向性】						
授業計画	課外授業 第1回 臨地実習の概要、目的、内容 第2回 課題の実施、発表 第3回 課題の実施、発表 第4回 課題の実施、発表 第5回 実習施設からの課題の実施 第6回 事後指導  実習施設での実習（5日間） 1日目 集中講義 2日目 栄養関連事業の演習・課題の作成 3日目 栄養関連事業の演習・課題の作成 4日目 栄養関連事業の演習・課題の実施 5日目 反省会・まとめ  総合演習 第15回で学内報告会を行う。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	臨地実習期間または「臨地・校外実習課外科目」の時間以外に、実習施設との打ち合わせおよび課題の準備が必要になります。						
授業方法	実習（学外）：5日間の学外実習および「臨地・校外実習課外科目」において、実習の事前事後学習を行う。						
評価基準と評価方法	実習 50%（実習指導者による実習中の評価を含む） 事前事後指導、事前課題への取り組み、報告会および実習ノートの記録等の評価 50%  実習施設の評価点：実習施設の評価を点数に換算して評価する。 事前指導、事後指導および実習ノートの記録等の評価：事前学習、事後学習への取組の態度、報告会の内容および提出した実習事前学習ノートなどの取り組みを総合的に評価する。 実習日数の不足、課外授業の欠席やレポート未提出の場合には単位を認めない。						
履修上の注意	・「臨地・校外実習課外科目（集中講義）」の「臨地実習（公衆栄養学）」の履修要件となっている授業への出席が必要です。履修要件となる授業は、別にプリントで指定します（臨地・校外実習課外科目は、単位化されません）。 ・30～45時間の臨地実習（公衆栄養学）の学修および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。 ・実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。 ・3年後期の選択必修科目「調査・データ処理実習」を履修することが望ましい。 ・実習期間中の交通費（1日1500円以上）及び宿泊費（宿泊を伴う場合のみ）は、大学側が負担する。ただし、打ち合わせ時の交通費は自己負担となる。						
教科書	現場で役立つ公衆栄養学実習 同文書院（2015年3月）ISBN-13:978-4810314335（3年後期公衆栄養学実習で使用するため新たに購入の必要なし）						
参考書	日本人の食事摂取基準2020年版（第一出版） 国民衛生の動向2020年版（公衆衛生協会） 管理栄養士栄養士必携：データ・資料集（第一出版）						

科目区分	食物栄養学科専門教育科目						
科目名	臨地実習（臨床栄養学）						
担当教員	溝畑 秀隆					科目ナンバ-	N04580
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	病院臨地実習「臨床栄養学」は、10日間グループごとに指定された実習先に行き実習をする。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた栄養管理が理解でき、管理栄養士業務について理解する。						
授業の概要	実践活動の場で課題の発見、解決を通して、根拠に基づく適切な栄養マネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識および技術を習得することを目的とする。そのために「臨床栄養学」の実習目的を達成するため「医療施設」で実習し、学内で修得した知識・技術を、理論と実践に結びつけて理解する。						
到達目標	(1) 傷病者について、予備知識がない人がわかるように栄養管理を説明することができる。(知識・理解) (2) 傷病者の病態や栄養状態について、具体的なものとして栄養管理が理解することができる。(態度・志向性) (3) 日々の実習内容について、明快な文書で実習ノートを記述することができる。(汎用的技能) (4) 傷病者の病態と治療食について、具体的なものとして理解できる。(知識・理解) (5) グループのメンバーと協力して実施することができる。(態度・志向性) (6) 病院管理栄養士業務が理解できる。(知識・理解)						
授業計画	1. 臨地実習「臨床栄養学」の目的、教育目標、実習の目的、具体的な目標、医療機関の基本的な考え方、献立管理、衛生管理、経営管理、備品管理などの説明 2. 栄養アセスメントに用いられる身体的計測のパラメータと判定基準 3. 栄養アセスメントに用いられる臨床検査と基準値 4. 医療用語 5. 実習終了後、グループごとの反省会 6. 病院臨地実習「臨床栄養学」のグループごとの発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	病院実習前学習：病院実習先、課外科目について、下調べをすること。(学習時間：2時間) 病院実習後学習：実習で理解(解決)できなかったことについて、グループごとにディスカッションを行う。実習の内容結果について、各自で実習ノートを作成する。(学習時間：2時間)						
授業方法	講義：内容に沿った授業を行う。またテーマに沿ったディスカッションを行う。 病院実習：10日間グループごとに指定された実習先に行き実習をする。指導責任者の指示に従うこと						
評価基準と評価方法	実習態度：実習施設の評価点：50%、実習ノート30%、事前・事後指導の実習態度20% 実習態度：実習への取り組み、グループディスカッションへの参加度により、総合的に評価する。到達目標：(1)(2)(4)(5)(6)に関する到達度の確認。 実習ノート：実習結果をもとにした実習ノートが作成できているか評価する。到達目標：(3)に関する到達度の確認。尚、実習ノートの評価後は、各自に返却する。						
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨地・校外実習課外科目の臨床栄養学の履修要件となっている授業に出席すること。(臨地・校外実習課外科目は、単位化されない。)</li> <li>・ 90時間の臨地実習（臨床栄養学）および臨地・校外実習課外科目の出席をもって1単位とする。</li> <li>・ 実習期間中の欠席は、原則認めない。事前訪問、実習期間中の交通費は自己負担となる。</li> <li>・ 抗体価検査は、麻疹・風疹・水痘・ムンプスが陰性および「抗体価陽性(基準を満たさない)」の場合、ワクチン接種が必要である。ワクチン接種の領収書(証明書)を共同研究室に提出すること。尚、ワクチン接種は自己負担とする。(病院によりHBs抗原検査もある。別途指示)</li> <li>・ 病院実習までに「栄養士をめざす学生の研修会」へ参加することが望ましい。</li> <li>・ 病院と給食管理実習で3週間行く場合は、経路以外の定期を買うことができます。学生課に1ヶ月半前に申請をすること</li> <li>・ 病院実習中に必須科目を履修している方は、欠席届(教務課)を事前に担当の先生に提出をすること</li> <li>・ 住所、電話番号(携帯)を変更した際は、学生課、共同研究室、病院実習担当者に連絡すること</li> </ul>						
教科書	プリントを配布する。						

参考書	奈良信雄著『看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック第5版』（医歯薬出版）
-----	--